

令和6年度 第六回TDPFコミュニティイベント

令和7年2月14日（金曜日）

本日の次第

1	開会挨拶・ 事務局からのお知らせ	東京都デジタルサービス局
		一般財団法人GovTech東京
2	採択プロジェクトの成果発表	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社・一般社団法人渋谷未来デザイン 「各種交通データを活用したまちづくり推進プロジェクト」
		株式会社IP DREAM 「地域一体で育成する『多言語対応AIコンシェルジュ』プロジェクト」
		沿線まるごと株式会社・株式会社リクルート 「持続可能な観光地経営モデルの推進プロジェクト」
		全国油脂事業協同組合連合会・アールイー株式会社 「家庭系廃食用油トレーサビリティシステム構築プロジェクト」
		東京海上レジリエンス株式会社 「要配慮者の個別避難トータルサポートプロジェクト」

1. 開会挨拶

東京都デジタルサービス局
データ利活用戦略担当課長 兼
スマートシティ・データ連携担当課長
大隈 啓祐

TDPFの歩み

TDPF稼働開始

- ✓ 会員数163者にてスタート

R6.1

ケーススタディ採択

- ✓ 先駆的なデータ利活用のユースケースとして5つのプロジェクトを採択

R6.7

ポータルサイト リリース

- ✓ 会員プロフィール・データ活用事例等の発信が可能に

R6.11

コミュニティイベント始動

- ✓ 会員間の共創促進を目的としたコミュニティイベントを開催

R6.5

300者の会員が参画

- ✓ 多様な官民の会員が参画するプラットフォームに成長

R6.10

ケーススタディ成果発表

- ✓ プロジェクト成果の発表

R7.2

令和7年度の取組について



① 交流機会の創出

② 伴走型サポート

③ ケーススタディ事業

目的：会員間の共創によるデータ利活用のユースケースを創出

①交流機会の創出

イベントやポータルサイトを通じて、会員間の共創を促進

コミュニティ
イベント



- TDPF会員のデータやソリューション等を紹介
- 会員間で直接交流ができるネットワーキングを実施

令和7年度は分野を拡げて開催します

利用者
ポータルサイト



- 「会員プロフィール」：会員のプロフィール等を掲載
- 「活用事例」：データやソリューションの他、他の会員へ共有したい情報を発信

「会員プロフィール」・「活用事例」をぜひご活用ください

② 伴走型サポート

利用者ニーズに応じた相談対応やデータ・ソリューションの紹介など、
様々なサポートを東京都とGovTech東京が協働して実施

②こんなデータがある
けど、ニーズあるかな？

③こんなソリューションが
あるけど、連携できそうな
会員さんいるかな？

②こんなニーズがある
ならTDPFにデータを
掲載してみよう！！

③この会員と連携したら
自社のソリューションを
活かそう！！

①こんなデータがある
といいのだけど…



④データ整備って何し
たらいいの…

①このデータなら使え
るかも！！



④データ整備の概要
は分かったかも
やってみよう！！

アドバイザーサービス



ニーズにマッチする他の会員やデータの紹介など、
専門的知識を持ったアドバイザー陣による支援

③ケーススタディ事業（案）

目的

- 官民のデータ連携を促進する先駆的なプロジェクトを選定・支援
- プロジェクトを通じて得られたデータやノウハウを発信することで、会員間のコミュニティ活動を活性化させるとともに、会員拡大を図る

応募要件

- 複数データの掛け合せであること
- TDPFに連携できるデータの有効性が具体的に示されていること
- 得られた成果の発信により会員間の連携を促進すること
- 東京都の社会課題の解決に繋がるプロジェクトであること
- サービス創出に向けた計画に実現性があること

募集内容

- 防災・観光・エネルギー・交通・ウェルネス分野など、幅広く「社会的課題の解決」に資するテーマのプロジェクトを募集します

募集時期

令和7年5月中旬頃より募集開始（予定）

本事業は、令和7年度の歳入歳出予算が東京都議会において可決された場合に確定します。

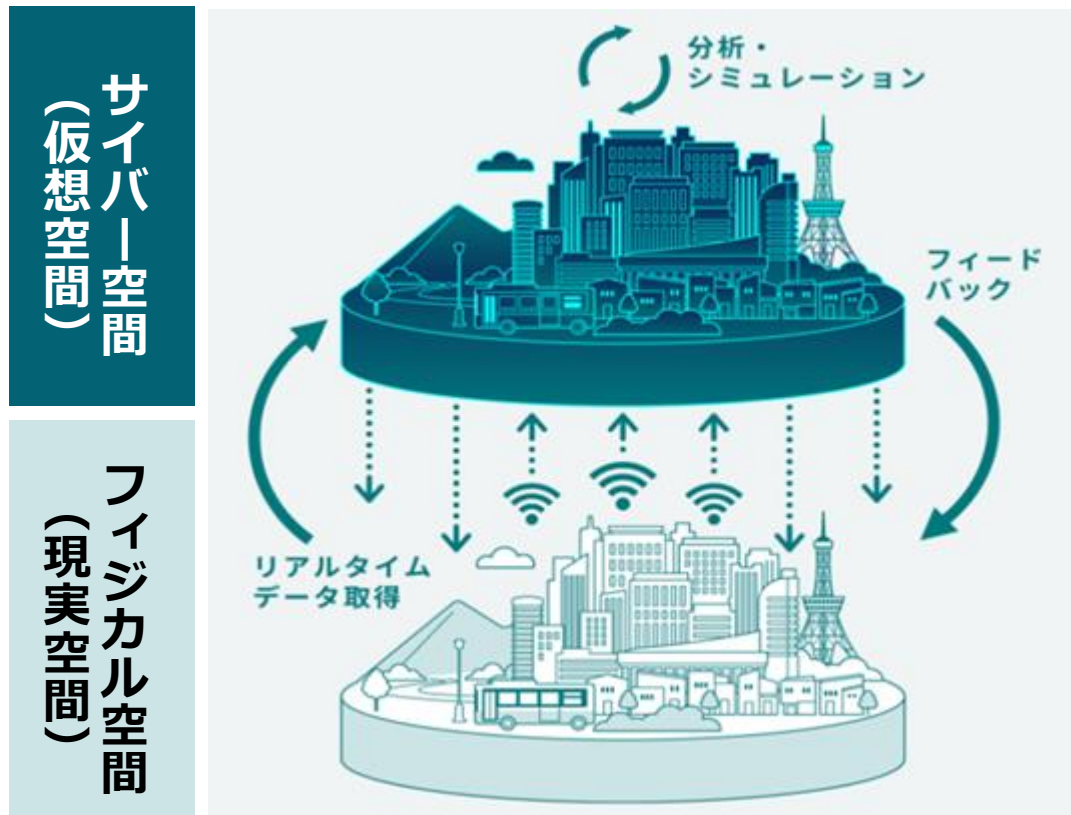


東京都デジタルツイン実現プロジェクト

デジタルツインとは

- フィジカル空間をサイバー空間に再現し、「双子（ツイン）」を構築・活用
- スケールの異なるデジタルツインが存在

デジタルツインの概念



デジタルツインのスケール

狭域・詳細

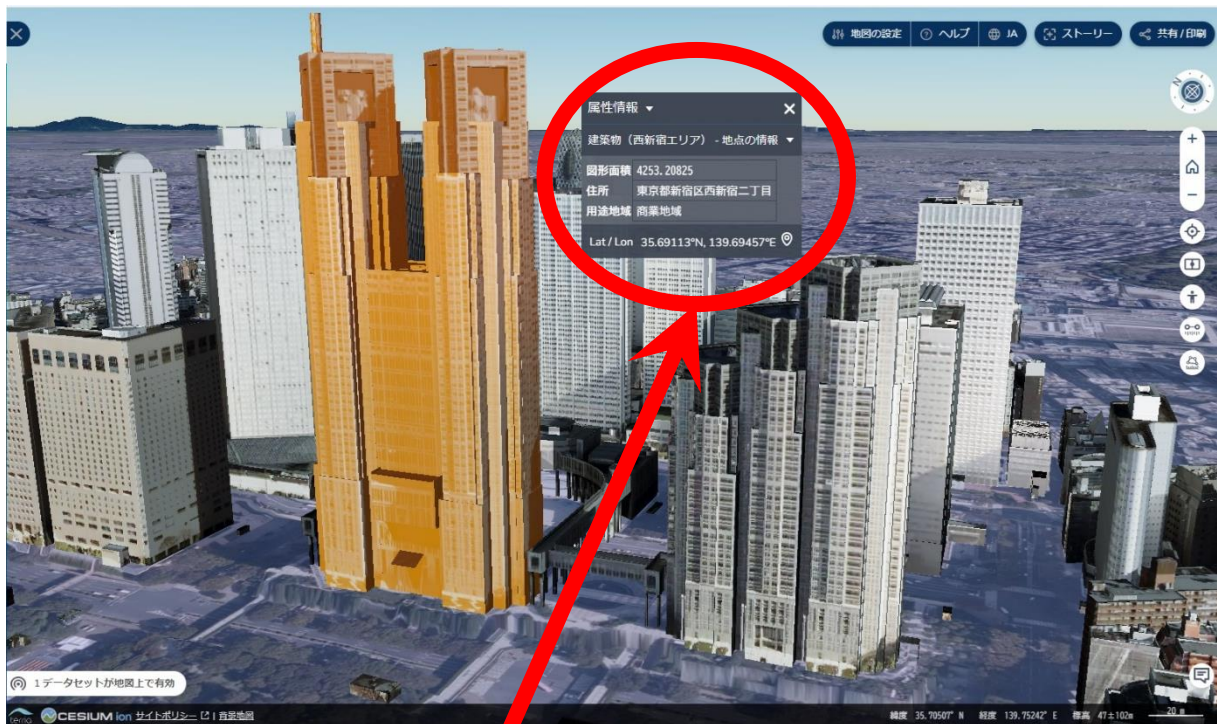
デジタルツインのスケール

広範囲

製造業のデジタルツイン	資材調達・製品設計・生産ライン・工場全体等 (自動車、航空エンジン等)
建設業のデジタルツイン	高層ビル・構造物全体、 重機走行ルート等
エリアのデジタルツイン	特定エリア全体 (街区、スマートシティ、空港、 港湾等)
都市のデジタルツイン	都市全体

東京都デジタルツイン3Dビューアを紹介（1）

【西新宿エリア 3次元建物モデル】



対象の建物モデルの属性情報
(例：名称／住所／等)
の確認が可能

【能登半島3次元点群データ(発災前後比較)】

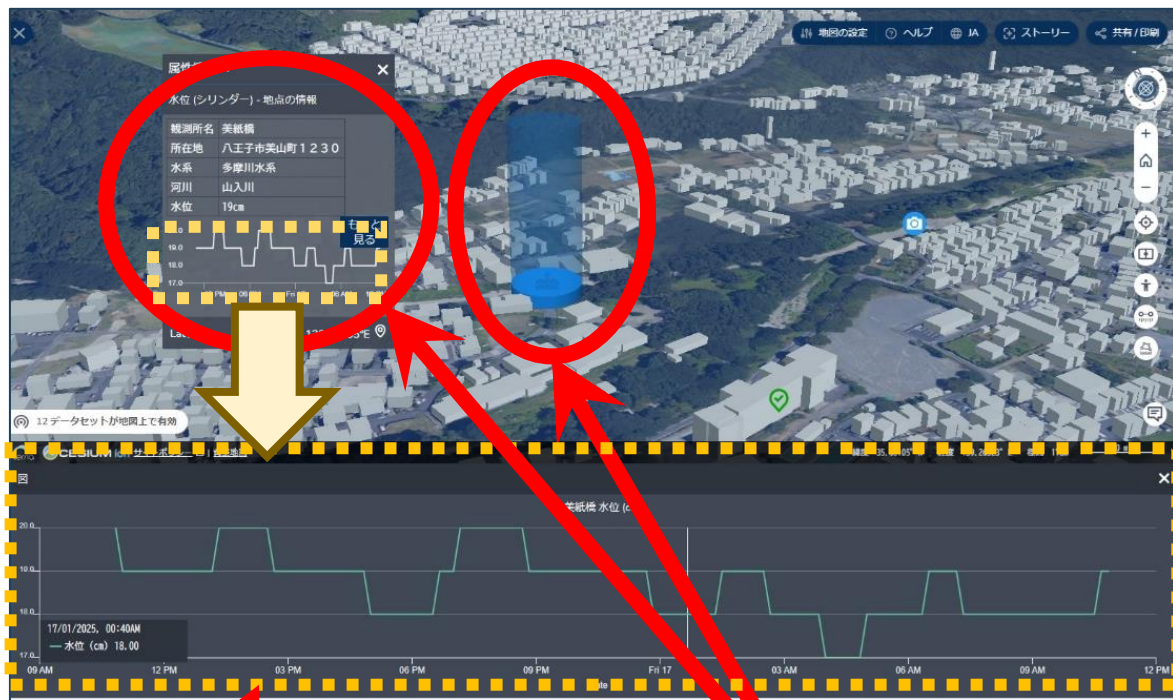


【画面左】発災前
【画面右】発災後
⇒左右にスライドさせて相違を可視化

【保有機能例】
表示分割機能

東京都デジタルツイン3Dビューアの紹介（2）

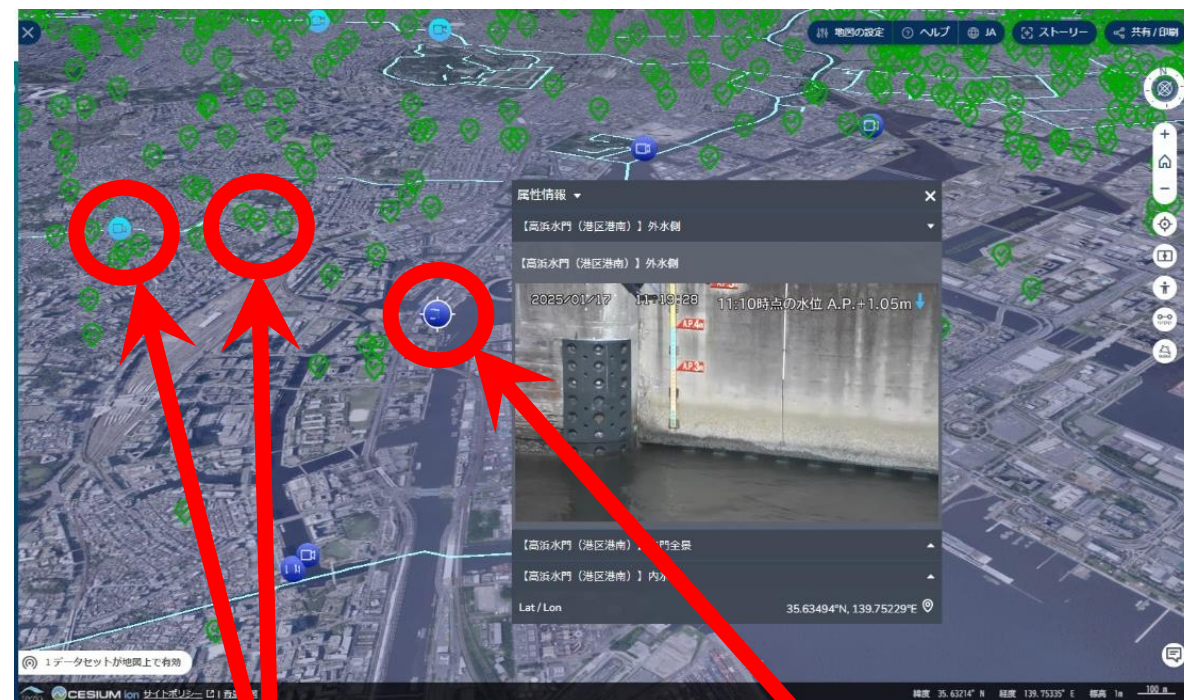
【リアルタイムデータの表示例：水位データ】



属性情報の一部を拡大して表記

20秒毎にデータが更新され、
最新の情報を確認できます

【各種データの重畳例：防災関係データ】



-  避難所
-  河川監視カメラ

東京都高潮防災チャンネル 海面ライブカメラ

東京都デジタルツイン3Dビューアの紹介（3）

➤ 東京都3DビューアURL

<https://3dview.tokyo-digitaltwin.metro.tokyo.lg.jp/>
（専用ソフトウェアは不要。誰でも無料で利用可能）



➤ 掲載データは700以上（2025年1月時点） ※今後も随時追加掲載

データセット カテゴリ				
ユースケース・実証成果	地下通路モデル	点群データ	河川	暮らし・生活
建築物モデル	都市設備モデル	ライブカメラ	交通	路線価
道路モデル	植生モデル	国勢調査	環境	サテライトオフィス
橋梁モデル	都市計画決定情報モデル	防災	各種施設情報	地図要素

掲載データのうち、「3次元点群データ」（小笠原諸島を除く都内全域）は
オープンデータとなっており、ダウンロードして利活用が可能

掲題データを活用したサービス等を開発された方又は開発事例をご存じの方は、是非ご一報ください。
東京都からご連絡させていただき、内容やご意向を確認の上、デジタルツイン実現プロジェクトの
サイト等で紹介させていただきます

1. コミュニティの活性化

一般財団法人GovTech東京
テクノロジー本部 データ利活用グループ
エキスパート
櫻川 輝和

プロフィール、活用事例の登録ありがとうございます

会員登録

315 件

データ登録

8,546 件

会員プロフィール

65 件

活用事例

27 件

会員からのデータ登録件数を増やしたい

会員登録

315 件

会員プロフィール

65 件

データ登録

8,546 件

会員からのデータ登録(30)

活用事例

27 件

会員の皆様に登録して頂いているデータのうち、 人流、事業所、求人情報のデータを活用

ファイル/リンク情報



OTHER
公開

ポイント型流動人口データ

緯度・経度単位のピンポイントの場所の人の動きを最短1分単位で細やかに把握できます。ま

製造・流通

防災

観光

交通

株式会社Agoop

ファイル/リンク情報



OTHER
公開

日本国内40億件の求人データベース

150以上の国内求人サイトから週次でデータを取得し、2014年以来蓄積されてきた過去データ

メディア

マーケティング

サービス

民間企業

日本ソフト販売株式会社

© GovTechTokyo

ファイル/リンク情報



OTHER
公開

全国企業・店舗データ（最新、過去）

企業電話帳データ（グリーンページ®）に、ウェブから収集したチェーン店舗情報と、国税庁

施設

地図

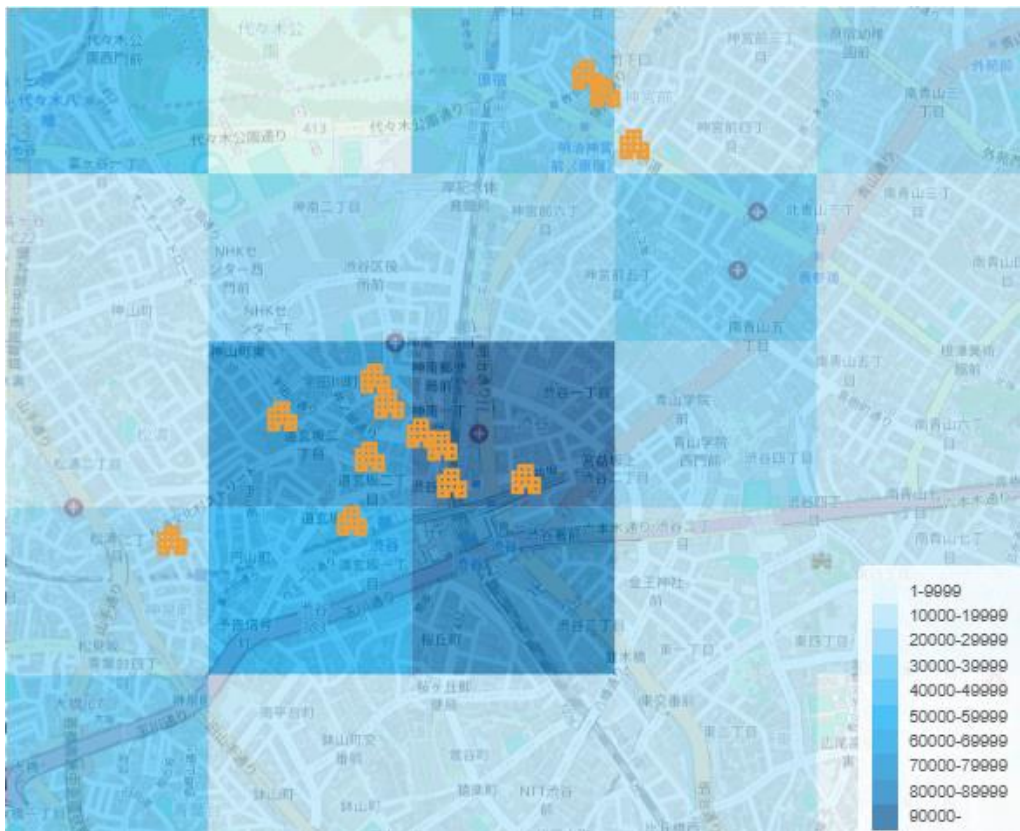
飲食

マーケティング

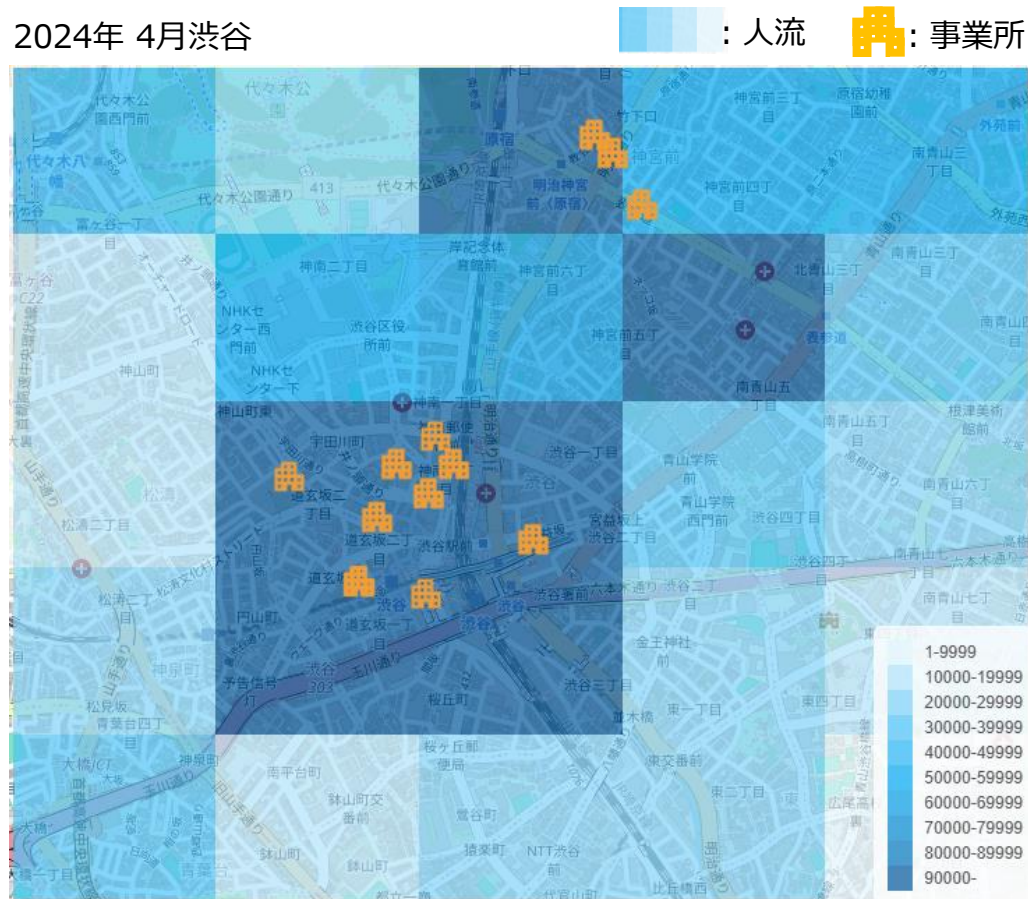
株式会社フロッグ

“人流データ”と“事業所データ”の 2つを掛け合わせた事例

2020年 4月渋谷



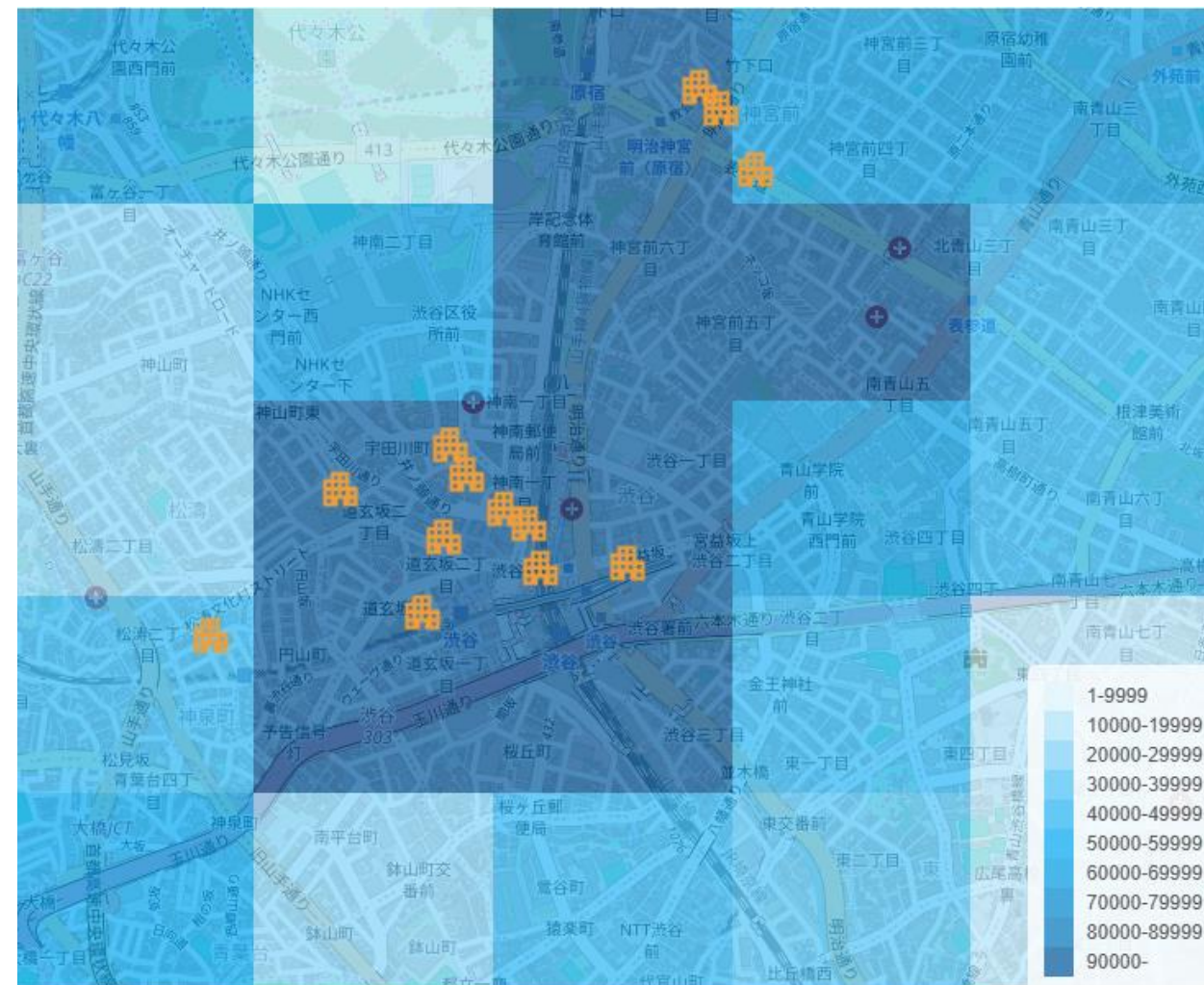
2024年 4月渋谷



出典：株式会社Agoop、日本ソフト販売株式会社

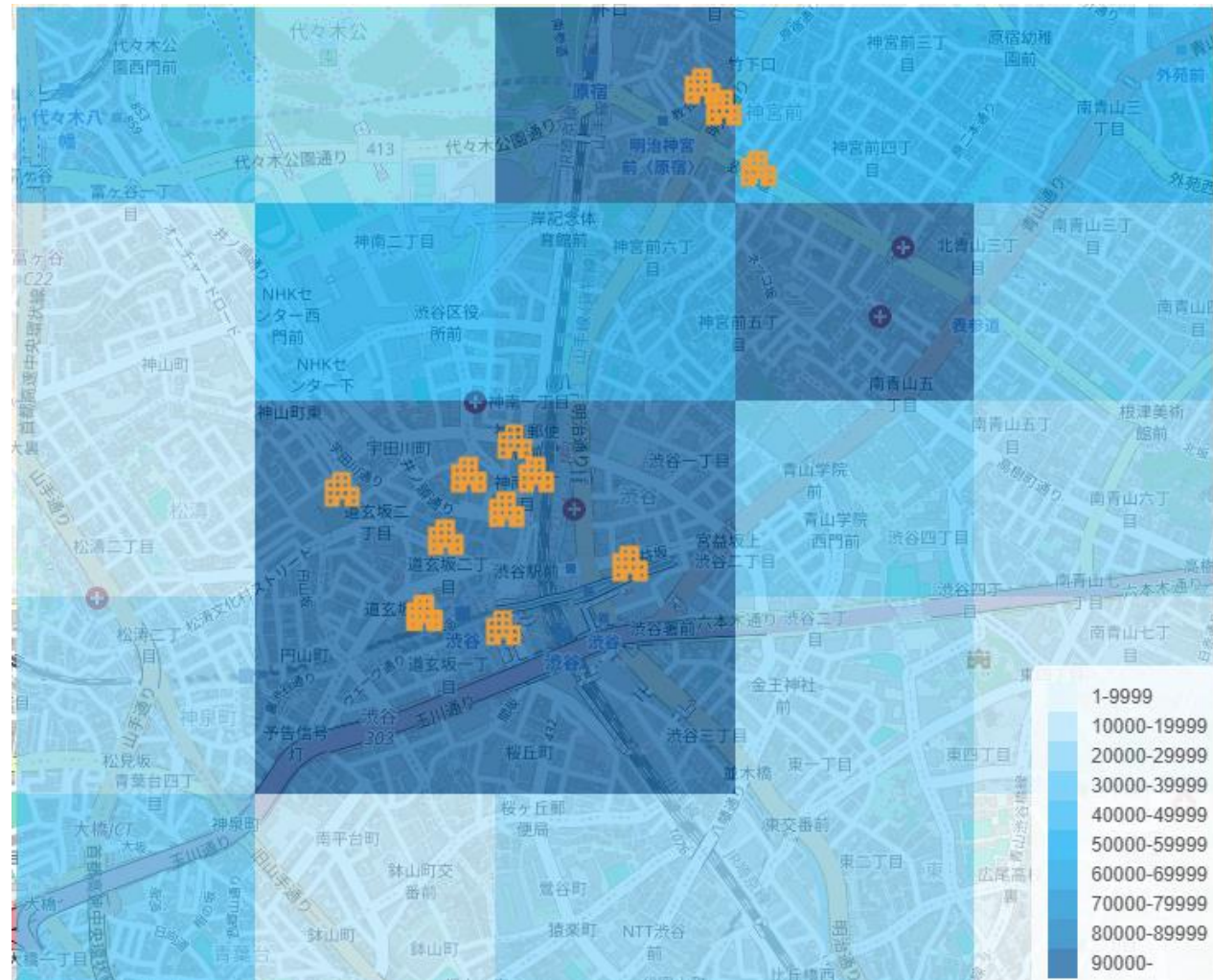
可視化事例の検討（民間データ）

2019年10月渋谷



2024年 4月渋谷

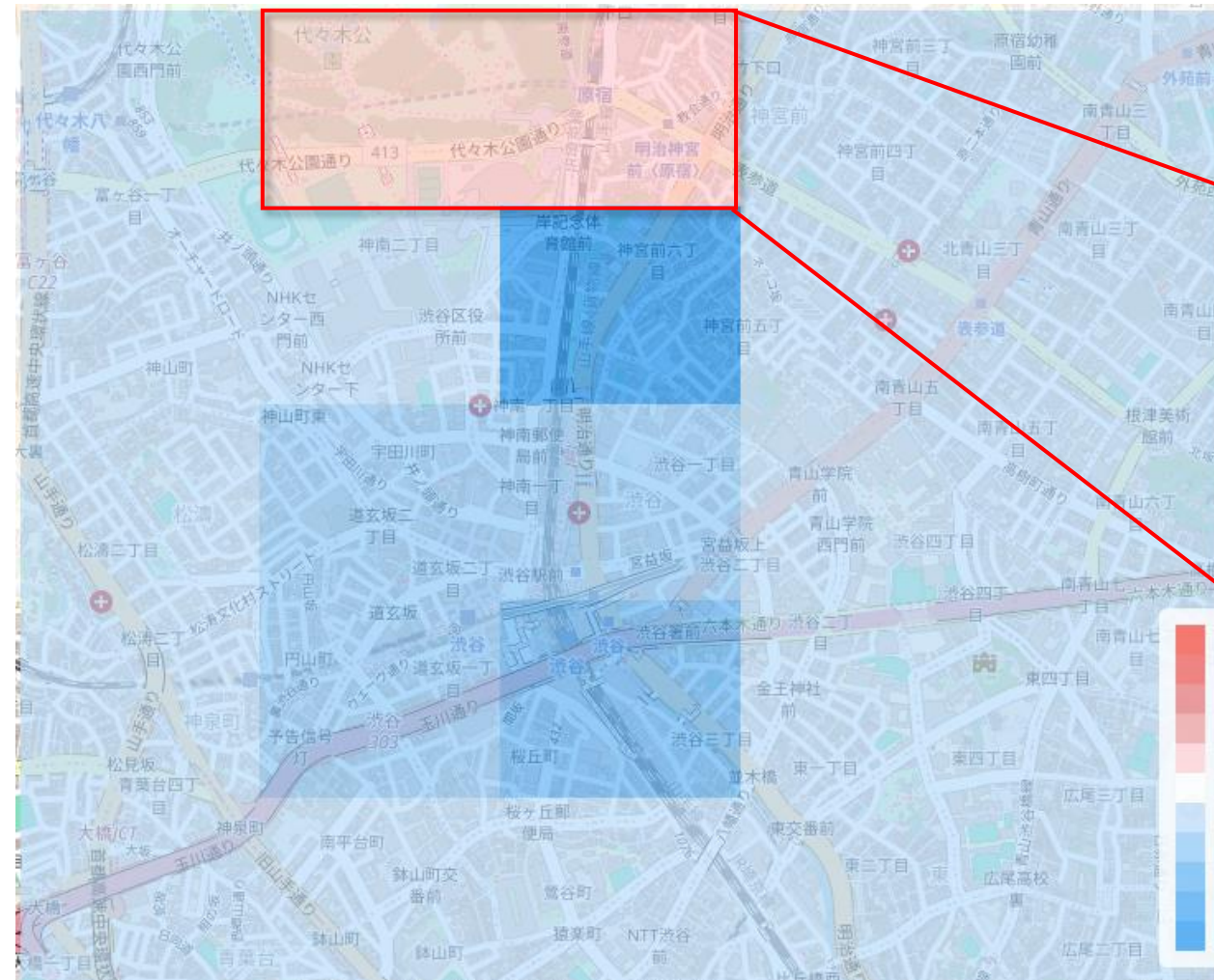
：人流 事業所



出典：株式会社Agoop、日本ソフト販売株式会社

可視化事例の検討（民間データ）

2019年10月-2024年4月の滞在人口の変化



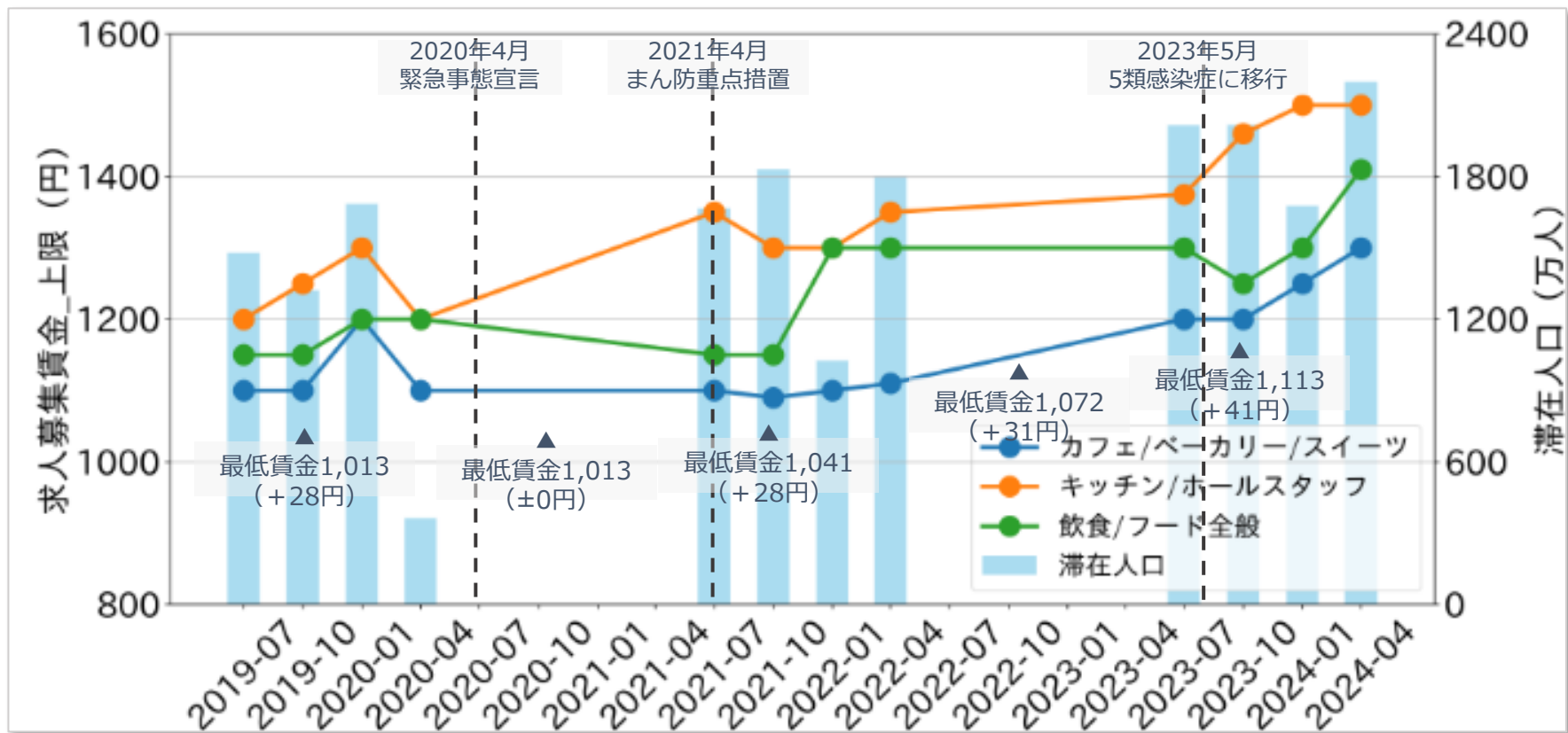
左図の赤いエリアをピックアップ



出典：株式会社Agoop、日本ソフト販売株式会社

“人流データ”と“求人情報データ”の 2つを掛け合わせた事例

2019年7月～2024年4月 渋谷



出典：株式会社Agoop、株式会社フロッグ

オープンデータだけで可視化した事例

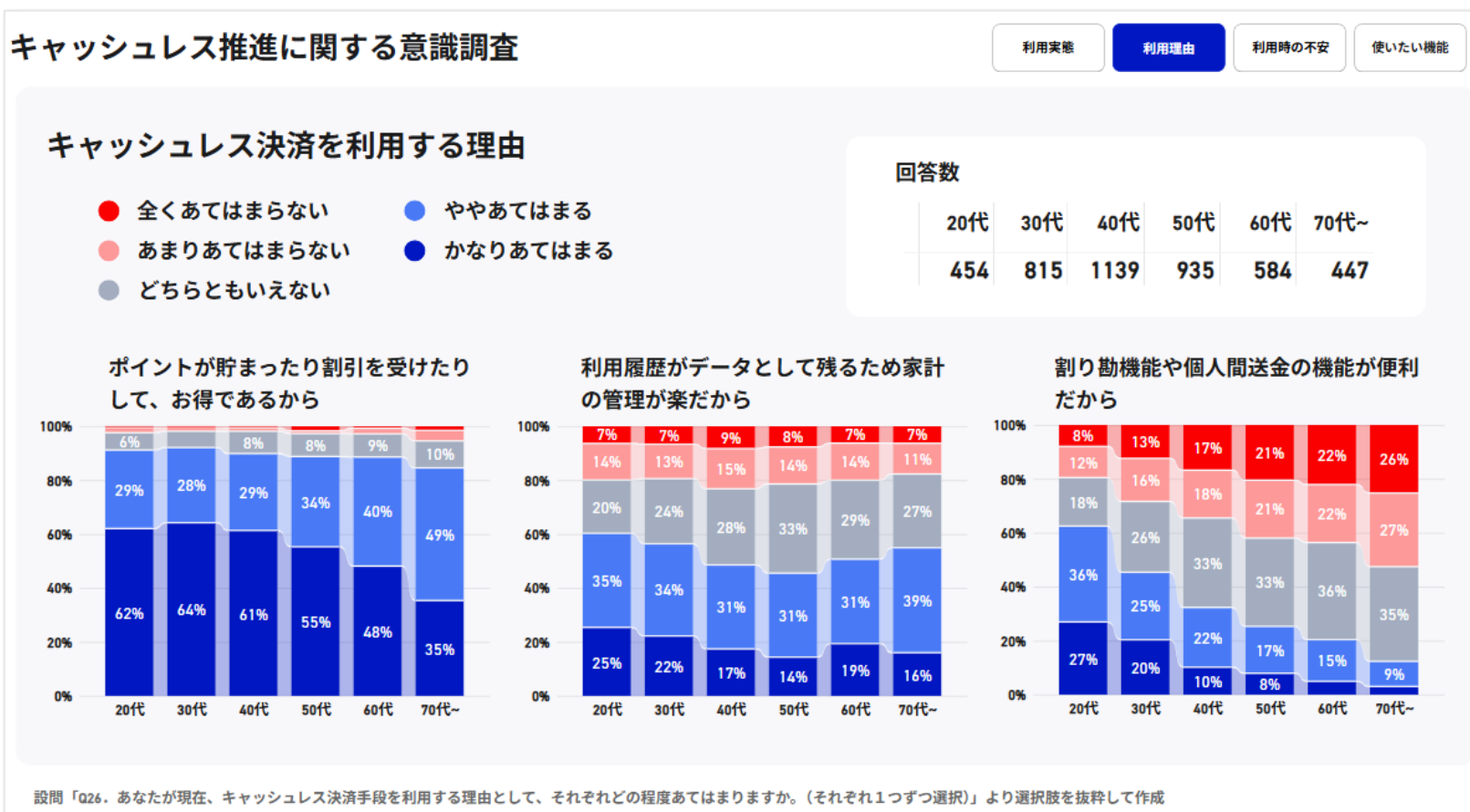
東京都の図書館のマップと利用実態（利用者数・図書館の地域分布）



出典：東京都公立図書館調査 令和6年 / 施設関連情報 図書館 / 東京の公立図書館情報

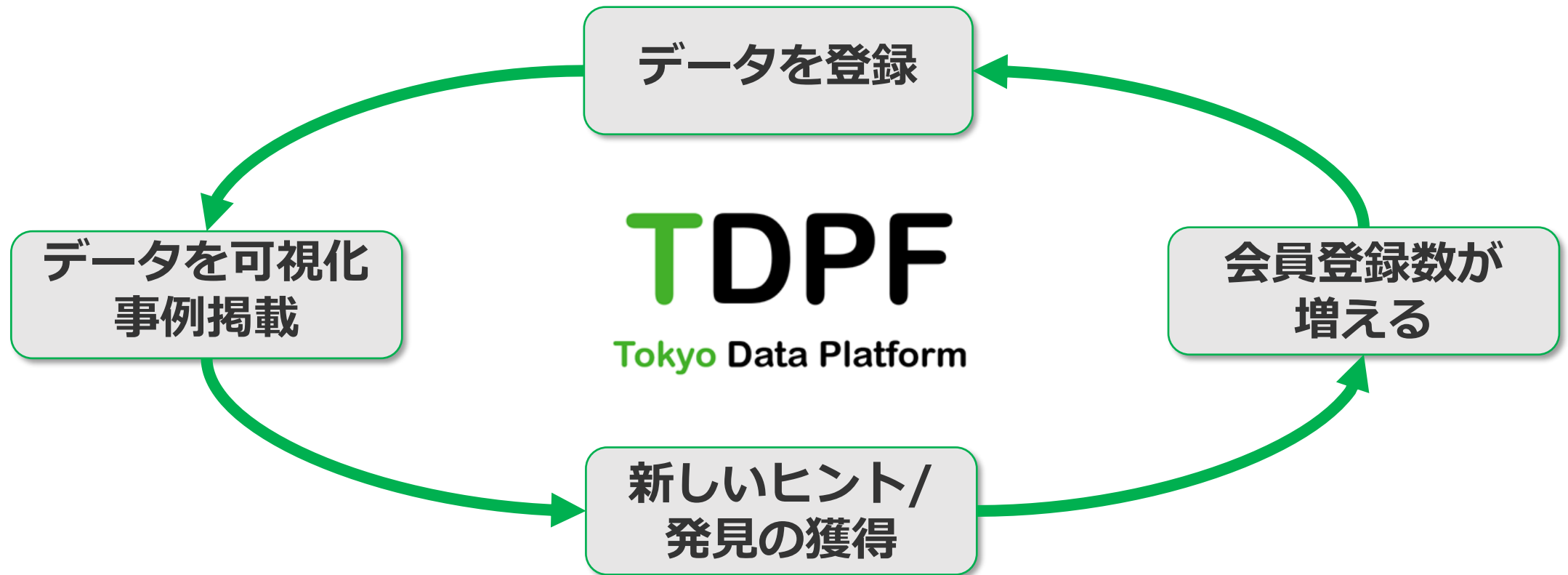
オープンデータだけで可視化した事例

キャッシュレス推進に関する意識調査（キャッシュレス決済を利用する理由）



出典：2023年度都内のキャッシュレス推進に関する調査事業アンケート調査結果

データがあるだけでは新しいヒントは得られにくい
可視化事例を発信することで好循環のきっかけに



2. 採択プロジェクトの成果報告①

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
デジタルビジネスデザイン部
データソリューショングループ 主席スペシャリスト
山田 武史 氏

一般社団法人渋谷未来デザイン プロデューサー
菅野 太郎 氏

第六回TDPFコミュニティイベント発表資料

各種交通データを活用したまちづくり 推進プロジェクト

MS&AD

あいおいニッセイ同和損保

LUUP

esri ジャパン

Pacific
Spatial
Solutions



一般社団法人 渋谷再開発協会
SHIBUYA REDEVELOPMENT ASSOCIATION



渋谷未来
デザイン

Agenda

1. プロジェクト概要

2. 取り組みの概要

3. 分析内容

4. 分析モデルケース

5. 今後の展望

1. プロジェクト概要



①プロジェクトの背景・目的

将来のまちづくりビジョン“渋谷計画2040（まちづかい戦略）”を策定

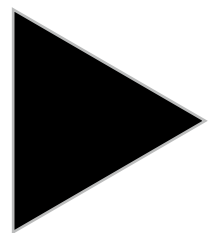
▶ヒアリングを通じ、“**まちの回遊性**”向上に注目

若年層来街者・事業者の声

- ・ごみがない清潔な空間
- ・**ゆったりとした歩道**
- ・**車を気にしない歩行環境**
- ・座れる場所、
が欲しい、etc.

有識者のコメント

- ・人が多く、歩道橋が多く**街中の移動がしづらい**
- ・スクランブル交差点やハチ公像など観光スポットが駅周辺に集積しており、地域消費につながりにくい
- ・**駅から1.5km圏内のモビリティ需要はありそう**
- ・**移動や滞留を道路空間で可視化できると良い**



本プロジェクトでは安全・快適・便利なまちづくりの実現に向け、
各種モビリティデータの連携・可視化・分析を進め、
まちの回遊性向上を通じて、都民のQoL向上を目指します

現在の課題

- 1) 交通手段の多様化に対し、動向把握が追いついていない。
- 2) 官民共通の客観的な交通データが不足している。
- 3) データを活用した施策決定や効果検証が不十分な場合がある。

各種交通データ

自動車

MS&AD

あいおいニッセイ同和損保

マイクロモビリティ
(電動アシスト自転車・電動キックボード)

LUUP

歩行者

行政データ

esri ジャパン

Pacific
Spatial
Solutions

交通動態を
マップ上に
可視化・分析

FS 渋谷未来
デザイン

一般社団法人 渋谷再開発協会
SHIBUYA REDEVELOPMENT ASSOCIATION

施策の検討
区との連携・調整

TDPF
Tokyo Data Platform

TDPFを通じて
横展開

特徴

交通データを統合し、詳細な移動データを活用して関係者協議を支援し、深いインサイトを提供する。

③プロジェクト概要（データのかけ合わせについて）

本プロジェクトのポイント

自治体様がお持ちの整備計画や陳情など深いアナログな情報と、
民間が保有する幅広いデジタル情報の掛け合わせにより、
新たな知見の創出を推進

全国的&定量的なデータ

自動車走行データ

電動アシスト自転車/
電動キックボードデータ

人流データ



ご当地的 & 定性的なデータ

住民の声・陳情に基づく
リアルな課題

地域に根差した深い知見

都市開発・交通政策に係る
各種計画



各種施策の推進

駐車場整備
駅前渋滞対策

抜け道対策
交通規制の見直し

自転車・マイクロモビリティの
安全対策

渋谷エリアでテーマを設定しフレームワークを構築し、
他地域展開向けにパッケージ化する。

④交通データ（自動車）概要

「テレマティクスデータ」は量・質ともに損保会社として随一の規模

- ◆190万超の車両による国内の総走行データ：約254億km
- ◆生活道路などの細街路もきめ細かくカバー
- ◆高頻度にデータ取得、急ブレーキ・急ハンドル・ふらつき等の運転挙動も取得

■表示例

・走行量データ



GSI, Esri, TomTom, Garmin, Foursquare, GeoTechnologies, Inc, METI/NASA, USGS Powered by Esri

・運転挙動データ



急ブレーキ
急加速

急ハンドル

速度超過

⑤交通データ（マイクロモビリティ）概要

LUUPのマイクロモビリティ（電動アシスト自転車・電動キックボード）を利用したユーザの走行データを活用し、「どこから / どこへ」「どのような道を辿って」「どのくらいの」人々が移動しているのか？を分析可能

■表示例（都内）

- ・ 目的別移動データ



- ・ 経路別移動データ



- ・ 通行量データ



- ・ 傾き等の挙動データ

2. 取り組みの概要



①エリア設定について

データに基づく分析のエリアを渋谷区内で

①住宅街モデル、②商業地モデルの2つに設定

①住宅街モデル（渋谷区内住宅街）



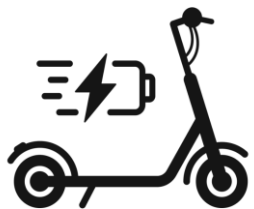
②商業地モデル（渋谷駅周辺）



②各モデルの目指す方針について

区や再開発文脈でのニーズを鑑み、分析テーマを商業地、住宅街で実施する。

区や再開発文脈でのニーズ



住宅街

データの可視化
分析を実施して
「交通安全向上」を目指す



商業地

データの可視化
分析を実施して
「まちの価値向上」を目指す



③本取り組みによるBefore・After

主に 1) 交通施策 2) 関係者協議の文脈でBefore・Afterが整理された

	BEFORE	AFTER
1) 交通施策	課題が発生してからの対応 ・ 陳情対応 ・ 実地調査による対応	課題を事前に把握して対応 ・ データに基づく 交通危険箇所の洗い出し ・ 精度の高い施策実施
2) 関係者協議	目視による調査 一般的には目視等による調査 (実地調査) をもとに警察や 地域と協議	データによる調査 データに基づく基礎調査をもと に警察や地域と協議

3. 分析内容



①分析全体像

区や再開発文脈でのニーズを鑑み、以下 3 つの分析テーマ（A・B・C）

住宅街

分析テーマA
交差点

商業地

分析テーマB
方面別駐車場

分析テーマC
抜け道対策

分析テーマA 交差点

交通施策のために、マイクロモビリティに関するデータ可視化・分析を実施

1) ニーズ

「交通安全向上」のために
効果的な交通政策を実施する必要がある。

2) 課題仮説

マイクロモビリティの普及に伴う、適切な道路交通安全の確保・拡充が求められている。

3) データセット

- ・自動車走行データ
- ・マイクロモビリティ走行データ



- ・人流データ
- ・道路情報



③分析テーマA（4）分析内容・分析結果）

4）分析実施内容

LUUP（マイクロモビリティ）の挙動に関するデータをメインにした分析

STEP1

傾き等の挙動が起きやすい箇所はどのようなエリアか

- ・ 発生傾向について定性・定量双方の観点から把握
- ・ 交差点周辺の挙動発生率を算出

STEP2

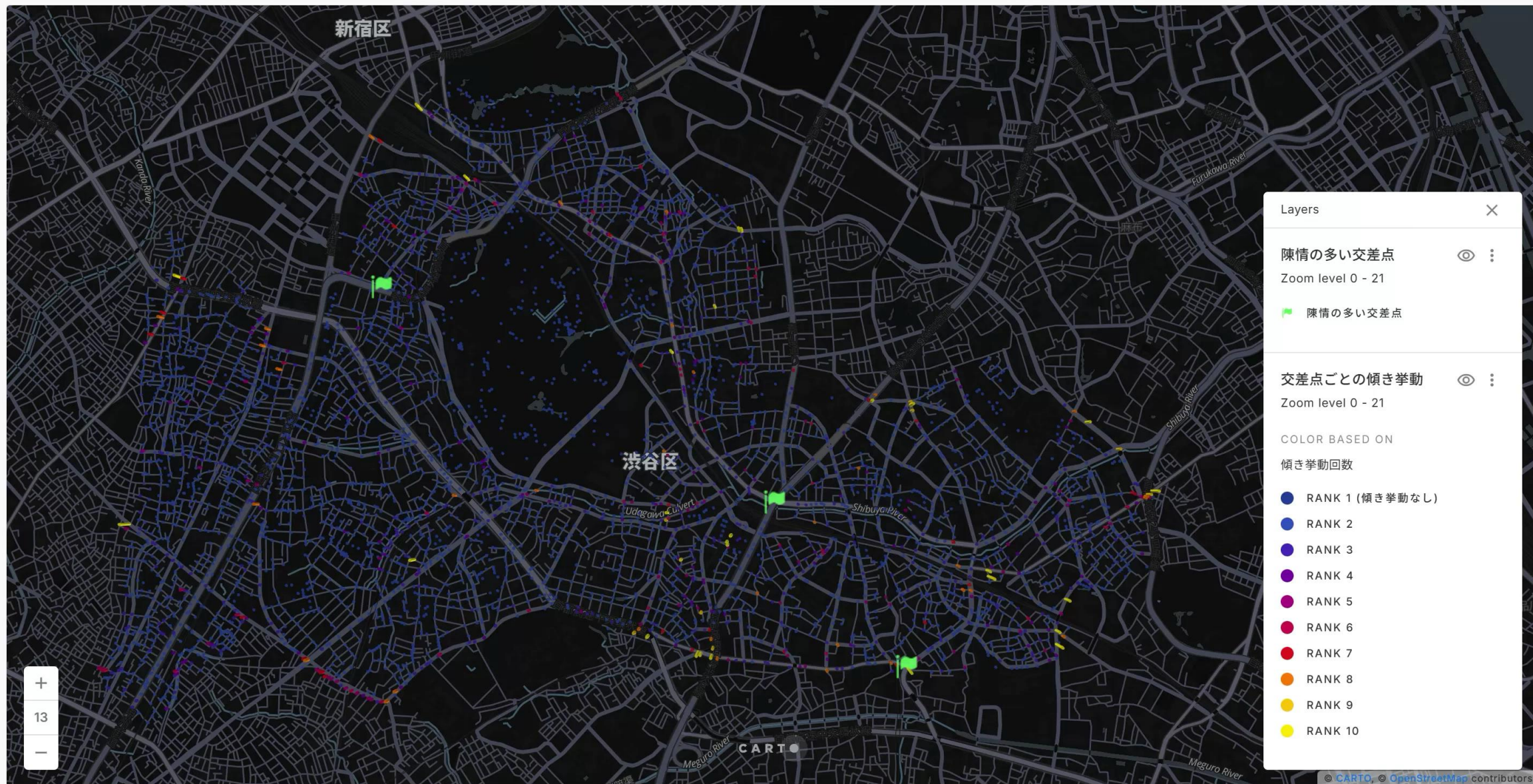
傾き等の挙動が発生しやすい交差点の特徴とは何か

- ・ 傾きの起きやすい交差点&渋谷区への陳情の内容から、トラブルが生じる可能性の高い交差点の特徴を明らかにする
- ・ 渋谷区への陳情の多い交差点が各パラメータ（交差点の特徴）のうち、どの分布域に属するのかを明らかにする

STEP3

自転車走行レーンやナビマークの設置は交通施策として適切か

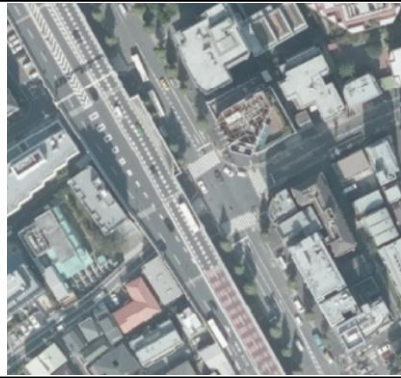
- ・ 中心線から20m以内のLUUPの挙動を道路のセグメントごとに集計する
- ・ 100mあたりのLUUPの挙動を道路セグメントごとに計算する





③分析テーマA（分析内容・分析結果）

渋谷区への陳情の多い交差点を抽出して分析を実施

	①渋谷警察署	②槍ヶ崎交差点	③代々木地域安全センター前
A住所	東京都渋谷区渋谷 3 丁目 1 9	東京都渋谷区恵比寿西 1 丁目 3 4	東京都渋谷区代々木 4 丁目
B地図			
C緯度経度	35.658049, 139.703146	35.646636, 139.702441	35.681468, 139.692830
D道路種別	都道（明治通り）× 国道（246）	都道（旧山手通り）× 都道（駒沢通り）	区道×区道
E自転車走行レーン	あり	なし	なし
F坂	あり	あり	あり

主な陳情の内容は下記の通りであった：

出典：国土地理院（<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>）

- ・ 自転車、スモールモビリティの走行速度が速い
- ・ 自転車、スモールモビリティの歩道走行
- ・ 斜め方向の横断、信号無視などの危険運転が多い

陳情の内容を踏まえ、上記 3 地点を対象に、傾き挙動以外の要素も含めて分析を実施

③分析テーマA（分析内容・分析結果）

自転車走行レーン・ナビマークの交通安全施策としての妥当性を分析



自転車走行レーンの設置箇所は、比較的安定した挙動となる傾向が見られた

※黄色のハイライト部分：自転車走行レーンの設置箇所

- ・ 道路セグメントごとに100mあたりのLUUPの傾き回数をカウント
- ・ 青：100mあたりのイベント回数が少ない道路
↔赤：100mあたりのイベント回数が多い道路



③分析テーマA（分析内容・分析結果）

STEP1

交差点周辺で傾きなどの挙動が生じやすい

STEP2

傾きの発生しやすい交差点の特徴として、下記が挙げられた

- ・ **サイズ**の大きな交差点である
- ・ **やや傾斜のある**交差点である
- ・ 各種モビリティ & 歩行者の**交通量が多い**
- ・ **複雑**な交差点である（鋭角に交わる道路がある）

STEP3

- ・ 自転車走行レーンの設置箇所は、**100mあたりの傾きの発生回数が少ない**
- ・ 一方で、**自転車走行レーンの終点（交差点）**では傾きの発生回数が多い
- ・ ②**槍ヶ崎交差点**に流入する道路は、100mあたりの傾きの発生回数が他の道路と比べて多い

分析テーマB

方面別駐車場

駅周辺の駐車場整備 & 車両交通量削減のためにデータ可視化・分析を実施

1) ニーズ

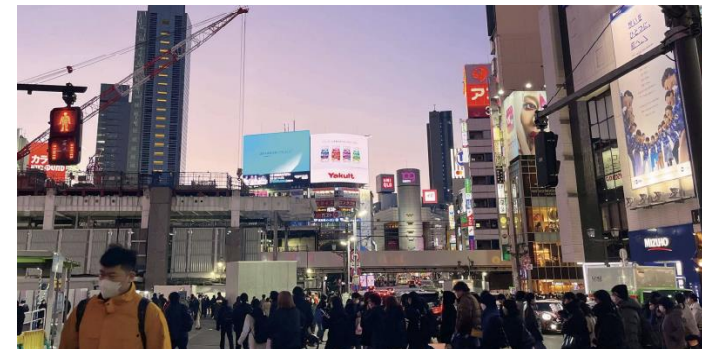
- ・ **「まちの価値向上」** のために渋谷駅周辺がウォーカブルなまちになる必要がある。
- ・ 駅前における不要な交通の発生を適切にコントロールしたい。

2) 課題仮説

渋谷駅周辺への来訪車両は方面別に近い駐車を利用していない。

3) データセット

- ・ 自動車走行データ
- ・ 整備計画情報（駐車場）



4）分析実施内容

駅周辺の駐車場整備&車両交通量削減に向けたデータ分析

STEP1

駅周辺部の駐車場へどのくらいの車が流入しているか？

- ・現地調査と車両データの整理
- ・車両の停車位置と移動ルートを可視化

STEP2

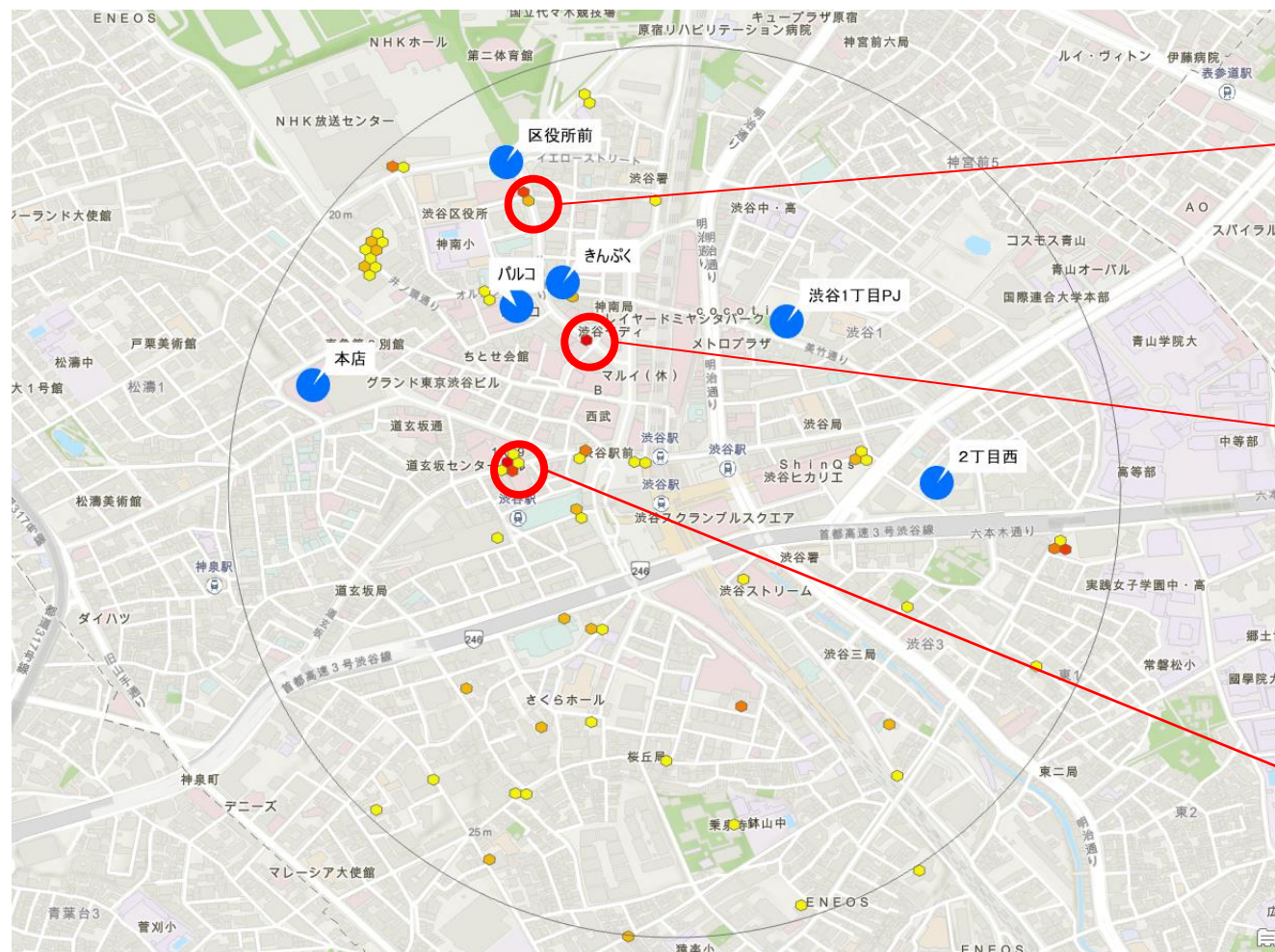
各駐車場へ流入する経路はどうなっているのか？

- ・可視化結果に基づき駐車場の整備効果を検証



⑤分析テーマB（分析内容・分析結果）

- 駐車車両の多いエリアを可視化
- 渋谷区役所前駐車場や西武駐車場、TOHOシネマズ周辺の駐車台数が比較的多い傾向



GSJ, Esri, TomTom, Garmin, Foursquare, GeoTechnologies, Inc, METI/NASA, USGS Powered by Esri



※データは個人情報を含まない形で適切に処理しています

⑤分析テーマB（分析内容・分析結果）

- 渋谷区役所前駐車場付近への駐車車両の流入経路を可視化
- 北西 & 北東からの流入が比較的多く、渋谷駅前経由の車両流入は約17%
⇒ 方面別駐車場としての一定の役割を確認

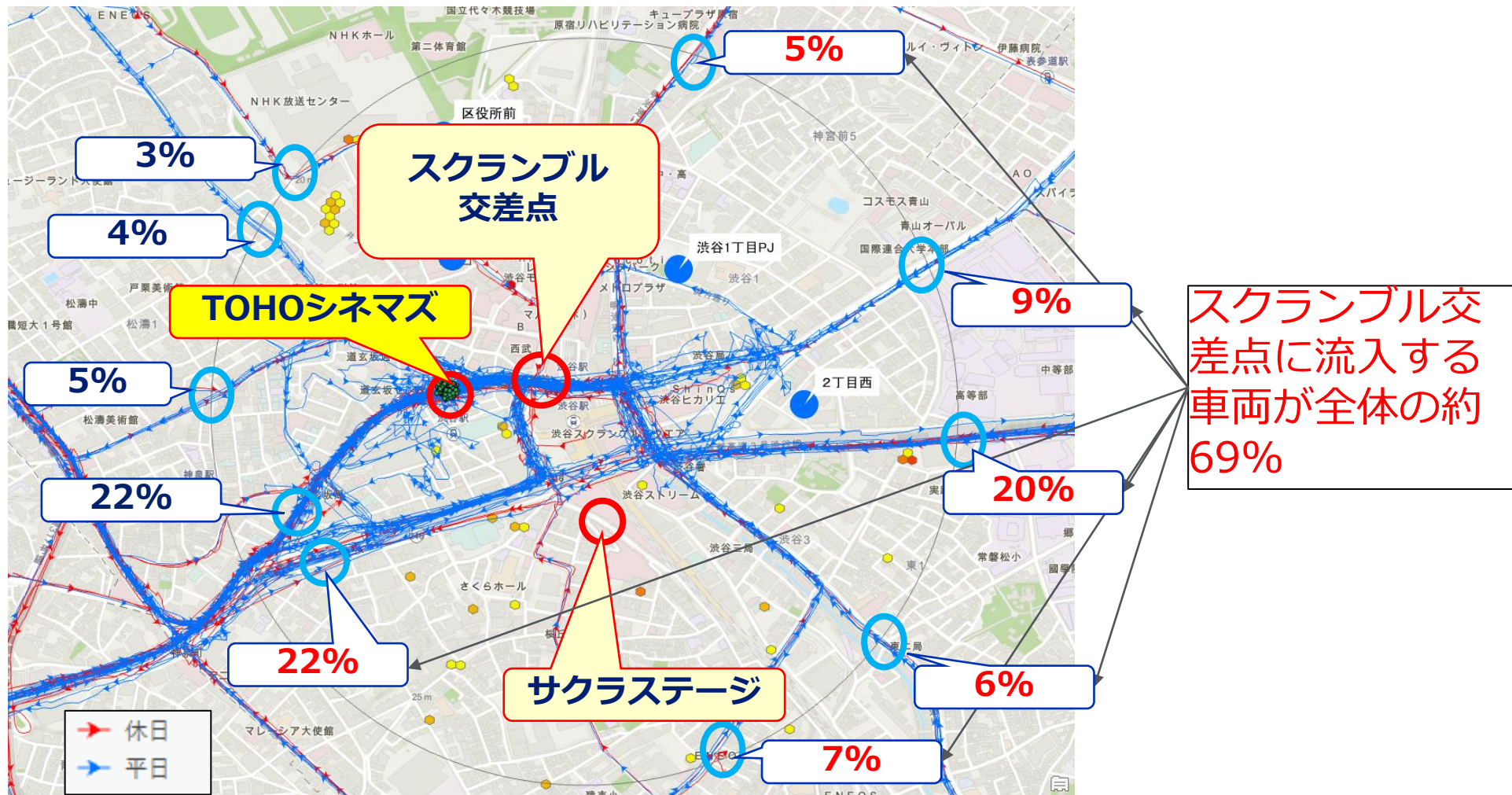
※データは個人情報を含まない形で適切に処理しています

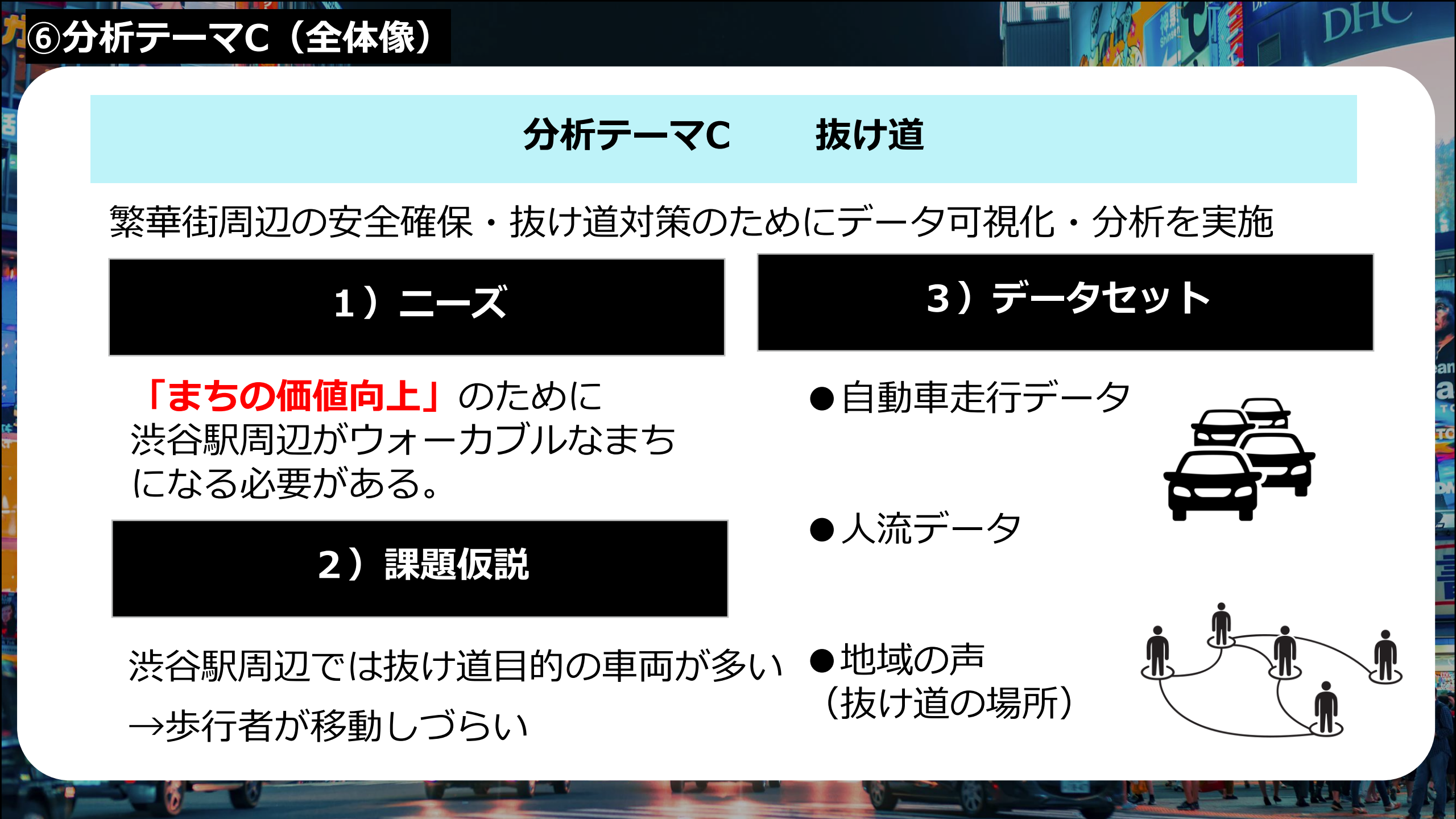


⑤分析テーマB（分析内容・分析結果）

- TOHOシネマズ付近における駐車車両の流入経路を可視化。東・西側からの流入が多い傾向
- 駅前を通過する流入が47%と課題あり
⇒例えばサクラステージに駐車誘導できれば、駅前交差点の負荷軽減が期待できる可能性あり

※データは個人情報を含まない形で適切に処理しています





⑥分析テーマC（全体像）

分析テーマC

抜け道

繁華街周辺の安全確保・抜け道対策のためにデータ可視化・分析を実施

1) ニーズ

「まちの価値向上」のために
渋谷駅周辺がウォーカブルなまち
になる必要がある。

2) 課題仮説

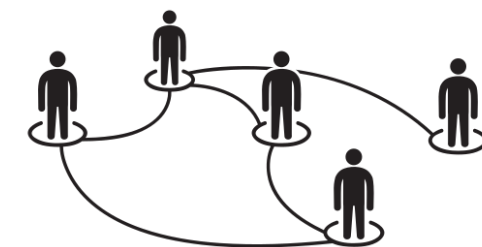
渋谷駅周辺では抜け道目的の車両が多い
→歩行者が移動しづらい

3) データセット

●自動車走行データ



●人流データ



●地域の声
(抜け道の場所)

⑥分析テーマC（分析内容・分析結果）

4) 分析実施内容

繁華街周辺の安全確保・抜け道対策に向けたデータ分析

STEP1

どのくらいの車が流入している
か？を明らかにする

- 現地調査、データ整理
- 当該箇所を通る車両の経路(OD)を分析

STEP2

当該道路の利用目的を明らかにする

- ・当該エリアへの来訪か？, 抜け道利用か？, その割合は？



⑥分析テーマC（分析内容・分析結果）

抜け道①

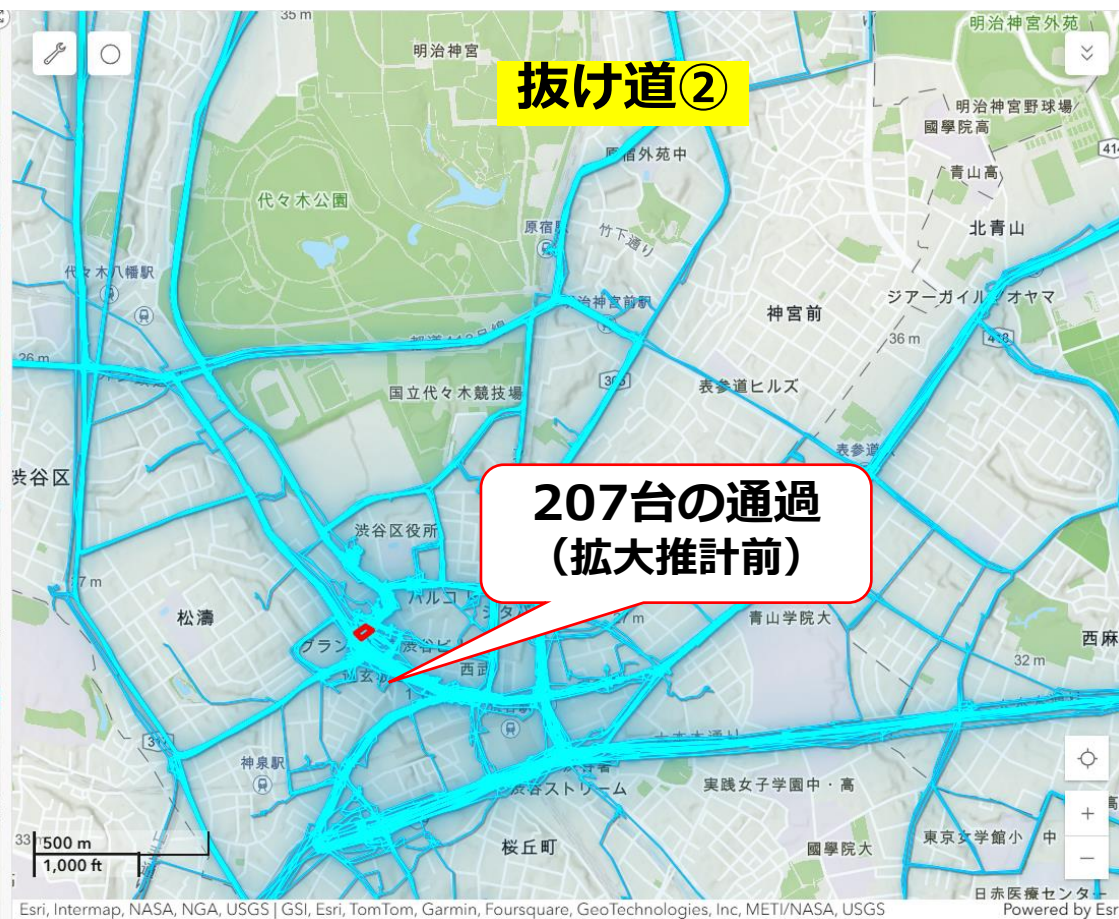
143台の通過
(拡大推計前)



データから抜け道①を通過する車両の80%は
抜け道利用と思われることが判明
⇒時間帯別通行禁止など交通規制の適用余地あり

抜け道②

207台の通過
(拡大推計前)



抜け道②を抜け道利用する車両は約40%程度
地域内交通としての利用頻度が比較的高そう
⇒区域内道路の整備・拡充の検討余地あり

※データは個人情報を含まない形で適切に処理しています。9月分のみを可視化

課題に基づく仮説

分析テーマ A 交差点

- ・電動キックボードの傾き等の挙動が起きやすい箇所はどのようなエリアか？
- ・自転車走行レーンやナビマークの設置は交通施策として有効か？

分析テーマ B 方面別駐車場

- ・渋谷駅周辺の駐車場は、各方面別の車両流入を適切に受け止めていないため、不要な交通が発生している。

分析テーマ C 抜け道対策

センター街付近の細街路を通過する車両は山手通りや明治通りへの抜け道目的に使う車両が多いのではないかな？

分析結果・仮説に対する判断

- ・交差点周辺で傾き等挙動が生じやすい（交差点サイズ、傾斜、交通量、複雑度に応じて頻度増）
- ・自転車走行レーンの設置箇所は、傾きの発生回数が少ない

- ・北東、北西の駐車場利用者の中で、西側から渋谷駅周辺を通過した車両が多かった。
- ・駐車場間の連携、共通駐車券等により、西側・東側（今後整備予定も含む）駐車場の利用促進をする。

約80%が抜け道目的として使っている道路もあれば、約40%に留まる道路もあった。

4. 分析モデルケース



①モデルケース

トラフィックの課題に対して、交通データに基づく施策立案につなげる取り組みを4 Stepの1つのモデルとして整理をする。

①シナリオづくり

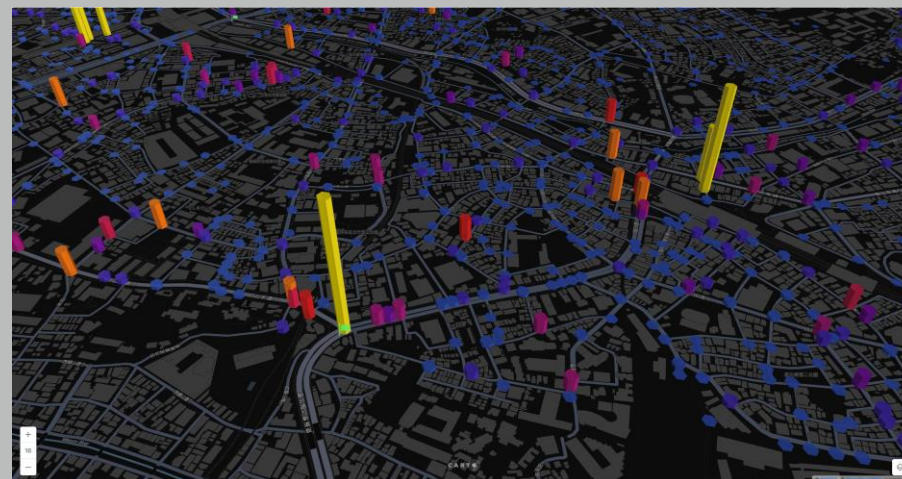
トラフィックの課題を整理する

- EX 1) 陳情が多い箇所とその内容
- EX 2) 駐車場整備の方針
- EX 3) 交通戦略における方針

➡ コンソメンバーと協議して
分析シナリオの作成

②データの可視化・分析

①のシナリオをもとに対象箇所の交通データの可視化（GIS）・分析を実施する。



③可視化・分析結果の整理

分析結果を踏まえ、
具体的な解決策を検討



④施策立案に向けて

- ・アウトプットを協議の土俵に活用し、
関係者との協議を推進
- ・トラフィック関係の
計画の根拠資料として活用する。

②モデルケースにおけるデータセットについて

- ・本プロジェクトで使用したデータセットは下表のとおり
- ・同様のデータセットを用意頂くことで、他エリアでも展開が可能

カテゴリ	提供元（敬称略）	使用した情報	分析シナリオ		
			A	B	C
民間	Luup	電動キックボードおよび電動アシスト自転車の走行量、移動速度、傾き挙動の回数	●		
	あいおいニッセイ同和損保	自動車（一般車）の走行量、移動速度、各種挙動	●	●	●
	Unacast, Agoop	歩行者分布	●		●
	一社)日本地図センター	数値地図（国土基本情報）	●		
自治体	渋谷区	SHIBUYA OPEN DATA（自転車走行レーンの設置箇所）	●		
		各種計画情報、自転車、電動キックボードに係る住民の声など	●	●	●
行政機関	警察庁	交通事故オープンデータ(事故発生箇所,事故タイプ,事故詳細)	●		
	国土交通省	国土数値情報、将来推計人口データ（500mメッシュ）	●		

5. 今後の展望



各種交通データを活用したまちづくり推進プロジェクト



【渋谷区】

次年度以降も
分析対象を変える
などの継続的な
取組が予定され
ており、将来の
施策実現に向け
て実施する。

【交通政策文脈】

本PJで行政と協議している中で出た、新たな視点についても実施を検討する。

A道路幅が狭くて専用レーンがつけられず、ナビマークをつけた道路の交通安全の効果を知りたい。



Bパーキングチケットの利用状況を把握し、マイクロモビリティの走行環境整備の根拠にしたい。



各種交通データを活用したまちづくり推進プロジェクト



- ・ 今回の分析結果については、TDPFコミュニティへ還元させていただきます。
- ・ 本成果を元にさらに各種データを追加・拡充し、
分析精度の向上・多角的な分析を推進

データ種別	本事業を通じた課題認識	次年度以降に向けた方針（案）
人流	危険な抜け道や交差点分析における一要素として統計情報を活用	細かい粒度での人流を活用し、分析の高度化を目指す
車流 （商用車）	今回の取組では未使用	デジタコデータなどの活用を検討
専門家の知見、 ノウハウ	分析結果の解釈を今後深める上で理論的なフレームワークが必要	交通工学、都市計画などアカデミアからの知見を反映

各種交通データを活用したまちづくり推進プロジェクト

【他地域】 本実証で取り扱ったシナリオA・B・Cに関心をお持ちの自治体様、
特に必要なデータがすでに整備されている自治体様は是非ご相談いただければと思います

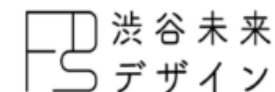
例えば…

- ・ 東京都オープンデータカタログで“市街地再開発事業地区”を検索
- ・ 渋谷区に限らず計17件が“都市計画決定”段階にあり、
このようなエリアには親和性が比較的高いかと思いますので、ご検討頂ければ幸いです



The screenshot displays the Tokyo Open Data website interface. At the top, the header includes the 'TOKYO OPEN DATA' logo and navigation links for 'データセット' (Data Set), '組織' (Organization), 'グループ' (Group), and 'About'. A search bar is located on the right. Below the header, the breadcrumb trail reads: 'ホーム / 組織 / 東京都都市整備局 / 市街地再開発事業地区一覧'. The main content area is titled '市街地再開発事業地区一覧' (Urban Regeneration Project Area Overview). It shows '0' followers and a list of organizations. A section titled 'データとリソース' (Data and Resources) features a link to '市街地再開発事業地区一覧区市別データ (CSV版) (平成30年3月31日現在)' (Urban Regeneration Project Area Overview Data by City (CSV Version) (As of March 31, 2018)). A '探索' (Search) button is also present.

安全・快適・便利なまちづくり、都民のQoL向上へ引き続き貢献してまいります



2. 採択プロジェクトの成果報告②

株式会社IP DREAM
取締役副社長
織田 稔之 氏

Any questions about AKIBA?

Let me introduce some famous spots in Akihabara.

Are you interested in the latest Japanese culture?

Are you looking for a place where you can enjoy casually with your family?

ASK IN YOUR LANGUAGE!

STARTS IN SECONDS
FREE
24HOURS
Request for service trial and evaluation

AI tourist guide “AOI”
presents **AKIBA GUIDE**

©Akihabara TMO, INC. ©IP DREAM Inc

第六回TDPFコミュニティイベント発表資料

株式会社IP DREAM

地域一体で育成する「多言語AIコンシェルジュ」プロジェクト

1. プロジェクト概要

【1-1】プロジェクトの背景・目的と全体像

社会課題：急増するインバウンド旅行者への対応

アジア諸国を含めたコミュニケーションが課題

訪都外国人・目標
2026年 2000万人

旅行中の困りごとは
コミュニケーション

使われる言語が多数
対応する働き手・・・



旅行中に困ったこと	
Wi-Fi環境	32%
施設スタッフとの会話	20%
多言語表示の少なさ	18%

出典：GOOD LUCK TRIP調査

訪日外国人の傾向
上位90%の使用言語 韓国語、中国語(繁体字)、中国語(簡体字)、英語、タイ語、タガログ語、ベトナム語、マレー語、インドネシア語、ドイツ語

出典：JNTO統計

【1-1】プロジェクトの背景・目的と全体像

社会課題：自治体・地域のガイド・コミュニケーション

アジア諸国を含めたコミュニケーションが課題

ガイド・コミュニケーションの現状		
	主なガイド手段	注目する課題
旅マエ	 HPなどで情報発信	外国語対応（特に、英語以外の） 情報収集・編集などの負荷 知りたい情報にたどり着くまでの困難さ
旅ナカ	 観光案内所でガイド	ガイド人材の確保（外国語・観光知識） 多くの質問が行先案内などに集中 ⇒ 高度人材 + AIガイド（FAQ）による効率化

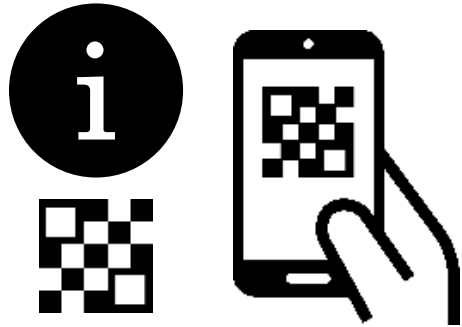
ガイド機能の分担：高度人材＝高度なガイドに集中、AIガイド＝FAQ対応

【1-1】プロジェクトの背景・目的と全体像

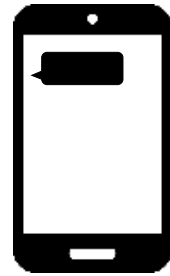
プロジェクト概要：AIガイドのサービスイメージ

インバウンド旅行者向け「多言語対応AIコンシェルジュ」

街ナカで
QRを読み取る



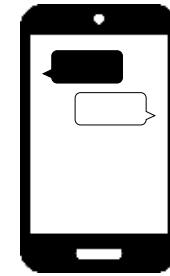
母国語で
AIから声がけ



ถ้าเป็นเรื่องอาคิซาบาระล่ะก็
ถามได้ทุกเรื่องเลยครับ

秋葉原のことならなんでも聞
いてください。

母国語で
AIに質問する



มีสถานที่ที่สามารถสนุกกับ
เด็กได้ไหมครับ

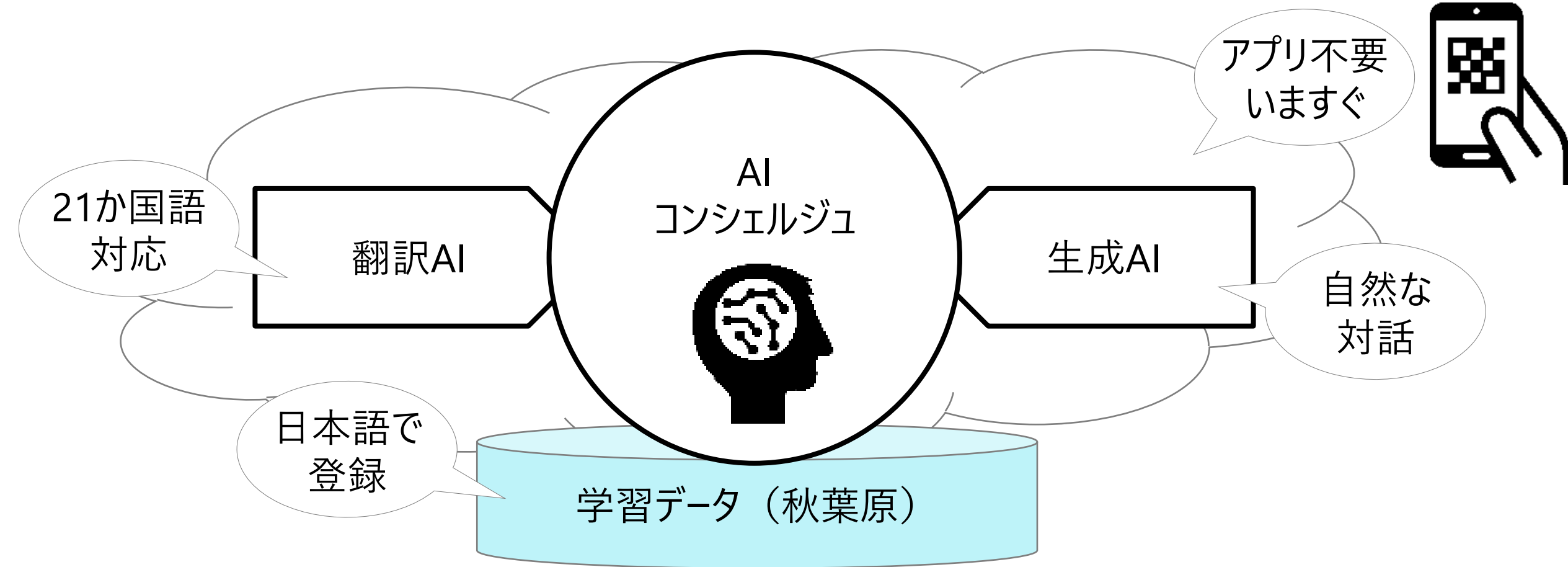
子どもと一緒に楽しめる
場所がありますか。

対話が
続く

【1-1】プロジェクトの背景・目的と全体像

プロジェクト概要：AIガイドの仕組み

秋葉原で、AIを駆使したサービスを提供

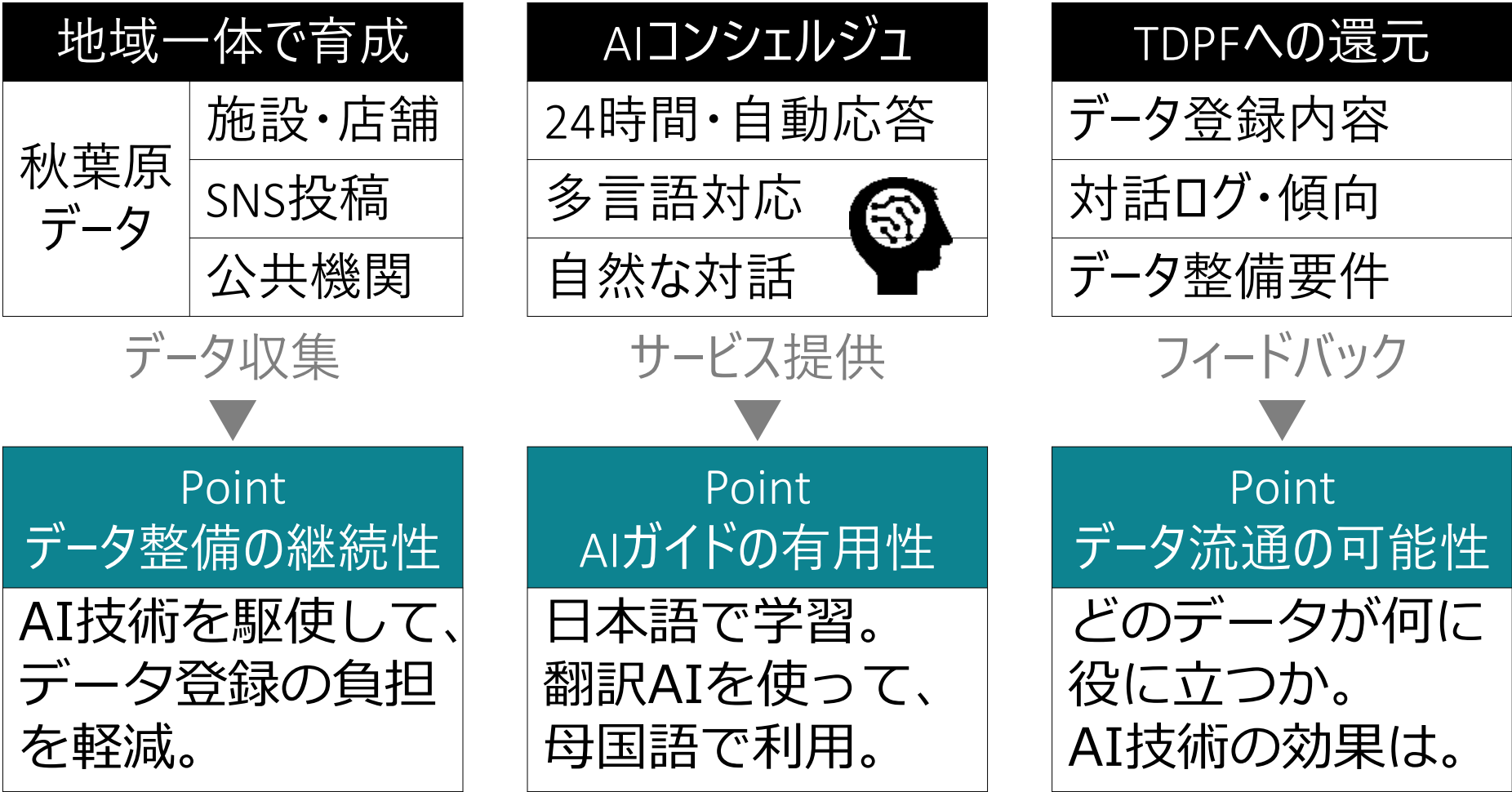


多様な地域データの整備がサービス品質を決める

【1-1】プロジェクトの背景・目的と全体像

プロジェクト概要：ケーススタディ事業の狙い

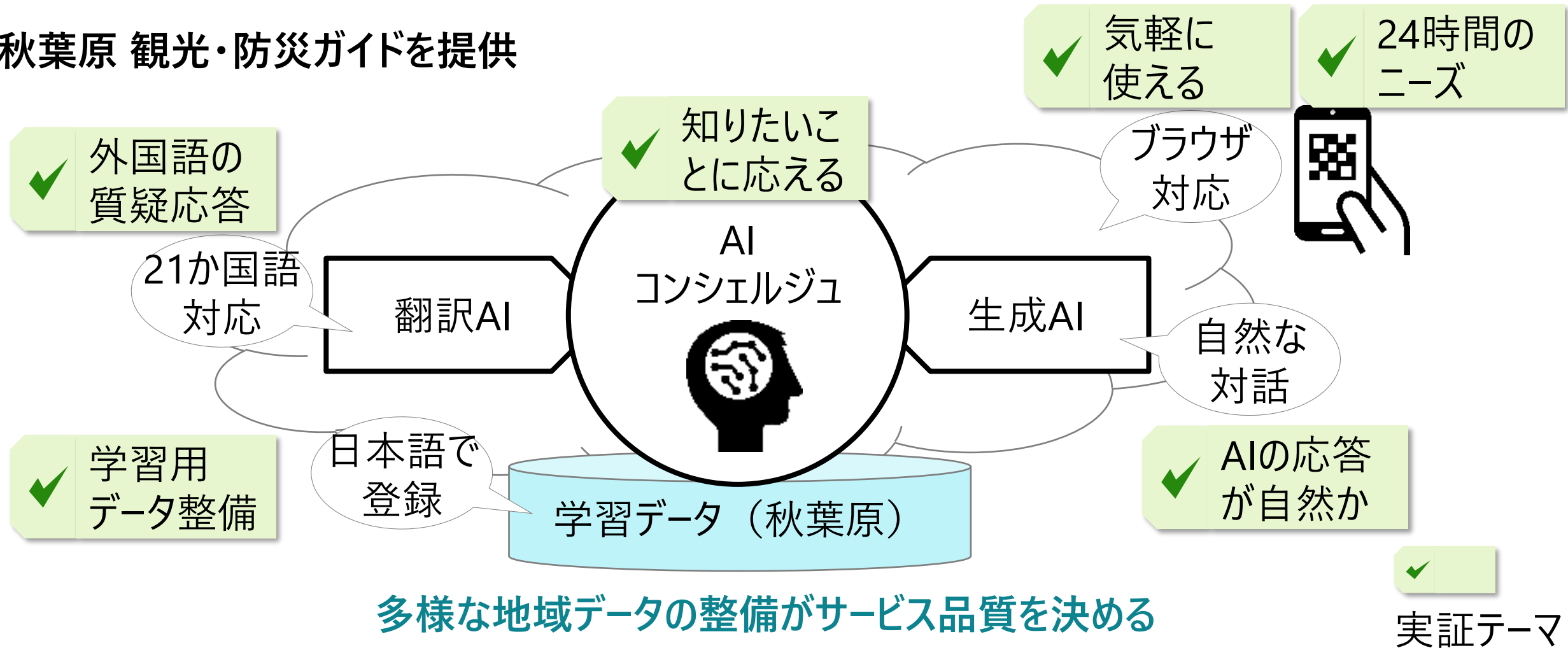
地域一体で育成する「多言語対応AIコンシェルジュ」



【1-2】 1-1で示した課題解決に向けた取組の全体像 コンセプトと実証テーマ

コンセプト：翻訳AI×生成AIを駆使して、24時間・自動応答で観光・防災ガイドを提供
実証テーマ：旅行者のニーズにAIが応えられるか、そのための学習データ整備が可能か。

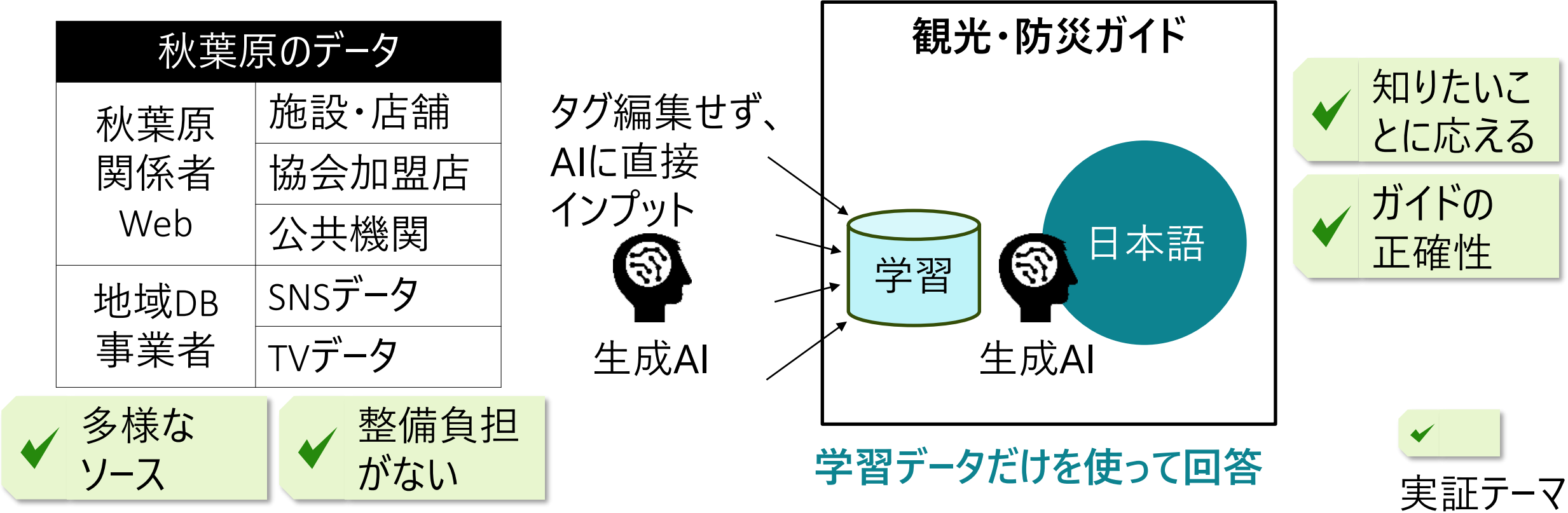
秋葉原 観光・防災ガイドを提供



【1-3】取組におけるデータの掛け合わせ
コンセプトと実証テーマ：地域データの整備要件

多様なソース：日本語のまま自動収集。編集なしで、持続可能な学習サイクルを確立する。
有用性・信頼性：実証データで、どのくらいガイドができるか。防災ガイドの正確性を確保できるか。

日本語のまま、持っている情報をそのまま登録



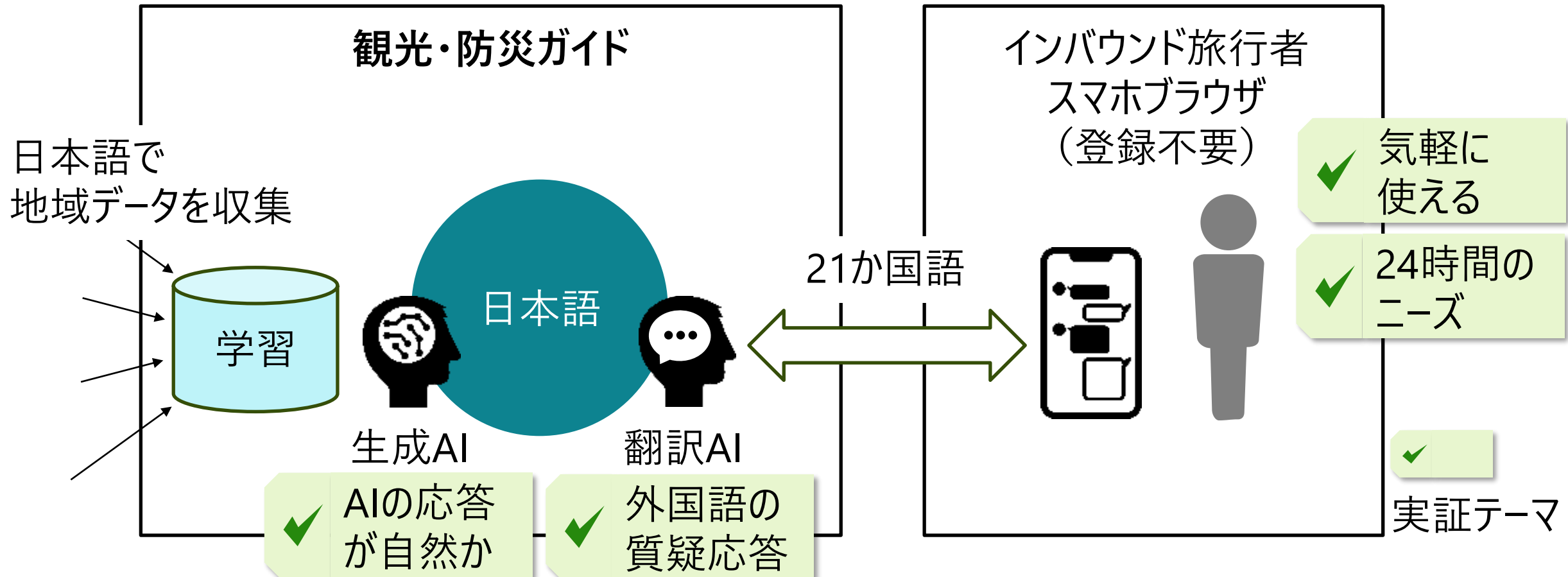
【1-3】取組におけるデータの掛け合わせ

コンセプトと実証テーマ：翻訳AI×生成AIによる24時間・自動応答

利用を促す要件：アプリ不要、登録不要。ブラウザだけ、QRでクイックスタート。

データ整備の要件：日本語の既存データを活用する、翻訳AIをフロントに置くことで内部を日本語処理に統一。

日本語を中心に据えて、翻訳AI＋生成AIを組み合わせる



【1-4】推進体制

実行主体：IP DREAM、日立製作所、ナイトレイがサービス提供・実証を推進。
協力者：秋葉原関係者、TDPFコミュニティ関係者の協力を得て、企画・評価を推進。

プロジェクト実行主体		
1	IP DREAM	AIプラットフォーム
2	日立製作所	データ収集・ログ解析
3	ナイトレイ	SNSデータ活用
プロジェクト企画・評価協力		
4	秋葉原タウンマネジメント	地域データ、ガイド企画、 実証企画、 実証評価
5	Akiba.TV	
6	千代田区	
プロジェクト協力		
7	データ・アート	AIアバター、チラシ制作
8	エム・データ	TVメタデータ活用

TDPFコミュニティ		
1	東京都・事務局	コミュニティ・コミュニケーション
2	TDPF会員	実証体験評価

※エム・データは、TDPF会員交流会を通じて、プロジェクトメンバーとして参加。

(デモ) 秋葉原ガイド

サービス説明のチラシ（6言語版を秋葉原で配布）

Any questions about AKIBA?

Let me introduce some famous spots in Akihabara.

Are you interested in the latest Japanese culture?

Are you looking for a place where you can enjoy casually with your family?

ASK IN YOUR LANGUAGE!

STARTS IN SECONDS
FREE
24HOURS
Request for service trial and evaluation

AI tourist guide “AOI” presents AKIBA GUIDE

AI provides guidance based on reliable data, but it may occasionally give answers that are not based on facts.

©Akihabara TMO, INC. ©IP DREAM Inc

(デモ) 秋葉原ガイド



ウェルカムメッセージ

秋葉原へようこそ！観光ガイドの葵です。
秋葉原のことについてお気軽にお尋ねください。

ごみは持ち帰りましょう。

きれいな秋葉原でいられるようにご協力をお願いします。

(デモ) 秋葉原ガイド



「子どもと一緒に楽しめる場所がありますか」 と尋ねたときの回答

秋葉原で子どもと一緒に楽しめる場所として、
「**うさぎカフェ もふれる**」はいかがでしょう。
可愛いウサギたちと触れ合えるカフェで、リラックスしながら
楽しい時間を過ごせますよ。
ぜひ訪れてみてくださいね。

(デモ) 秋葉原ガイド



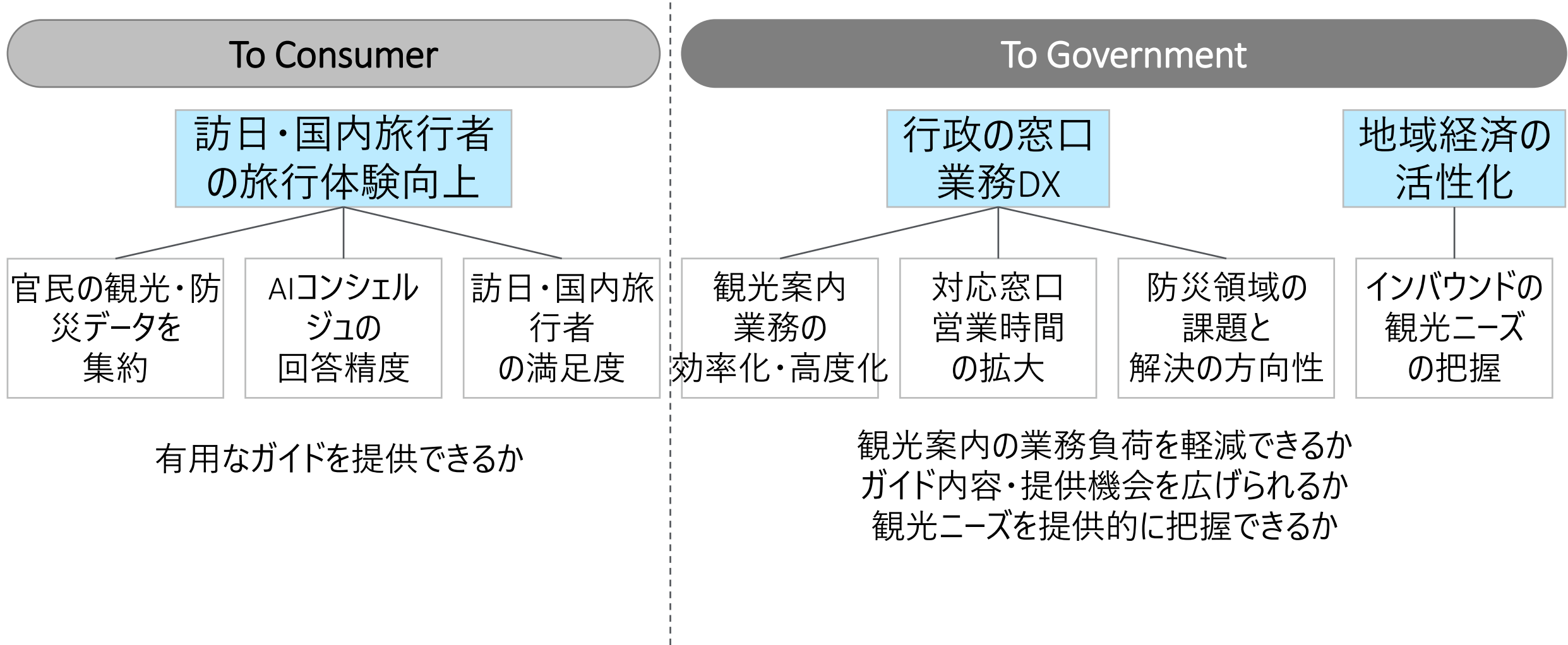
「Are there any places I can enjoy with children?」
と尋ねたときの回答

As a place to enjoy with children in Akihabara,
I recommend "Rabbit Cafe Mo-Fuuru."
You can spend a relaxing time interacting with cute
rabbits. Please visit!

2. 目指す姿と、今年度の取り組み/成果

【2-1】 目指す姿

AIコンシェルジュの実用化において、来訪者にとっての利用体験向上と、来訪者を受け入れる行政・地域の業務効率・業務効果向上の、両面の取り組みが重要だと考えます。



【2-2】 目指す姿と、今年度の取り組み計画

AIコンシェルジュの実用化において、地域全体に係る自治体（および公益団体）の役割が重要になります。自治体にどのようなメリットがあるか、プロジェクトの狙いを定め、実証の取り組みを進めました。

分類	AIコンシェルジュの狙い		今年度実証の取り組み
行政 窓口業務 DX	観光案内業務の 効率化・高度化	外国語・観光に精通するガイドの接客力を、AIが補う。 狙い①よく尋ねられる定番の質問に、AIが自動応答する。 狙い②防災行動、公共マナーなどの情報も発信する。	翻訳AI×生成AI データ整備（人気施設・ 地域共通）
	対応窓口の 営業時間拡大	観光ガイドの利用機会を、AIが拡大する。 狙い③ナイトエコノミーを拡大する夜間のガイド 狙い④QRコード掲示で、どこでもAI観光ガイドを提供。	24時間提供 QRコードの配布
地域経済 活性化	インバウンドの ニーズ把握	質問傾向を解析し、観光ニーズを把握する。 狙い⑤質疑応答を計測し、データ整備課題を把握する。	対話ログの収集・分析 ユーザー・フィードバック

【2-3】今年度の取り組みと実施成果

観光案内業務の
効率化・高度化

対応窓口の
営業時間拡大

インバウンドの
ニーズ把握

外国語＆観光に精通するガイドの接客キャパシティを、AIが補う。

現状



STAFF

高度人材
外国語堪能
観光知識

取り組み

高度なガイド（維持）



FAQ対応



目指す姿



STAFF

高度人材による観光レコメンド

観光客の状況・要望を理解して、
深い観光知識とマッチング



AIが定番の質問に自動応答

21か国語で幅広く対応、同時に何人でも

定番の質問に対応 …… 人気施設のデータ整備

防災行動・公共マナー発信 …… 地域共通データ整備

【2-3】今年度の取り組みと実施成果

観光案内業務の
効率化・高度化

対応窓口の
営業時間拡大

インバウンドの
ニーズ把握

取り組み：21か国語に対応する翻訳AI



21言語対応

日本語、英語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、韓国語、インドネシア語、タイ語、ベトナム語、ミャンマー語、ブラジルポルトガル語、スペイン語、フランス語、フィリピン語、クメール語、ネパール語、モンゴル語、ロシア語、ウクライナ語、ドイツ語、イタリア語、ヒンディー語

言語の自動選択

お使いのスマホ・ブラウザの言語設定を参照して、自動的に言語が選択されます。
メニューも質疑応答も、普段お使いの言語になります。

【2-3】今年度の取り組みと実施成果

取り組み：定番の質問に対応する、人気施設のデータ整備

登録例 うさぎカフェ（249文字）	登録例 カードショップすぱいらる（229文字）
スポット名：うさぎカフェ もふれる カテゴリー-飲食＞喫茶・軽食・デザート＞カフェ 住所：外神田5-2-3 アソルティ末広町 B1階 スポット概要 うさぎと触れ合えるカフェです。お店では、可愛いウサギたちと一緒に過ごすことができ、リラックスしながら癒しの時間を楽しめます。ウサギたちは店内を自由に歩き回っており、来店した人は直接触れ合うことができるのが特徴です。店内は、ウサギたちが快適に過ごせるように設計されており、清潔で温かい雰囲気が漂います。 https://moff-rell.com/ja/	種類：ホビーサブカル物販系 タグ：ホビーショップ 店名：カードショップすぱいらる 【公式Twitter】https://twitter.com/card_spiral 【住所】外神田 3 － 5 － 1 4 関根ビル 3 階 【スポット概要】 カードショップすぱいらる 秋葉原店は、トレーディングカードゲーム（TCG）専門店です。遊戯王、ポケモンカード、ワンピース、ドラゴンボール、デュエマなどを取り扱っています。また、デュエルスペースも完備されています。 【公式サイト】

HP掲載情報などを、タグ編集することなく、そのままAI学習できます。
登録データ形式が統一されていなくても学習できます。

【2-3】今年度の取り組みと実施成果

観光案内業務の
効率化・高度化

対応窓口の
営業時間拡大

インバウンドの
ニーズ把握

取り組み：防災行動・公共マナー発信・・・地域共通データ整備

旅ナカで被災にあった場合や、様々な困りごとに応えられるようにデータ整備しました。

データの種類	登録件数
防災行動ガイド、避難所	58
警察・交番	25
救急医療施設、病院	38
公衆便所、公衆喫煙所、コインロッカー	67
公共マナー	2

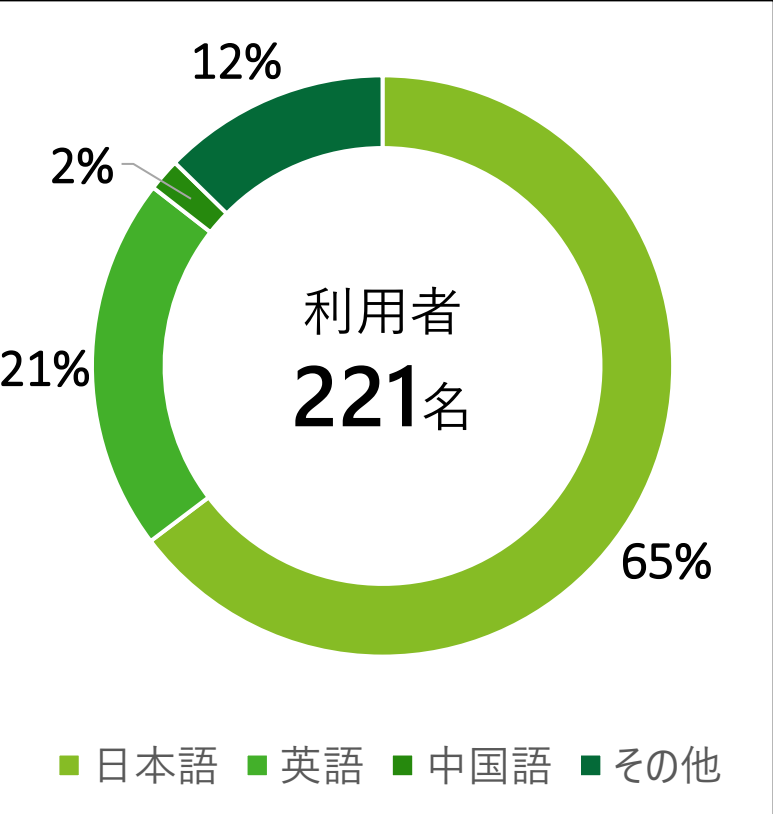
①ごみ捨てマナー、②喫煙所案内。
ウェルカムメッセージとして、高頻度で露出

【2-3】今年度の取り組みと実施成果

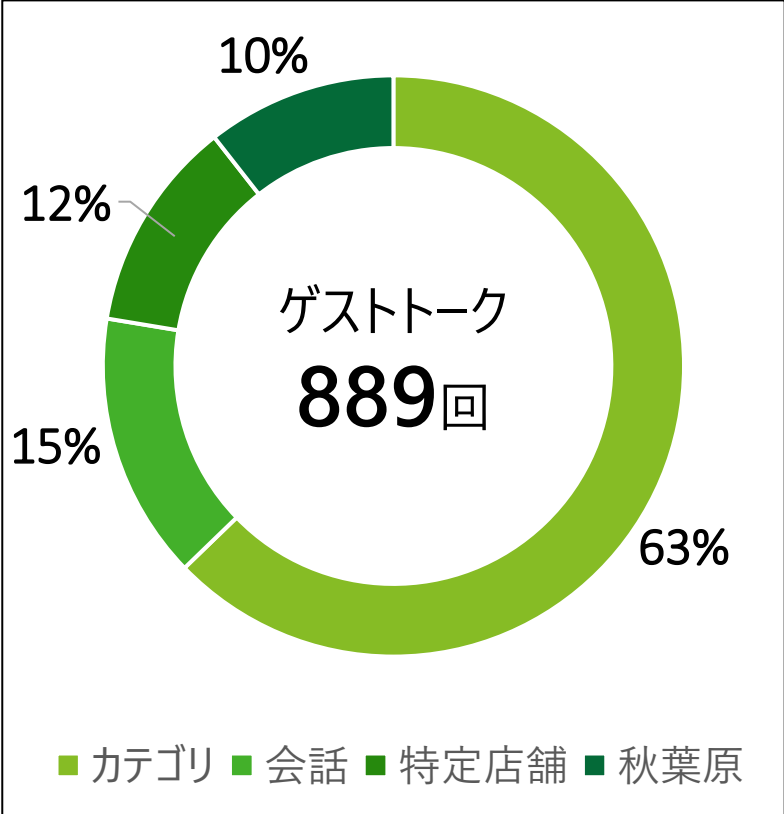
実施結果：観光案内業務の効率化・高度化

1日10名、1人平均4回の質問に応答しました。会話が続き、質疑応答が成立していると考えます。

期間：1月6日～26日（21日間）



1日平均10.4名



1人平均4.0回

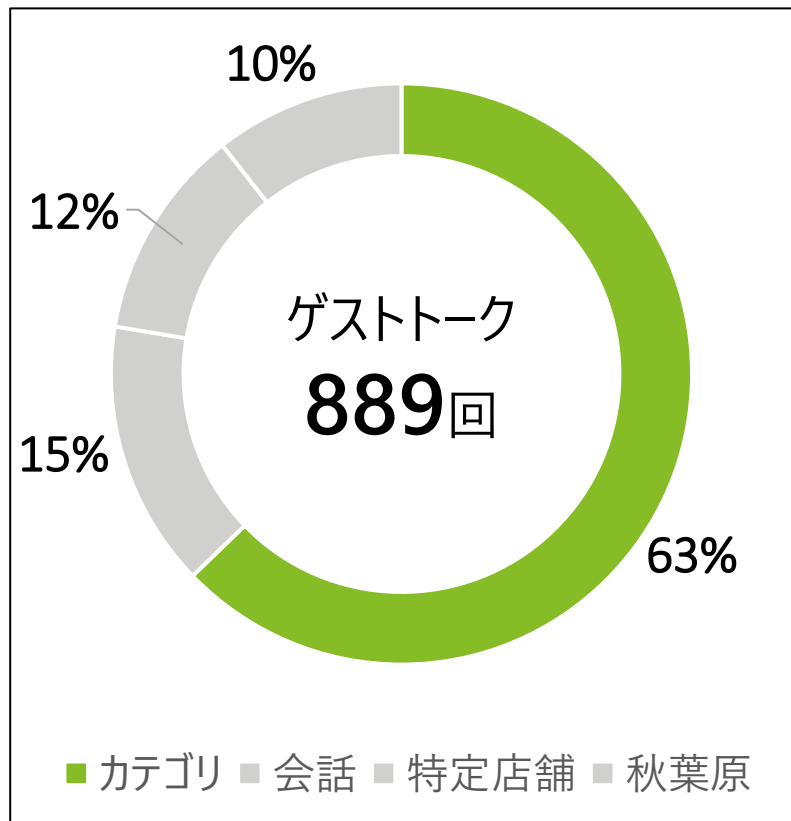
- カテゴリ**
カフェ、ラーメン、観光スポット、日本食、アニメ、マンガ、パソコン、家電品、など
- 会話**
AIアバター「葵」との会話、こんにちは、ありがとう、などのあいさつ
- 特定店舗**
ガイドが紹介した店舗についての質問、目的地としていた店舗の場所
- 秋葉原**
天気、交通、歩行者天国などの質問

【2-3】今年度の取り組みと実施成果

実施結果：観光案内業務の効率化・高度化

旅ナカの困りごととして、よく尋ねられる「トイレ」、「喫煙場所」に関する質問も多くありました。

期間：1月6日～26日（21日間）



カテゴリ（558トーク）

カフェ、ラーメン、観光スポット、日本食、アニメ、マンガ、パソコン、家電品、など

カテゴリ	質問数
ラーメン	73
カフェ、コンセプト・カフェ	69
観光スポット	45
：	：
トイレ	14
喫煙場所	11

【2-3】今年度の取り組みと実施成果

実施結果：定番の質問に応答するためのデータ整備

①SNS投稿の人気店舗、②テレビで取り上げられた人気店舗に関するデータ整備をしたことが有効に働きました。

秋葉原の学習データ		
秋葉原 関係者 Web	施設・店舗 協会加盟店	秋葉原TMO Akiba.TV 秋葉原コンセプトショップ協会
	公共機関	千代田区
地域DB 事業者	SNSデータ	ナイトレイ
	TVメタデータ	エム・データ

定番の質問に備えたデータ整備

SNSデータ（X）

秋葉原でのSNS投稿を、カテゴリ集計し、人気店舗のデータを補強。

TVメタデータ

テレビ番組で紹介された秋葉原の店舗に関するデータを補強。

観光案内業務の
効率化・高度化

対応窓口の
営業時間拡大

インバウンドの
ニーズ把握

【2-3】今年度の取り組みと実施成果

観光ガイドの利用機会を、AIが拡大する。

現状

取り組み

目指す姿



観光案内所

11:00~17:30

高度人材が常駐
ショップ機能併設

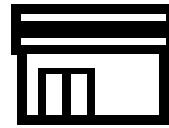


STAFF

高度なガイド拠点



早朝・夜間対応
街ナカの対応



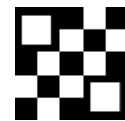
高度なガイド拠点の役割

高度なガイド

各種パンフレット、マップの配布
名産品の陳列・販売



STAFF



AIが24時間対応、QRコードで呼び出し

アプリ不要、登録不要、QRですぐに起動するガイド

QRコードを記載したチラシ、カードを配布



【2-3】今年度の取り組みと実施成果

観光案内業務の
効率化・高度化

対応窓口の
営業時間拡大

インバウンドの
ニーズ把握

取り組み：QRコードを掲載したチラシを配布

サービス説明のチラシ（6言語版を秋葉原で配布）



Any questions about AKIBA?

Let me introduce some famous spots in Akihabara.

Are you interested in the latest Japanese culture?

Are you looking for a place where you can enjoy casually with your family?

ASK IN YOUR LANGUAGE!

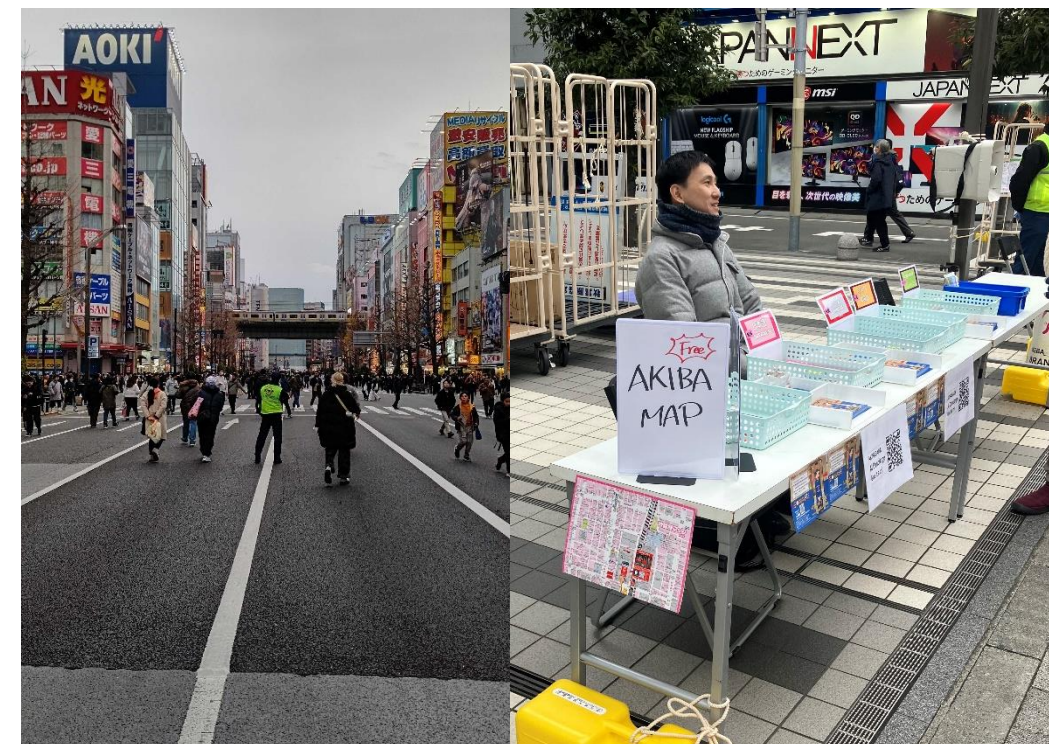
STARTS IN SECONDS
FREE
24HOURS

Request for service trial and evaluation

AI tourist guide "AOI" presents AKIBA GUIDE

©Akihabara TMO, INC. ©IP DREAM Inc

歩行者天国（日曜PM）
フリーマップと一緒にチラシを配布



【2-3】今年度の取り組みと実施成果

観光案内業務の
効率化・高度化

対応窓口の
営業時間拡大

インバウンドの
ニーズ把握

取り組み：デジタルメディアによるQRコードの案内

Akiba.TVでの紹介 <https://akiba.tv/12226/>



【2-3】今年度の取り組みと実施成果

観光案内業務の
効率化・高度化

対応窓口の
営業時間拡大

インバウンドの
ニーズ把握

実施結果：対応窓口の営業時間拡大

観光案内所の営業時間外でのAIガイド利用が37%ありました。

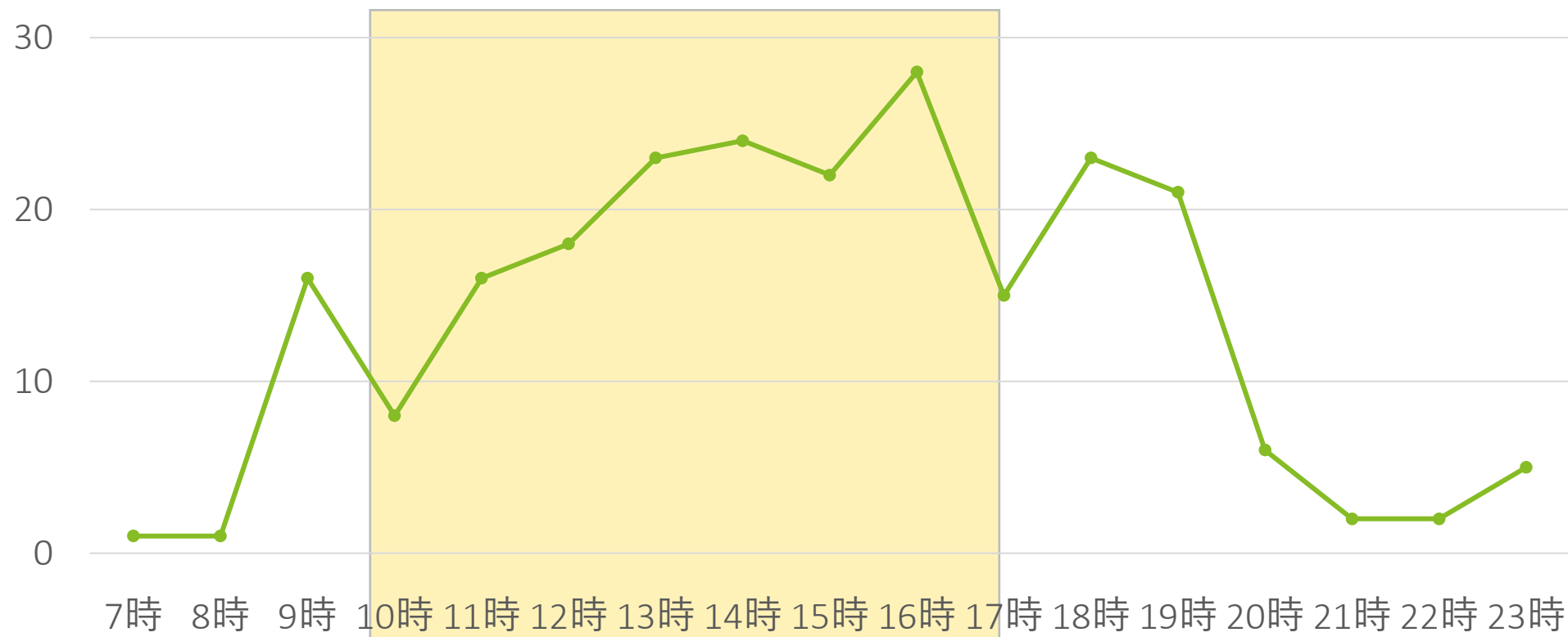
期間：1月6日～26日（21日間）

時間帯別利用者数 n=231

観光案内所

営業時間内
10:00～17:30
146名（63%）

営業時間外
85名（37%）



【2-3】今年度の取り組みと実施成果

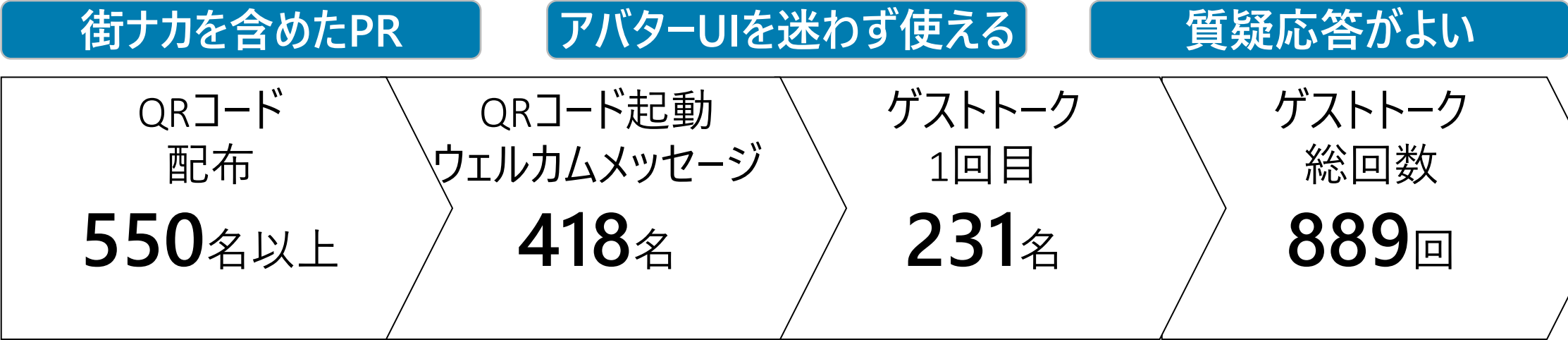
観光案内業務の
効率化・高度化

対応窓口の
営業時間拡大

インバウンドの
ニーズ把握

実施結果：QRコードによる起動の簡便性、アバターAI・生成AIによる応答の自然さ
街ナカを含めたPRを行いました。QRコードの起動後は、迷わず利用して、質疑が続く傾向となりました。

期間：1月6日～26日（21日間）



歩行者天国：158名
（3日間・10時間）
エンタイベント 400名

のべ人数
リピート利用もあり

ゲストからの質問が
スタートした回数

一人平均4.4回の
質問が続きました

トーク数の平均が**4.4回**と高い水準を記録
ファネル遷移データを見ながら、アジャイルに改善することで、ユーザ体験の向上を目指します。

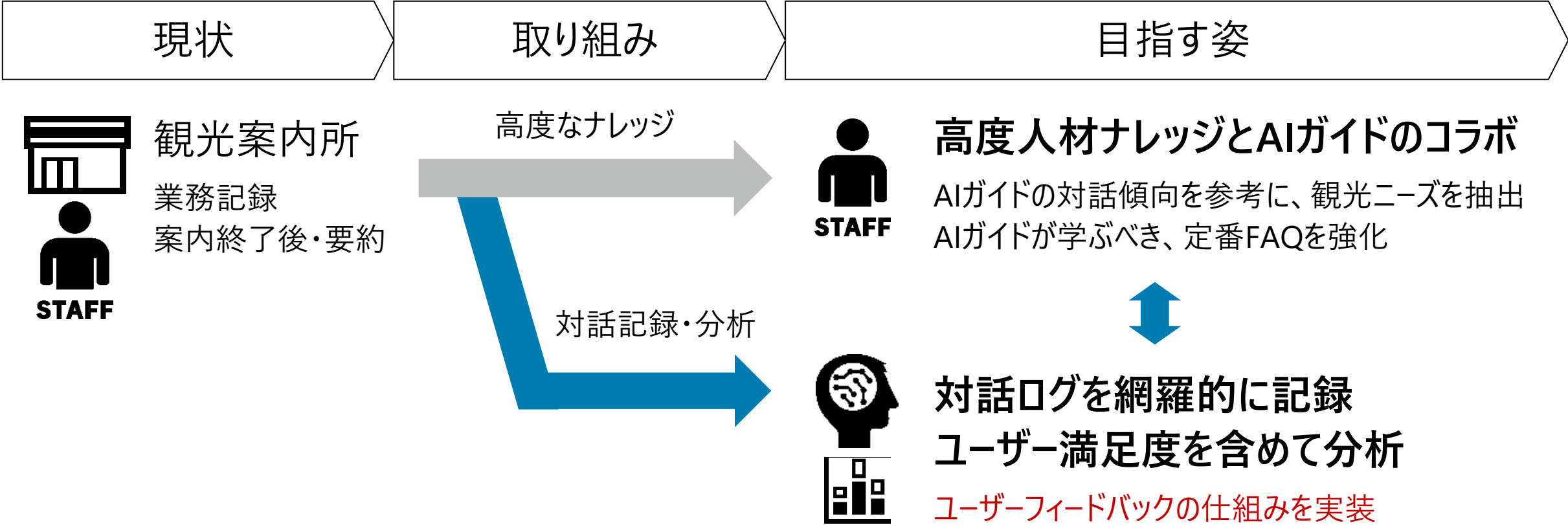
【2-3】今年度の取り組みと実施成果

観光案内業務の
効率化・高度化

対応窓口の
営業時間拡大

インバウンドの
ニーズ把握

質問傾向を解析し、観光ニーズを把握する。



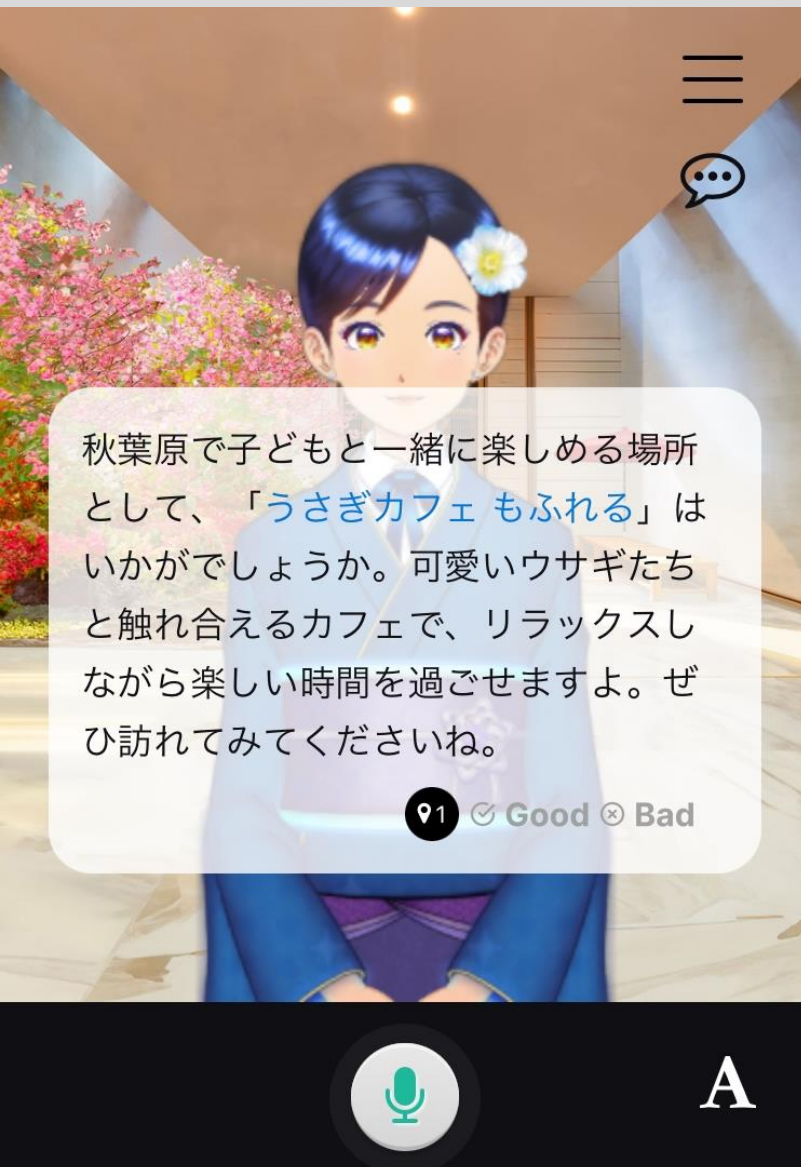
【2-3】今年度の取り組みと実施成果

観光案内業務の
効率化・高度化

対応窓口の
営業時間拡大

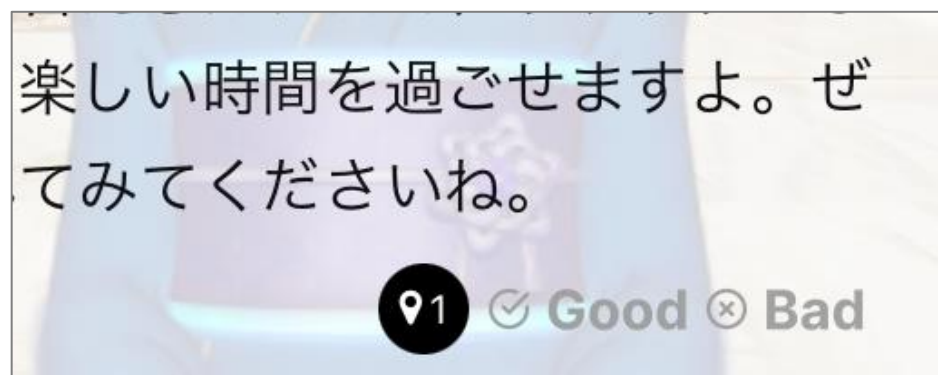
インバウンドの
ニーズ把握

取り組み：ユーザーフィードバックの仕組み



「子どもと一緒に楽しめる場所がありますか」
と尋ねたときの回答

秋葉原で子どもと一緒に楽しめる場所として、
「**うさぎカフェ もふれる**」はいかがでしょう。
可愛いウサギたちと触れ合えるカフェで、リラックスしながら
楽しい時間を過ごせますよ。
ぜひ訪れてみてくださいね。



地図リンク、Good/Bad フィードバック

【2-3】今年度の取り組みと実施成果

取り組み：対話ログの記録

日時	話者	言語	対話内容	フィードバック
1/19 15:30	ゲスト	英語	Cat coffee	
		質問	猫カフェ。	
1/19 15:30	ガイド	回答	秋葉原で猫カフェをお探しですか？おすすめは「猫カフェ〜ねこ・JaLaLa〜」です。ここでは、猫たちとリラックスした時間を過ごせます。他にも「ちよだニャンとなるカフェ」や「僕と猫。秋葉原店」もありますので、ぜひ訪れてみてください！	Good
		英語	Are you looking for a cat cafe in Akihabara? My recommendation is "Cat Cafe - Neko JAlala -". You can spend a relaxing time with cats here. There are also "Chiyoda Nyan-to-naru Cafe" and "I and the Cat. Akihabara Store", so please visit them!	Good

【2-3】今年度の取り組みと実施成果

実施結果：質問傾向を解析し、観光ニーズを把握する。
昼間と夜間で、飲食に関する質問傾向の違いがありました。昼間＝ランチ、夜間＝ディナー。

昼間の頻出ワード
6:00～18:00

夜間の頻出ワード
18:00～6:00

カテゴリ	質問数
カフェ、メイドカフェ	99
ラーメン	78
スポット	21
レストラン	16
トイレ	12
アニメ	10
パソコン	10
カレー	9

カテゴリ	質問数
カフェ、メイドカフェ	91
ラーメン	81
スポット	35
日本料理店、レストラン	29
アニメ	14
トイレ	11

【2-3】今年度の取り組みと実施成果

観光案内業務の
効率化・高度化

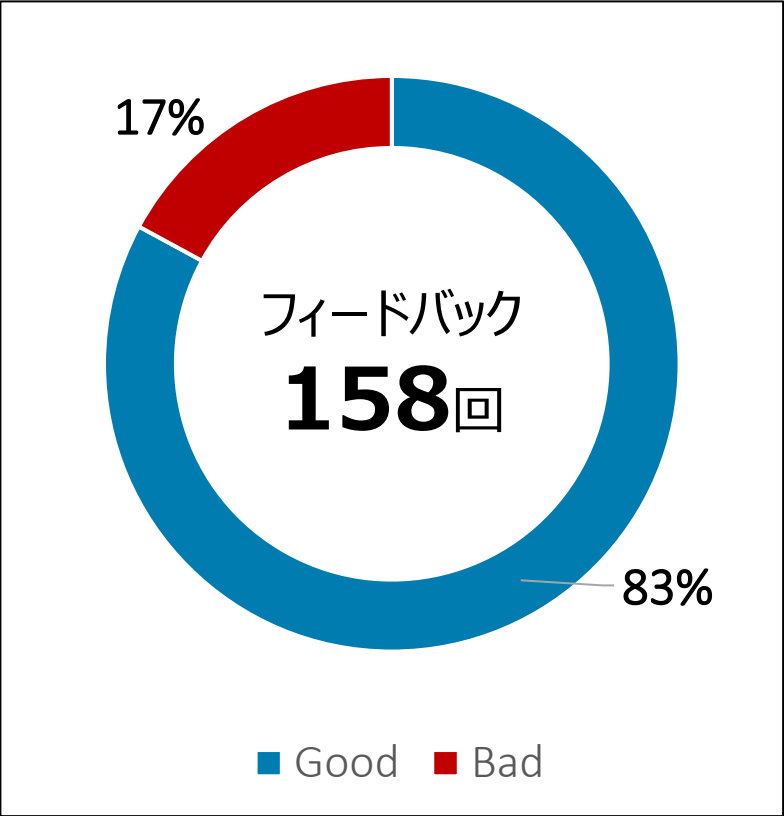
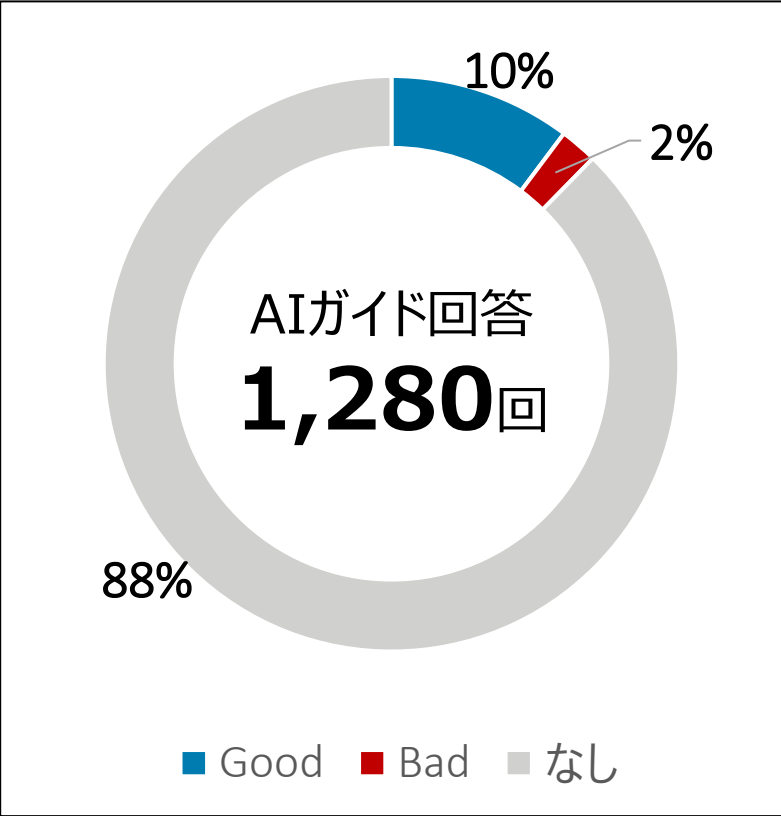
対応窓口の
営業時間拡大

インバウンドの
ニーズ把握

実施結果：質問傾向を解析し、観光ニーズを把握する。

AIガイド回答の12%にフィードバックがあり、内訳はGood 83%、Bad 17%という評価でした。

期間：1月6日～26日（21日間）



回答内容	Good	Bad
観光スポット	25	1
カフェ関連	17	1
ウェルカムメッセージ	16	1
ラーメン関連	15	3
喫煙所	5	0
(その他)	53	21
合計	131	27

【2-4】今年度の実施成果まとめ

狙い：多言語AIコンシェルジュがFAQに自動応答することで、ガイドの負担を分散する。

成果：データ整備が重要。どこでもサービスPRでき、迷わず使い始めていただけることが分かりました。

1 データ整備

登録 2,140件
収集・登録は機械的

情報更新も重要

- ・ 閉店確認・削除
- ・ イベント情報発信

2 サービスPR

QRコードですぐにアクセス
チラシ配布：550部

場所を選ばずガイドできる

- ・ 街ナカでのQR配布
- ・ 旅マエでも使える

3 AIガイド

翻訳AI＋生成AIで
自然な質疑応答

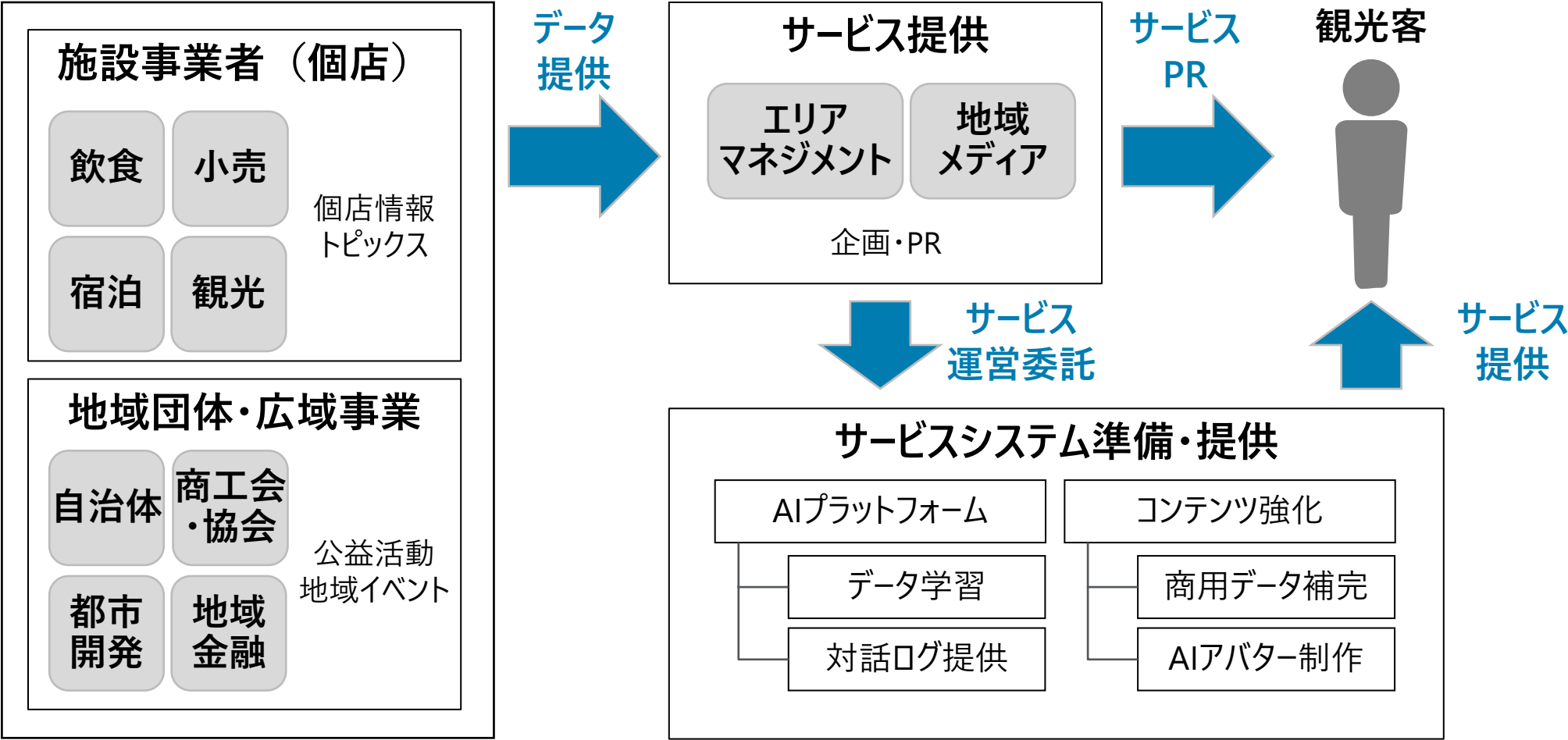
迷わず使えている

- ・ 親しみやすいアバター
- ・ 多言語で自然な会話

3. 今後の展望

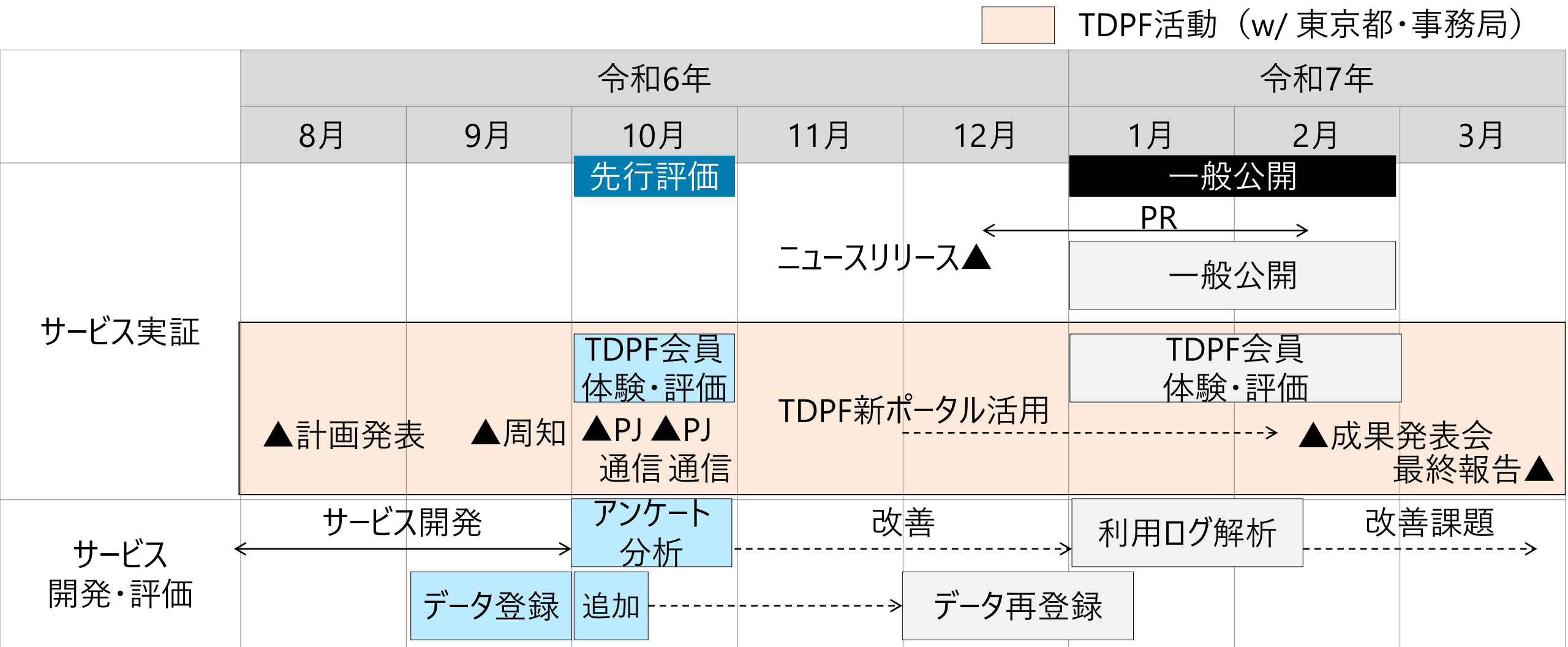
【3-1】次年度以降の取り組み方針
実用化に向けて

AIガイドは、データ整備、サービスPR、サービス提供の3つの機能の強化が重要であると考えます。
実証を通じて、サービスシステムのデータ学習、対話ログ、商用データ補完、AIアバターの有用性を確認しました。



【3-1】次年度以降の取り組み方針
サービス実証ステップ：クイックな先行評価で課題抽出

- 令和6年10月に、TDPF会員の協力ののもとに、先行評価を行って課題抽出・改善を進めました。
- 令和7年1月～2月にかけて、一般公開を行い、サービス実証を行っています。



【3-1】次年度以降の取り組み方針 （今年度の例）秋葉原ガイドの構成と提供準備について

秋葉原ガイドは、地域関係者の協力と、全国データ保有者の協力によってデータ収集を進めました。
企画期間に1か月、データ収集・学習に1か月を要して、サービス提供しました。（継続的に改善中）

1か月		1か月		提供開始	
サービス企画	データ収集	データ学習	サービス提供	データ保有者	
データ収集計画	データ入手	データ登録	登録件数		
公共データ ※営業許可、公共施設、防災ガイド	オープンデータ、業務データ （主にCSV形式）	登録情報の絞り込み ※基準、機械的	2,096	千代田区	
個店データ	Web情報を自動収集 （クローリング）	同上	781	秋葉原TMO	Akiba.TV
全国データ（抽出）	SNSデータ、TVメタデータ ※秋葉原だけを抽出	同上	1,832	ナイトレイ	エム・データ
合計			4,709		

【3-2】TDPFへの還元データ活用イメージ
TDPF会員による体験評価（12社15名が体験、のべ27件の回答）

令和6年10月、TDPF会員向けに先行評価サービスを提供して、体験評価の協力をいただきました。
高い期待と、改善の方向性について、多くの示唆をいただきました。

区分	アンケート設問	回答（カッコ内は％）
実力評価	AIガイドの回答は求めている答えでしたか。	求める答え(26)、求める答えではない(30)
	AIガイドの回答は信頼できそうに思いましたか。	信頼できそう(33)、信頼できなさそう(37)
	AIガイドとの会話は自然なものでしたか。	とても自然(22)、自然(44)、不自然(7)
事業性	AIガイドが進化すれば、役に立つものになると期待できますか。	とても期待(41)、期待(59)
都内展開	このようなAIガイドが他の地域にもあればよいと思いますか。	とても思う(48)、思う(41)
強化	このAIガイドに不足していると思うことを教えてください。	ユーザーの質問を明確にしていくこと、推薦理由の説明、防災ガイドの詳細
TDPF活動	1月に実施する実証サービスにも関心・期待をお持ちいただけそうでしょうか。	持てる(89)

先行評価では、最初から100点を追わずに始めました。
データ整備の課題がありましたが、AIガイドへの期待が高く、クイックな体験フィードバックをいただきました。

【3-1】次年度以降の取り組み方針

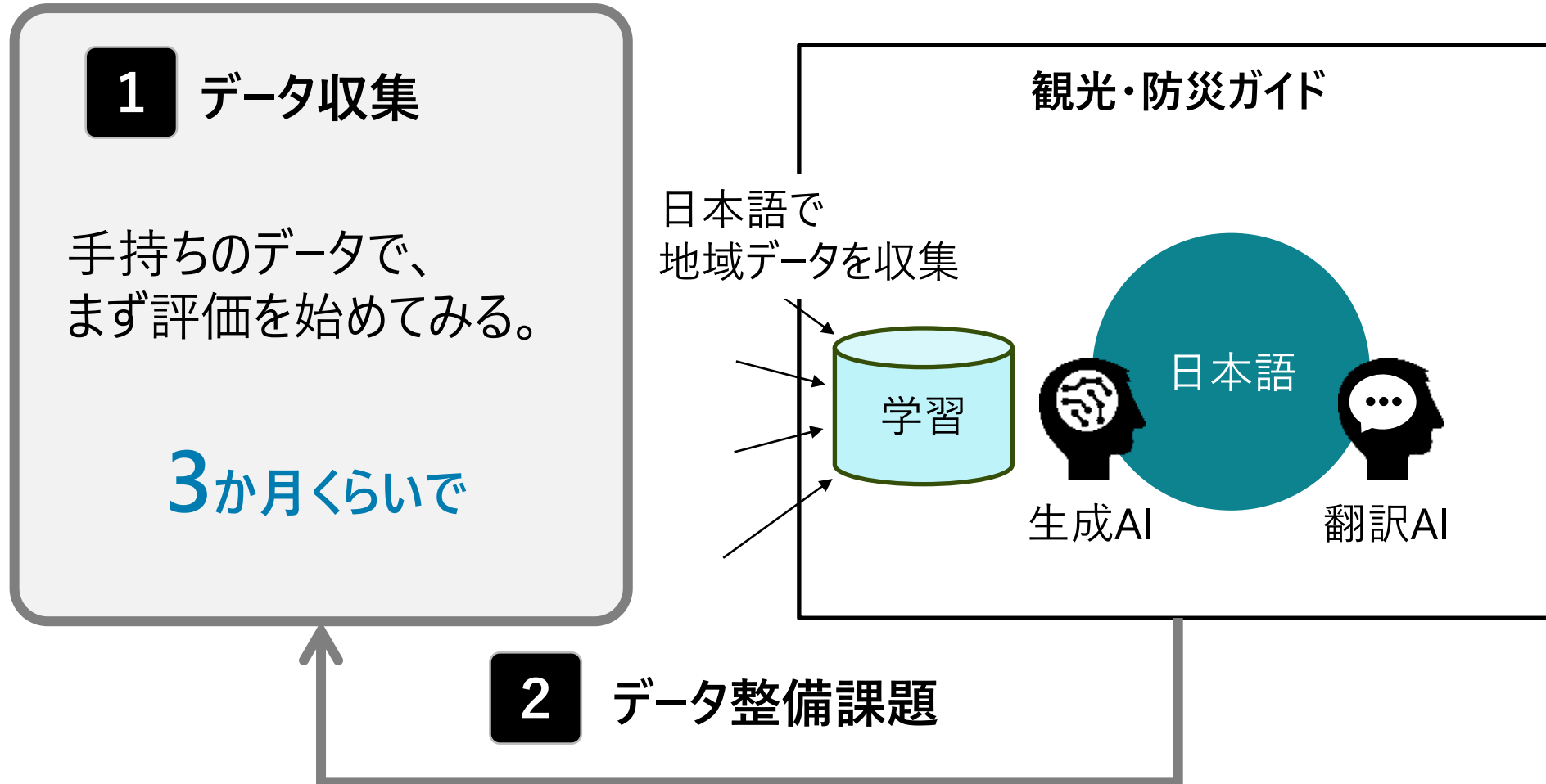
TDPF会員による体験評価を反映した、データ精査

- 令和6年10月の先行評価：収集データを精査せずに登録して、試行評価。登録数＝4,079件
- 令和7年1月の一般公開：収集データを精査して登録。登録数＝2,140件

データの種類	令和6年10月	令和7年1月	
宿泊施設、避難所、公衆便所、公衆喫煙所、救急医療施設、公衆浴場、興行場、警察、交番、病院	447件	240件	宿泊施設を削除（情報が少ないもの）
飲食店営業許可	1,649件	0件	閉店している飲食店が多く、更新・確認する仕組みが必要。（今回一律削除）
ショップガイド（秋葉原関係者提供）	781件	490件	施設の特徴を充実。コンセプトショップ協会所属店、コインロッカーを追加。
SNS投稿（ナイトレイ提供）	1,478件	749件	おなじ店舗に対する複数の投稿を集約。人気ランキングを生成して情報追加。
テレビ番組メタデータ（エム・データ提供）	354件	661件	ショップ関連情報を幅広く登録
	4,709件	2,140件	データ精査によって、ガイド品質が向上

【3-1】次年度以降の取り組み方針 他地域への展開：必要なステップ

秋葉原ガイドの実証経験から、やってみて初めて分かることが多かった。と振り返りました。
手持ちの地域データで、まず評価を始めてみる。というステップが必要だと考えます。

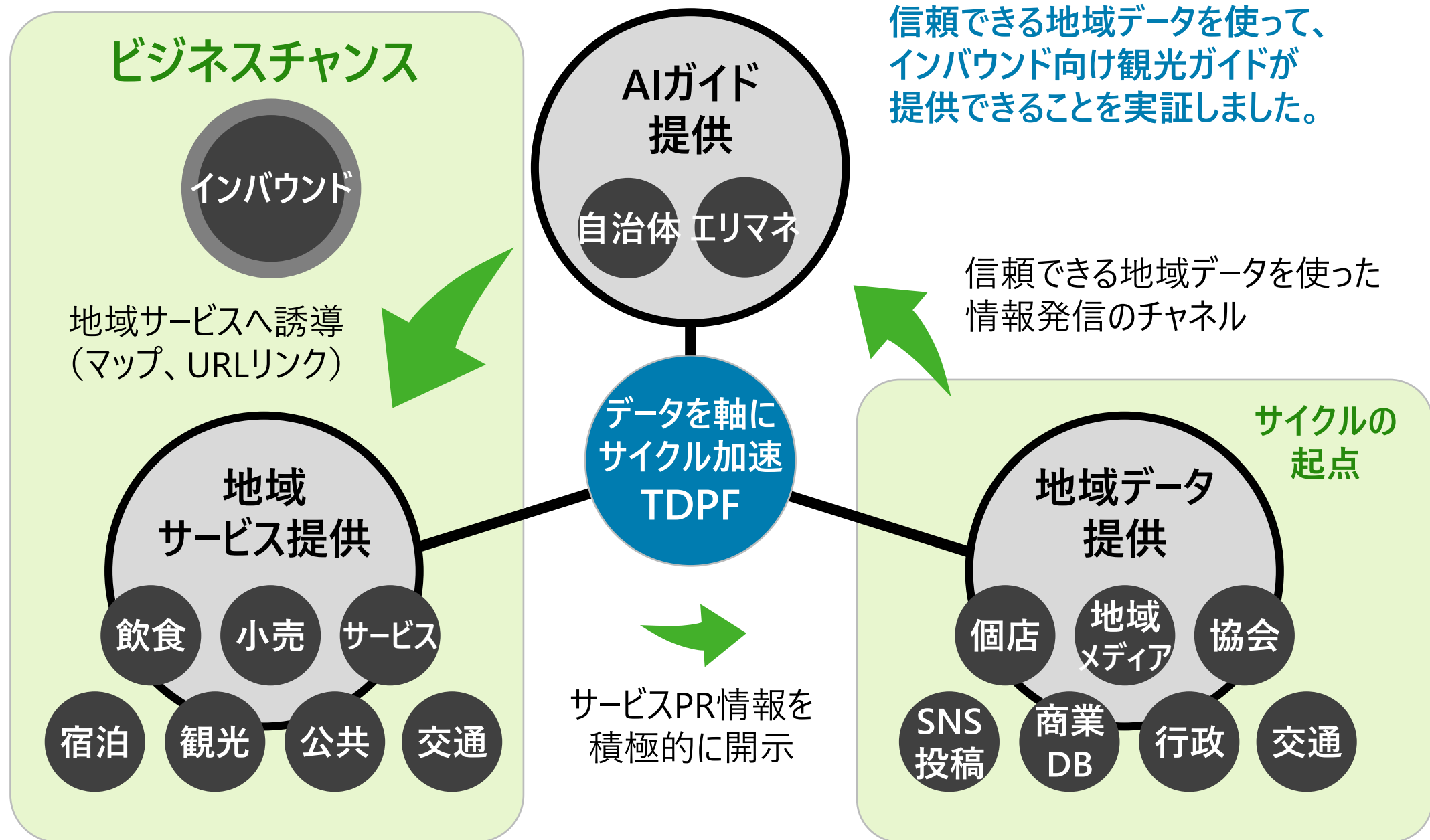


【3-1】次年度以降の取り組み方針
他地域への展開：必要なステップ

- AIプラットフォームをベースにした、クイックなサービス実証が可能です。
- サービス提供に必要な実施項目と、スケジュールをイメージで示します。

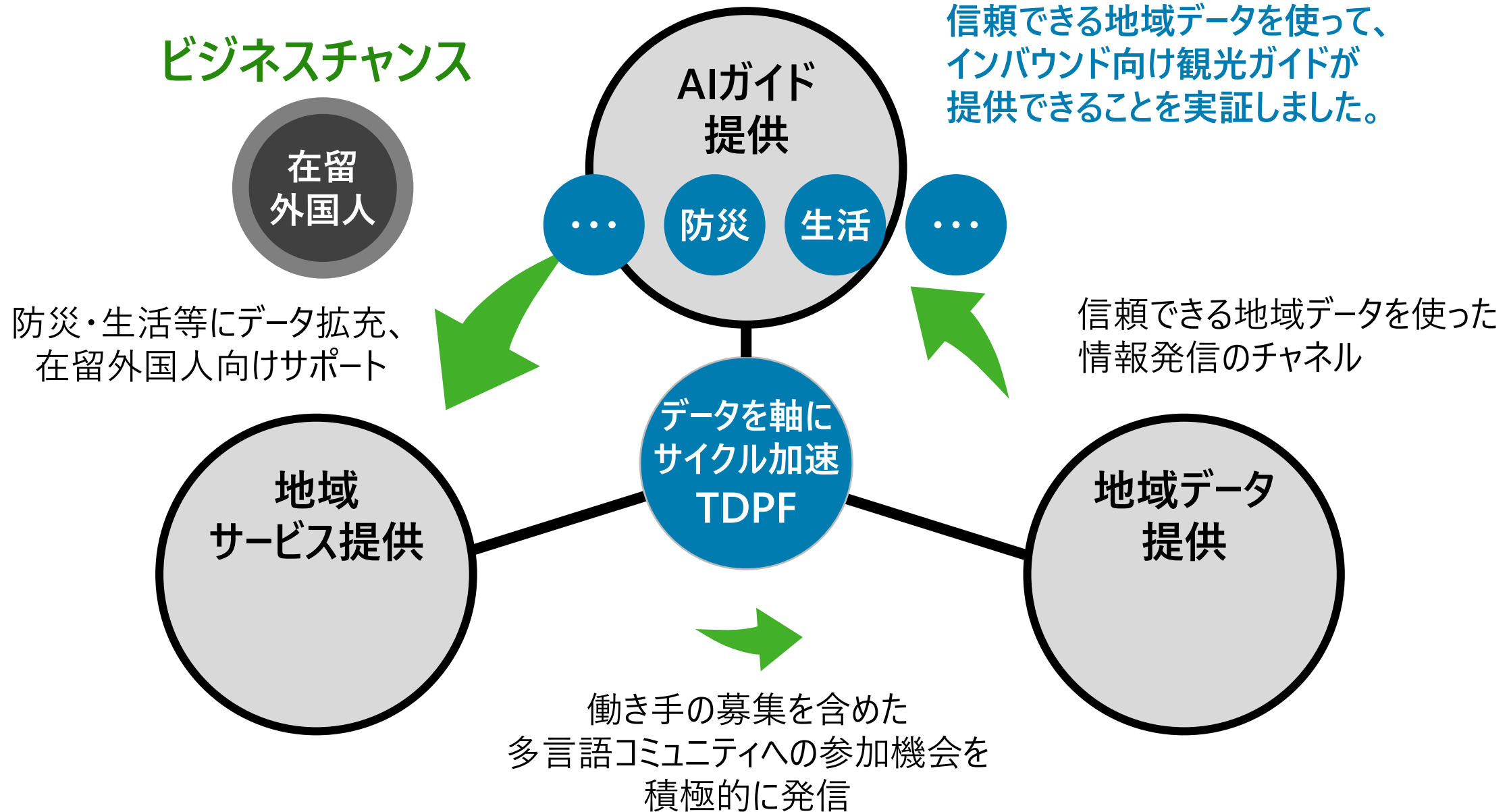
ステップ		実施事項	担当		スケジュール案					
			自治体・エリマネ	弊社ほか	N月	N+1	N+2	N+3	N+4	N+5
1	計画協議 現状確認	導入目的、提供内容、日程・体制 現状のガイド提供内容、運用体制など	○	○	▼計画策定					
2	データ収集	収集計画、データ取得 全国商業データ活用（option）	○	option						
3	AIガイド設定	生成AIのふるまい設計、プロンプト作成		○						
4	データ学習/確認	データ学習、動作確認	レビュー	○		▼中間検証				
5	サービス開始	サービスシステム提供、CSVログ提供		○		テスト環境		実証サービス提供		

【3-2】 TDPFへの還元データ活用イメージ 今年度は観光ガイドの実証



【3-2】TDPFへの還元データ活用イメージ 今年度は観光ガイドの実証

ビジネスチャンス



【3-2】TDPFへの還元データ活用イメージ さいごに：TDPF会員の皆様との協創

交流会（展示）でデモンストレーションを行います。
会場にいらしている方は、ぜひお立ち寄りください。

1

秋葉原ガイド サービス体験



2

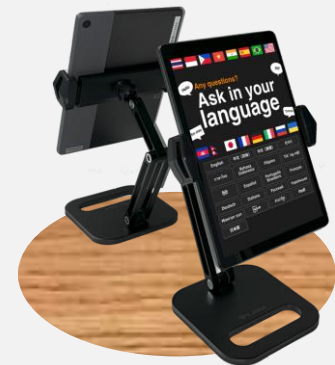
自治体様向け クイックPoCプラン

手持ちのデータで、
まず評価を始めてみる。
※プランのご説明

3

多言語AI関連 サービス

窓口
翻訳機など



オンラインで参加されている方も
後日、お気軽にご相談ください

2. 採択プロジェクトの成果報告③

沿線まるごと株式会社 取締役
会田 均 氏

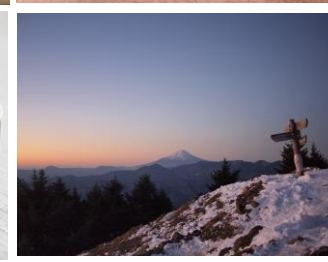
株式会社リクルート じゃらんリサーチセンター
地域創造部 東日本グループ エリアプロデューサー
定時 大介 氏



第六回TDPFコミュニティイベント発表資料

【沿線まるごと社】

- ・ 鉄道×観光×行政による持続可能な観光地経営モデルの推進



1 プロジェクトの概要

2 今年度の目指す成果

3 今年度の取組

4 今年度の成果

5 今後の展望

1. プロジェクト概要

データに基づく観光地経営のモデル構築により、東京都の社会課題を解決

背景

- ・ 観光客の来訪が一部エリアに集中していることが東京都の社会課題
- ・ 特に空洞化している青梅～奥多摩エリアでは過疎高齢化が進行しており、エリア間を繋ぐ路線「東京アドベンチャーライン」も乗車人数が減少

目的

- ・ 「東京アドベンチャーライン」を中心とし、青梅～奥多摩エリアのデータに基づく観光消費額向上施策と新たな観光データ取得を実行
- ・ 本取組をモデル化することで、多摩・島しょ地域をはじめとした都内の一層の誘客を実現し、新たな魅力創出による観光客分散を図る

2. 今年度の目指す成果

青梅～奥多摩エリアにおいてデータに基づく誘客施策を実行 振り返りまでのプロセスをモデル化したうえでTDPFに還元

社会課題の 解決

- 青梅～奥多摩エリアで、データを基に観光の現状を把握
- 「東京アドベンチャーライン」を中心とした誘客施策の検討→実行→振り返り

事業の 継続・発展

- 青梅～奥多摩エリアにおける現状把握から振り返りまでの実証プロセスを横展開可能なモデルとして構築

TDPF への貢献

- 上記モデルをレポートとして東京データプラットフォーム（TDPF）に還元することで、会員間連携による東京都内の観光施策に活用

3. 今年度の取組

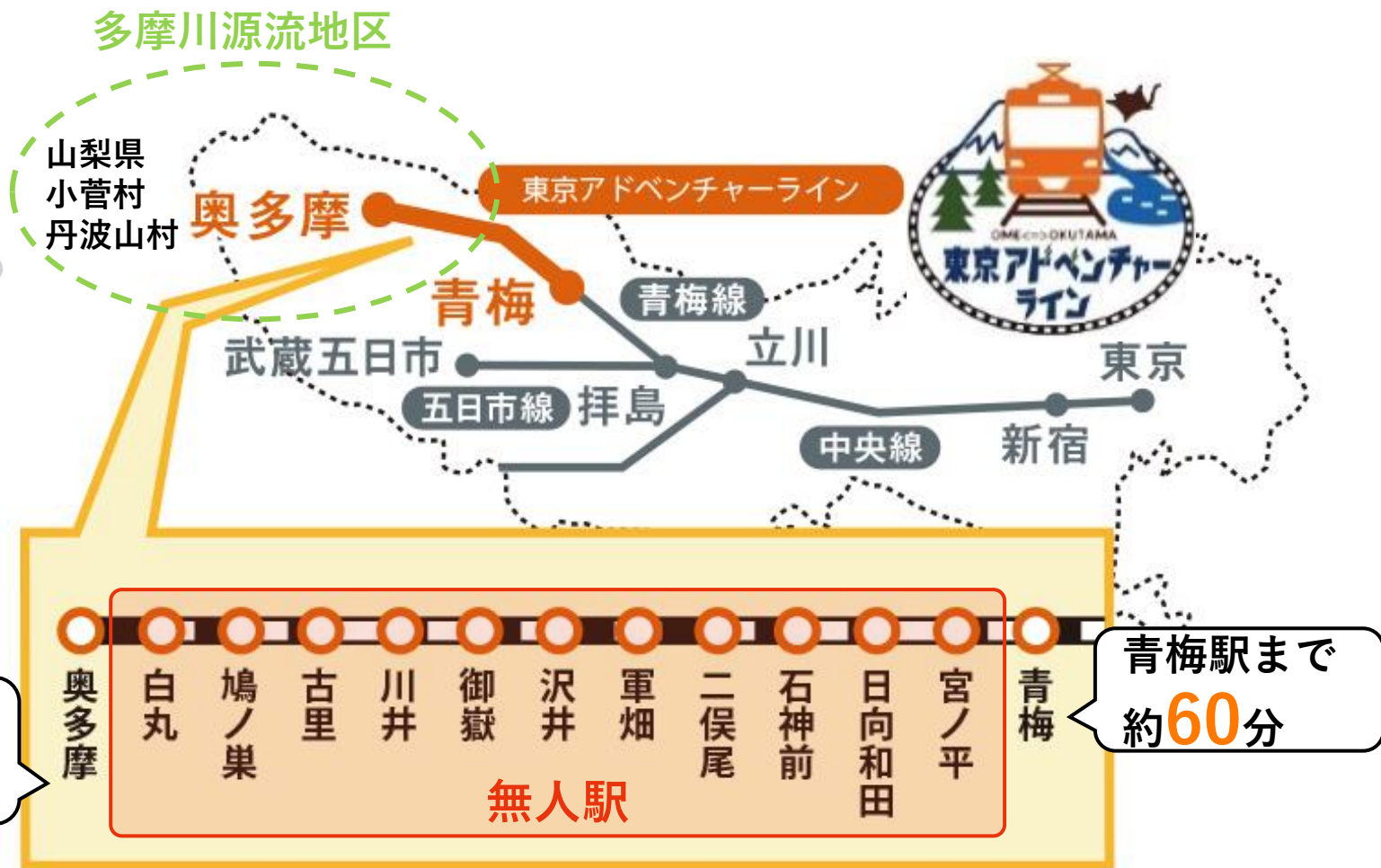
青梅・奥多摩は、都心から電車で90分程度の場所に位置し、
都内でも有数の自然を活かしたアクティビティが充実しているエリア



人口（人）

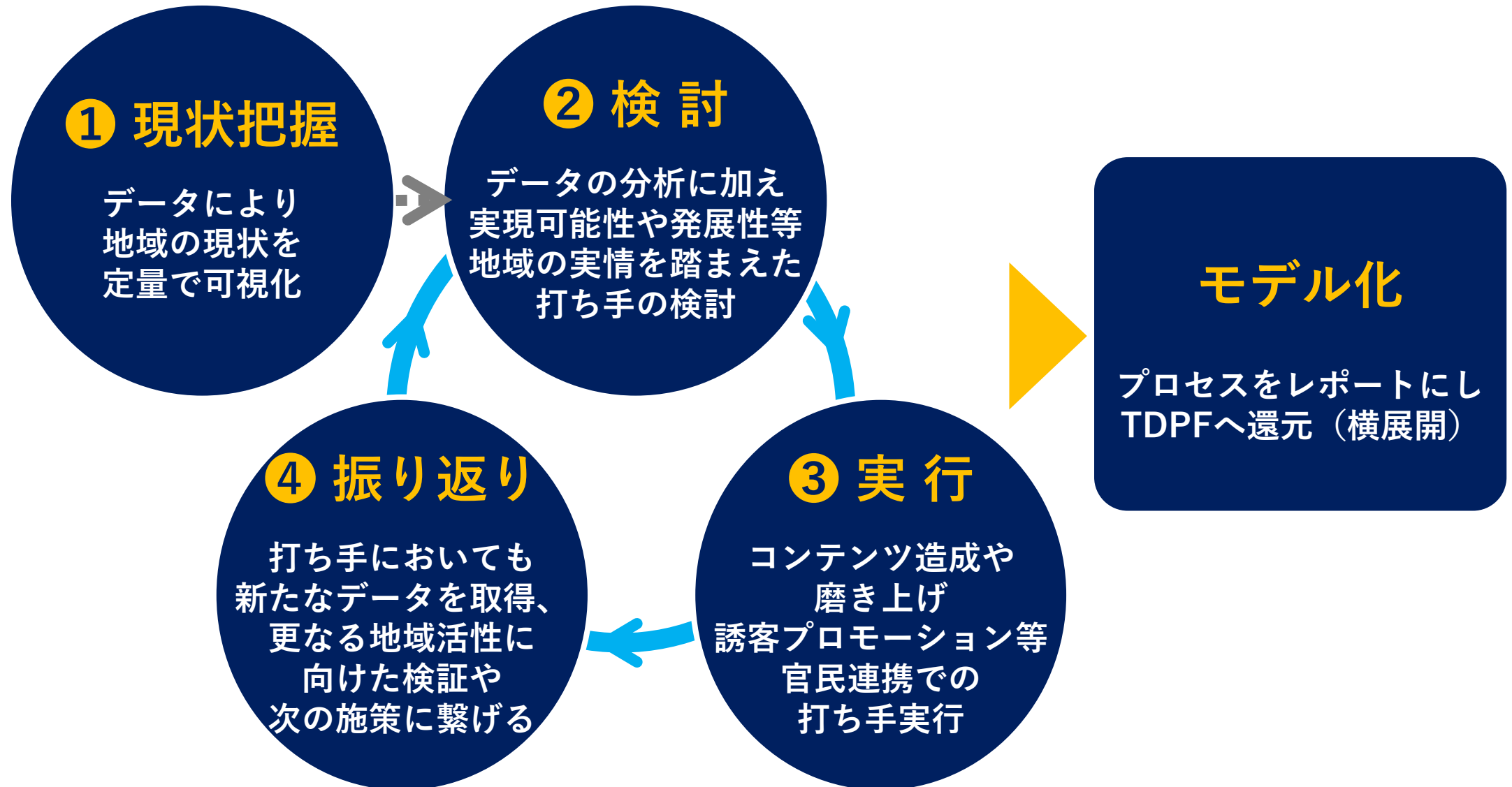
青梅市	129,468
奥多摩町	4,603

令和6年1月1日現在・住民基本台帳



※新宿駅から中央線快速-立川駅-青梅線利用

複数のデータの掛け合わせによるPDCAサイクルの確立



詳細のデータを分析する前に整理した、現場で感じていた課題

交通アクセス

東京アドベンチャーラインは
地域の過疎高齢化により
特に通勤以外の平日利用がなく
鉄道乗車人員が減少

コンテンツ

都内有数の自然を持ちながら
自然や文化資源を活かした
体験型観光のニーズの高まりに
対応した誘客ができていない

プロモーション

マーケティング等による
地域固有の魅力を活かす為の
データに基づいた
取り組みが不十分

ありたい姿

鉄道交通による利便性と都内有数の自然を生かす事で、
「鉄道利用者数の増加」ならびに「地域の活性化による観光誘客」につなげる

ありたい姿から導き出された3つのデータ分野

鉄道交通データ

体験データ

人流データ

鉄道路線である「アドベンチャーライン」を軸にした観光誘客に向けて、 有効な現状把握ができるデータを以下の視点で選定

どのように来て
・鉄道によるアクセス

どこへ行き
・観光資源
・インフラ・施設

何をしているのか
・観光体験

どのように来て
鉄道交通データ

Suica



訪問ルート

をSuica統計データにより把握

どこへ行き
人流データ

おでかけ
ウォッチャー



来訪者の周遊先

を位置情報データにより把握

何をしているのか
体験データ

じゃらん
じゃらん遊び・体験



周遊先での行動

を多角的な観光情報データ
により把握

それぞれのデータ分野においてデータ自体の品質も高い、
以下のサービスを活用



首都圏のJR東日本約600駅の
利用者情報「駅カルテ」

Suicaの利用データから
奥多摩エリアへの鉄道を利用した
訪問者に関する実数を取得

【把握できるデータ】

どのような人が
「どの駅から来て」
「どの駅に行くのか」



観光客分析に特化した
人流モニタリングツール

交流人口拡大策、データに基づく
政策評価（EBPM）、持続可能な
観光地域経営に係るデータを取得

【把握できるデータ】

どのような人が
「どこから来て」
「どこを周遊するのか」



国内最大級のOTAサイトを
通じた統計データ

リクルートが所有する『じゃらん
net』の遊び・体験やクチコミ
に関する統計データを取得

【把握できるデータ】

対象エリアの旅行者が
「関心のあるコンテンツ」
「何をしているのか」

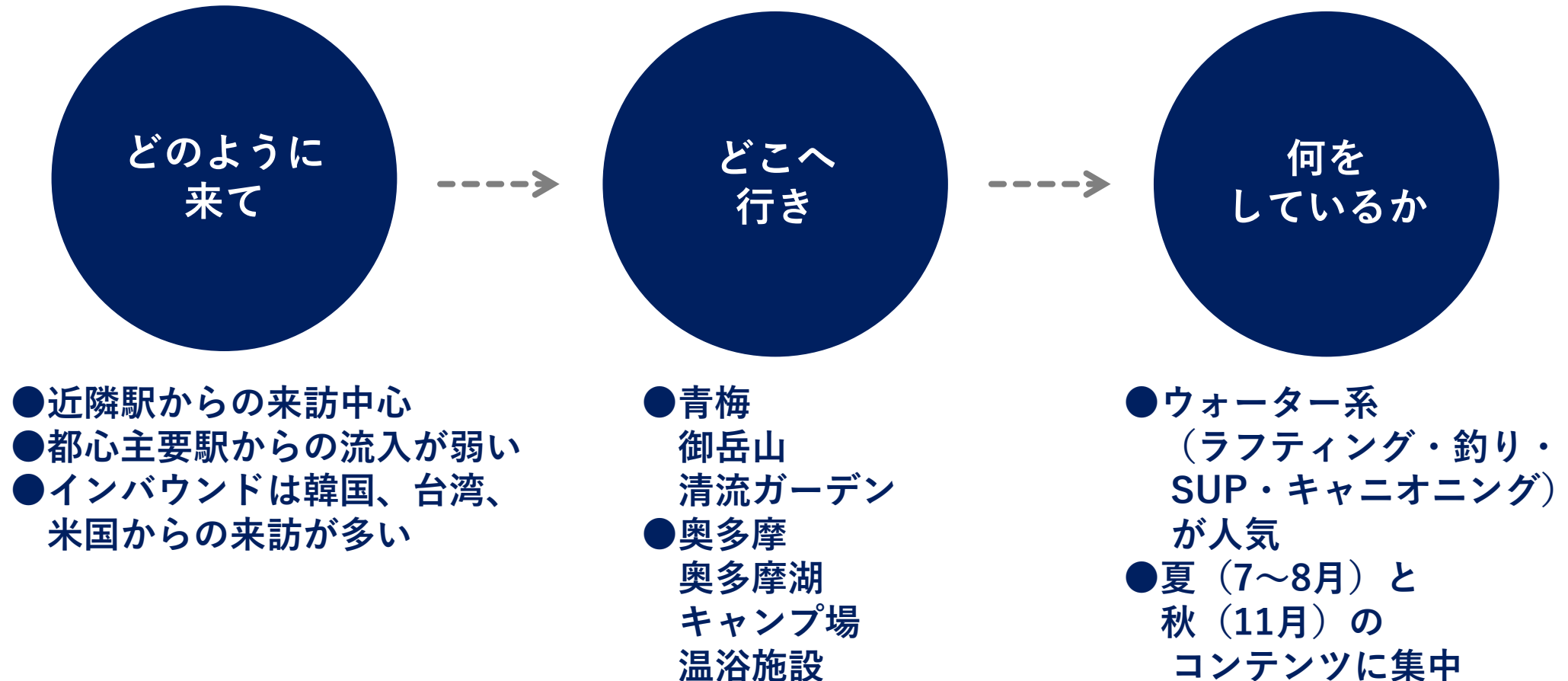
Suica 	- 他エリアと比較しても駅利用者数が少ない ➤ 青梅・奥多摩エリアの駅は高尾駅の1/3の出場数 - 特に東京駅や新宿駅といった都心主要駅からの流入が弱い ➤ 河辺や小作といった近隣駅からの入場が中心、都内競合主要駅は東京・新宿からの入場数が3倍以上 - インバウンドも同様の傾向、利用件数自体が国内と比較しても更に僅少 - 奥多摩駅の20代男性×休日の駅利用が特徴的	
おでかけ ウォッチャー 	国内・ 訪日外国人旅行者 共通	- 冬季（12～2月）に来訪者が最も減少 - 夏（7～8月）と秋（11月）が繁忙期
	国内旅行者	- 男女40～50代の来訪者が大半 ➤ 青梅:男女40～50代、奥多摩:男性20～50代、属性に関しては都内外の競合エリアと類似の傾向 - 主要な来訪スポットは限定的 - 青梅：御岳山、清流ガーデン - 奥多摩：奥多摩湖、キャンプ場、温浴施設
	訪日外国人旅行者	- 他エリアと比較してもインバウンドの来訪数が少ない ➤ 八王子は青梅の約10倍、奥多摩の約55倍の来訪者数 - 来訪トップ3は1位:韓国 2位:台湾 3位:米国 - 都内全域では1位:中国➡ 2位:韓国➡ 3位:台湾

じゃらん



- 冬季のコンテンツ掲載数自体が極端に少ない
- ウォーター系（ラフティング・釣り・SUP・キャニオニング）が人気
- 20代が多く、30代は少ない
 - 競合エリアとして設定した飯能や秩父・長瀬は40代が多い
- 1名利用が少なく、3名以上の利用は多い
- 土日祝に予約は集中（60%台）、当日予約が少ない（2%のみ）
 - 競合エリアは土日祝予約70%未満、当日予約は10%以上のところも。
- 午前中×2時間以上の体験が多い
 - 競合エリアは14時以降の体験開始予約も多く、11時12時開始もあり分散。
- 冬の人気ジャンルである日帰り温泉等の掲載がない
 - 競合エリアは例外なく、日帰り温泉や温浴関連の施設が人気となっている。

3つのデータから青梅・奥多摩エリアの観光客の行動を読み取ることで この地域が従来から持っている観光のポテンシャルを引き上げる



調査前後での青梅・奥多摩エリアが抱える課題の比較

現場が感じていた課題

交通 アクセス

東京アドベンチャーラインは
地域の過疎高齢化により
特に通勤以外の平日利用がなく
鉄道乗車人員が減少している

- ・ 駅利用者数が少ない
- ・ 都心主要駅からの流入が弱い
- ・ インバウンドも同様の傾向

コンテンツ

都内有数の自然を持ちながら
自然や文化資源を活かした
体験型観光のニーズの高まりに
対応した観光誘客ができていない

- ・ 冬季（12～2月）に来訪者が減少傾向
- ・ 夏（7～8月）と秋（11月）が繁忙期

プロモーション

マーケティング等による
地域固有の魅力を活かすための
データに基づいた取り組みは
不十分と考えられる

- ・ 男女40～50代の来訪者が大半
- ・ 来訪スポットは限定的

- ・ インバウンドの来訪数が少ない
- ・ 来訪トップ3は韓国、台湾、米国

- ・ 冬季のコンテンツ掲載が極端に少ない
- ・ ウォーター系が人気
（ラフティング・釣り・SUP・キャニオニング）

観光地経営モデルの構築に向けた打ち手の検討

課題

- ・ 他エリアと比較しても駅利用者数が少ない
- ・ 冬季（12～2月）に来訪者が減少傾向
- ・ 国内観光客の主要な来訪スポットは限定的
- ・ 河辺や小作といった近隣駅からの入場が中心
- ・ 東京駅や新宿駅といった都心主要駅からの流入が弱い
- ・ 都内競合主要駅は東京・新宿からの入場数が3倍以上
- ・ 他エリアと比較してもインバウンドの来訪数が少ない
- ・ 来訪トップ3は1位:韓国 2位:台湾 3位:米国

打ち手の方向性

- ▶ 冬季に実施できる、青梅・奥多摩エリアならではのコンテンツ造成・磨き上げを行う事で、来訪目的を作る
- ▶ 既に一定数来訪のある青梅線ユーザーに対しては新たな来訪目的を作る事で、誘客強化を図る
- ▶ これから呼び込みたい中央線ユーザーに対しては、上記に加え、ターゲットを絞ったPRが必要
- ▶ 特にインバウンドに対して、青梅・奥多摩エリアへの誘客増に向けてPRを兼ねたリサーチを行う
- ▶ 来訪トップ3（韓国/台湾/米国）のうち伸びしろがある台湾に絞ったアプローチを実施

打ち手に応じた5つのアクションプラン

打ち手の方向性

具体的なアクション

冬季に実施できる、青梅・奥多摩エリアならではのコンテンツ造成・磨き上げを行う事で、来訪目的を作る

A. 勉強会＋OTA掲載支援

既に一定数来訪のある青梅線ユーザーに対しては新たな来訪目的を作る事で、誘客強化を図る

B. アドベンチャーラインにおけるコンテンツ造成

これから呼び込みたい中央線ユーザーに対しては、上記に加え、ターゲットを絞ったPRが必要

C. JRE Ads × じゃらん特集

特にインバウンドに対して、青梅・奥多摩エリアへの誘客増に向けてPRを兼ねたリサーチを行う

D. リアルイベント@東京駅

来訪トップ3（韓国/台湾/米国）のうち伸びしろがある台湾に絞ったアプローチを実施

E. インバウンド向けPR

※其々が分断したアクションではなく、相互に影響し合うものとなります

今年度のアクションプランは、以下の5つの施策を実施

A. 勉強会＋OTA掲載支援

データ提供
& 販売ノウハウ紹介



造成・磨き上げ
→ 販路構築 (OTA)



B. アドベンチャーライン におけるコンテンツ造成

閑散期（冬季）での
来訪の目的創出



多様なニーズに対応
するコンテンツの造成



C. JRE Ads × じゃらん特集

JRE Ads/じゃらんnet
によるメディア展開



A・Bテストによる
広告効果の検証



D. リアルイベント @東京駅

インバウンド乗降者数
6位の東京駅で開催



青梅奥多摩の魅力を
インバウンドへPR



E. インバウンド向けPR

外国でも伸張性の高い
台湾市場向けのPR



認知・関心把握を目的
にアンケートも実施



データ分析ならびに検討の方向性

閑散期（冬季）に体験できるコンテンツを造成・磨き上げ
来訪目的を作り青梅・奥多摩エリアの知られざる魅力を訴求

●コンテンツ造成・磨き上げ時のキーポイント

✓冬季ならではの or 通年提供可能な体験

└寒い時期に行きたい温泉・サウナ、冬ならではのアウトドア、
室内体験には+αで青梅・奥多摩らしさ

●冬季ターゲット仮説

【コア層（顕在）】男女40～50代（登山や温泉目的）

土日祝で3名以上（20代の若者グループや小学生以上の家族連れ等）

【サブ層（潜在）】男性20代

（夏季のウォーター系コンテンツやキャンプ等で、エリアを認知した層）

平日に動ける近隣エリアの主婦やシニア

まずはインバウンドの認知向上を図るべく

来訪トップ3（韓国/台湾/米国）のうち「台湾」に絞ってアプローチ

✓政府統計等をもとに、1人当たり旅行消費額とリピート率の高さでターゲット市場を選定

✓浅草/渋谷や京都/大阪といったゴールデンルート以外を体験したい層に対する訴求

A. 勉強会＋OTA掲載支援

→客観・定量の共通指標で地域一体で推進

B. アドベンチャーラインにおける
コンテンツ造成

→ターゲット毎に沿線起点のツアーを造成

C. JRE Ads × じゃらん特集

→ターゲットに応じた
青梅・奥多摩エリアのPR

D. リアルイベント@東京駅

→ 旅ナカのインバウンドの
認知関心を高める

E. インバウンド向けPR

→ 旅マエのインバウンドの
認知関心を高める

奥多摩&青梅エリアの観光データを活用したコンテンツ造成・磨き上げ勉強会

2024年11月5日、青梅・奥多摩エリアで活動されている観光関連事業者さまを対象にした勉強会を実施

【第1部】観光客データを活用した、着地型旅行商品の造成・磨き上げのヒント



青梅・奥多摩エリアの現状について各種データを基にご説明

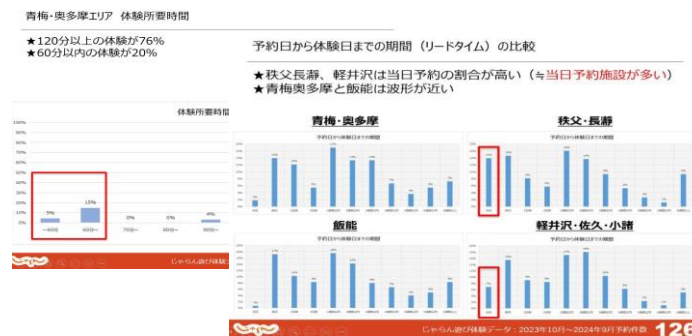


体験コンテンツの造成や磨き上げについて他地域事例を交えてご説明

【第2部】個人旅行者に対する着地型旅行商品のマーケットと販売ノウハウ



OTAを通じた販売促進のノウハウ等についてご説明



現状データや競合比較など（当日資料抜粋）

参加者からのお声



参考になる具体的事例など沢山共有いただき、今後の経営のヒントを得ることが出来た。

付加価値を強める意識が高まった。青梅における各種データを知れたことが良かった。



観光関連事業者が集まり、勉強出来る機会を作っていただけて良かった。立ち止まって考えたり、対話できる時間はとても貴重。



今後の新しい顧客層を獲得するきっかけになりそうだった。



閑散期（冬季）における誘客を一層促進すべく、青梅・奥多摩エリアに眠る 地域固有の観光資源をコンテンツとして造成・磨き上げ

事例その1

冬でも寒くない
室内での工芸



ここでしか
できない特別感



シーズン需要
(年賀状への押印等)
との掛け合わせ

黄綬褒章を受章された「現代の名工」の指導による
梅の小枝で手作りハンコ体験



事例その2

寒い時期に
行きたくなる



冬だからこそ
良い体験



その土地ならではの
高付加価値化

『貸切テントサウナ+ドラム缶風呂』
～見晴らしのいいウッドデッキで整う体験～



※プラン内容の伴走に限らず、データを基にした価格設定や利用制限、予約設定の見直しなど細かな部分の改善も実施

駅を降りてからそのまま体験できるアドベンチャーライン起点の 冬季コンテンツを多様なターゲットに合わせて造成

沿線まると宇宙教室



都心とは対照的に人口の明かりが少なく、星空観測に最適なエリア
都心から約60分で豊かな自然を体験できる地域の強みを発揮

- ① 【顕在層】 土日祝で3名以上のグループをターゲットにしたファミリーにおすすめ「親子で学ぼう宇宙体験ツアー」
- ② 【潜在層】 夏季に訪れた男性20代をターゲットにしたカップル・夫婦におすすめ「星空のRELAXNIGHT」
- ③ 【顕在層】 来訪者数の多い男女40～50代をターゲットにした「地酒を星空に酔いしれる夜」

ガ酒(しゅ)トロノミー -Sake&Gastronomy-



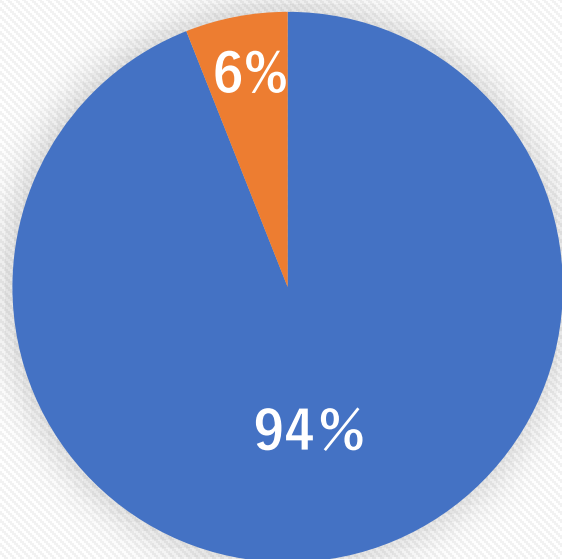
奥多摩の名水を使用した日本酒を醸造する酒蔵を軸に
青梅・奥多摩エリアの大自然を「食」を通じて訴求

- ④ 【潜在層】 平日に動けるシニア層をターゲットにした「ワークショップ『甘酒』編」
- ⑤ 【潜在層】 平日に動ける主婦層をターゲットにした「ワークショップ『美容』編」
- ⑥ 【顕在層】 伸張性の高い台湾市場をターゲットにした「Sake&Gastronomy編」

沿線を起点としたコンテンツ造成から見た示唆

現在のツアー参加者は全て首都圏から来訪、課題としていた冬季にも
青梅・奥多摩エリアへの来訪意欲が高いこと等を確認

来訪手段

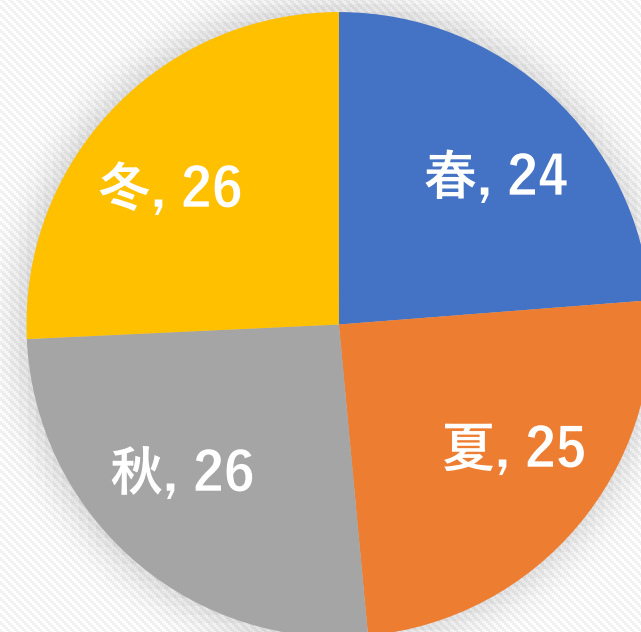


■ 電車
■ 車

宿泊と併せて体験したいサービス

順位	サービス
1 位	温泉・スパ
2 位	季節のイベント
3 位	星空観察
4 位	地酒試飲
5 位	散歩/ヨガ

選んだサービスを
体験したい時期（複数可）



国内観光客向け施策としての、JRE Ads及びじゃらんnetを活用した情報発信

現状把握プロセスで確認した顕在層・潜在層に対して、
青梅・奥多摩エリアの冬季コンテンツバナーを用いたターゲティング広告を実施

顕在層

既に一定数
来訪している
『青梅線ユーザー』
(定期券利用者除外)

潜在層

今後、都心部から呼び込みたい
『中央線ユーザー』



ベンチマークエリアへの来訪者

都心部からのアクセス（移動時間）が
青梅奥多摩エリアと近い、
高尾、軽井沢、那須塩原を訪問した者



【顕在】
4~50代

【潜在】
20代

屋内



屋外



国内観光客向け施策としての、JRE Ads及びじゃらんnetを活用した情報発信

青梅・奥多摩エリアへの誘客を各媒体を通じて図りながら、
どの層がどのコンテンツに興味・関心を持ったかを振り返る

バナー（興味・関心）



特集ページ（検討）



青梅・奥多摩へ（体験）



ターゲティング広告により把握できた観光客の志向・関心

全年代で「温泉」に対する関心が高く、
「温泉・登山：45-54歳」「サウナ・キャンプ：35-44歳」がボリュームゾーン



年代別	18-24歳	25-34歳	35-44歳	45-54歳	55-64歳	65歳以上	不明
温泉	39%	51%	53%	57%	63%	64%	53%
登山	23%	21%	18%	20%	20%	20%	19%
サウナ	20%	13%	13%	10%	9%	9%	14%
キャンプ	18%	14%	16%	13%	8%	7%	14%

広告別	18-24歳	25-34歳	35-44歳	45-54歳	55-64歳	65歳以上	不明
温泉	3%	14%	17%	21%	10%	7%	27%
登山	6%	16%	16%	21%	9%	6%	27%
サウナ	8%	16%	19%	16%	6%	4%	31%
キャンプ	6%	16%	21%	20%	5%	3%	28%

2024/12/2～1/31の広告配信結果

インバウンド乗降者数 6 位の東京駅においてPRイベントを開催



主要駅や空港で販売されている
インバウンド向けSuica (Welcome Suica)
のデータに基づく

2023年度4Qの乗降者数ランキング

順位	駅名
1 位	新宿駅
2 位	渋谷駅
3 位	東京メトロ浅草駅
4 位	上野駅
5 位	秋葉原駅
6 位	東京駅
7 位	池袋駅
8 位	新橋駅
9 位	銀座駅
10 位	浜松町駅



羽田空港や成田空港からのアクセスも良く、
インバウンドの増加が顕著な東京駅
全国の各都市を結ぶ高速バスターミナル
がある八重洲口に隣接した
『JAPAN RAIL CAFE TOKYO』で開催

来訪地ではなく経由地で
青梅・奥多摩との接点を創出



東京駅八重洲口



青梅市、奥多摩町の各自治体ブースを設置し、インバウンドを対象にPR&リサーチ

当日の様子



アンケート結果

項目	結果
インバウンド回答件数	39件
青梅・奥多摩認知度	5%
イベント参加後のエリア来訪意欲 (5段階のうち5・4の割合)	85%
最も関心が高い温泉への訪問意欲 (5段階のうち5の割合)	66%

イベント参加者からの声



今回の訪日旅行では原宿、新宿、秋葉原を訪れた。こんなに近くに、このようなエリアがあることを全く知らなかった。非常に魅力的だと感じたので、次回訪日旅行時は絶対に行きます
(インバウンド、アジア圏、カップル)

若い頃に一度キャンプで訪れたことがあったが、それ以来情報に触れることが無かった。現在の青梅・奥多摩エリアがこんなにも魅力的になっていることを知らなかったため、ぜひ家族で訪問してみたいと思う。
(国内、都内在住、女性)



プロモーション&アンケート施策を実施することで、新たなデータ収集を実施

ターゲット選定

インバウンド来訪者数
1位 韓国 2位 台湾
という人流データでの現状から
ターゲットを絞り込み

観光庁「インバウンド消費動向調査」
日本政府観光局「訪日マーケティング戦略」
などを参考に、

1人当たり旅行支出



リピーター率

を踏まえて「台湾」市場に狙いを絞り
2回目以降の東京来訪から
青梅・奥多摩エリアへ

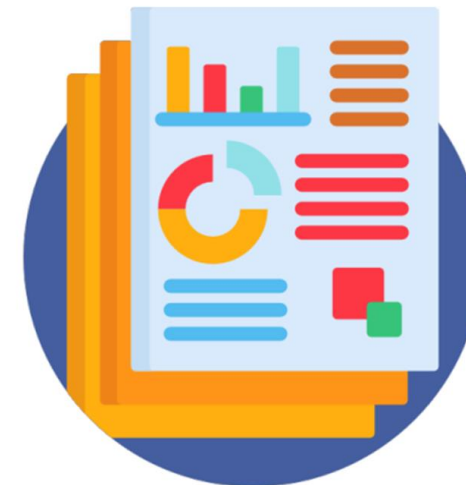
アプローチ

台湾で使用率No.1の
旅程作成プラットフォームアプリ
のユーザーのうち、
東京来訪経験者に絞ってアプローチ



振り返り

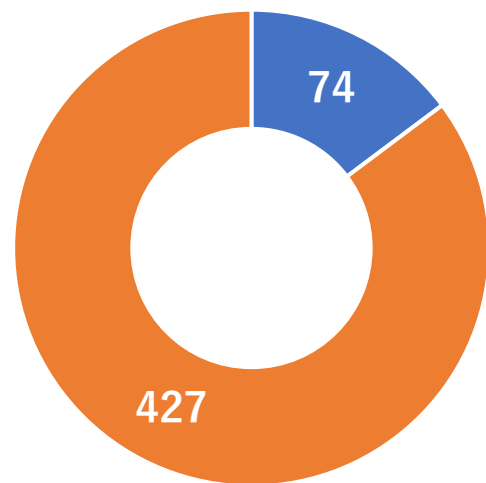
約500名分のデータから
青梅・奥多摩エリアにある12の
観光資源への興味関心や訪問意欲を確認
→認知を高めながら動向を把握



台湾市場へのアプローチ結果と新たなデータから見えるインバウンド誘客の可能性

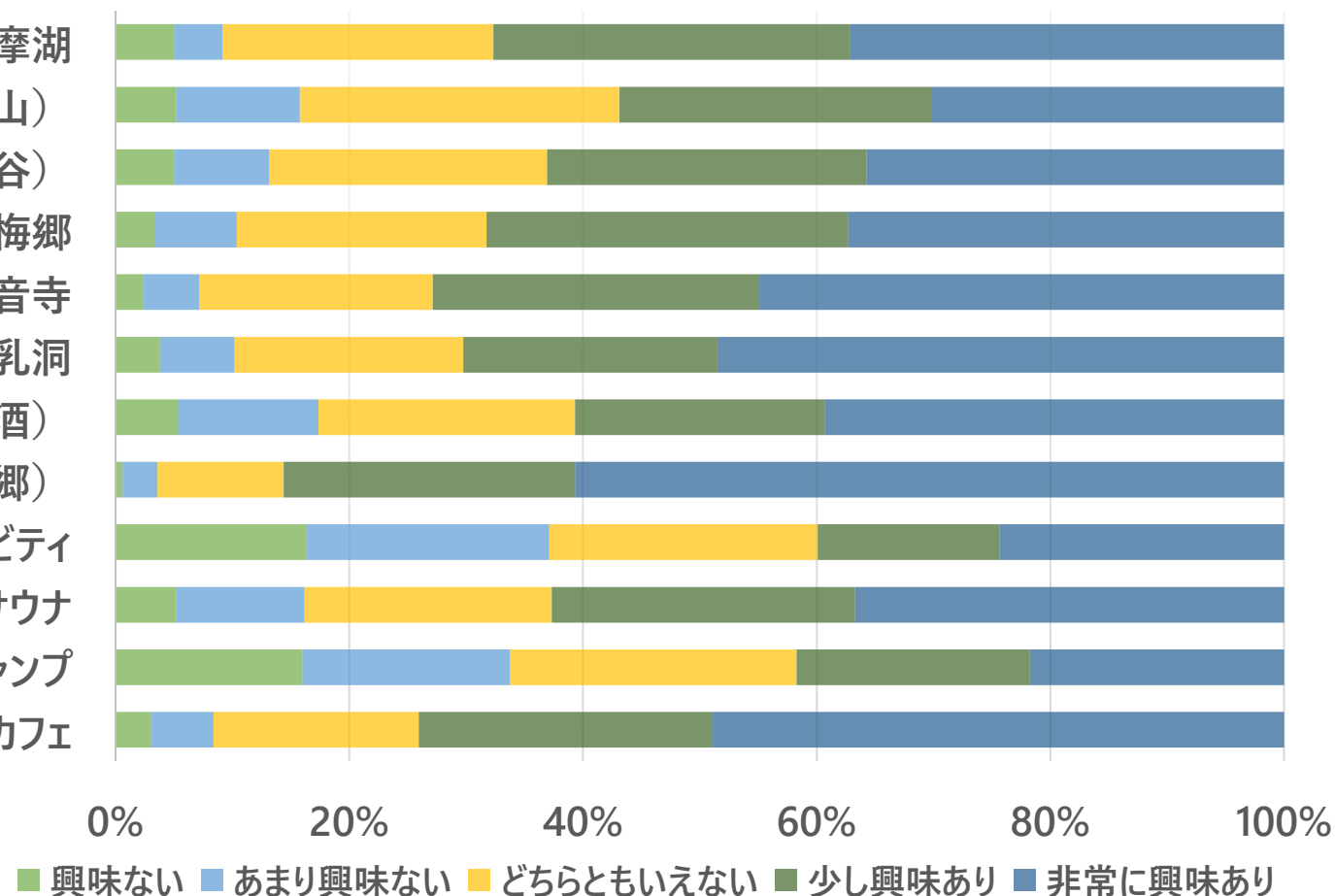
青梅・奥多摩を含む多摩エリアへの来訪経験自体がリピーター率の高い台湾層でも少ない状況
エリア内観光資源の訴求とともに、「温泉」に対する興味・関心の高さなどを確認

多摩地区
(立川、八王子・高尾、青梅・奥多摩)
の訪問経験



■ あり ■ なし

- 1.奥多摩湖
- 2.山（雲取山）
- 3.溪谷（御岳溪谷）
- 4.吉野梅郷
- 5.塩船観音寺
- 6.日原鍾乳洞
- 7.グルメ（酒）
- 8.温泉（岩蔵温泉郷）
- 9.ウォーターアクティビティ
- 10.サウナ
- 11.キャンプ
- 12.カフェ



データに基づく現状把握を踏まえて実行した 各アクションプランから得られた新たなデータ・示唆

具体的なアクション

A. 勉強会＋OTA掲載支援

地域の実情を定性的にも捉えながら、データや競合エリアとの比較を通して、根拠をもったコンテンツの造成・磨き上げに繋げた（冬季コンテンツ約150%増）

B. アドベンチャーラインにおけるコンテンツ造成

首都圏からの鉄道を利用した来訪の伸びしろと共に、課題である冬季（閑散期）だけでない四季に応じたPRによる更なる誘客の可能性を確認

C. JRE Ads × じゃらん特集

青梅・奥多摩エリアにおける冬季コンテンツの内特に全年代で温泉に対する興味・関心度が高い傾向

D. リアルイベント@東京駅

青梅・奥多摩エリアの認知度の低さ（全体の5%）東京駅に訪れているインバウンドは日本での旅程が決まっている事もあり、旅マエPRの有効性を確認

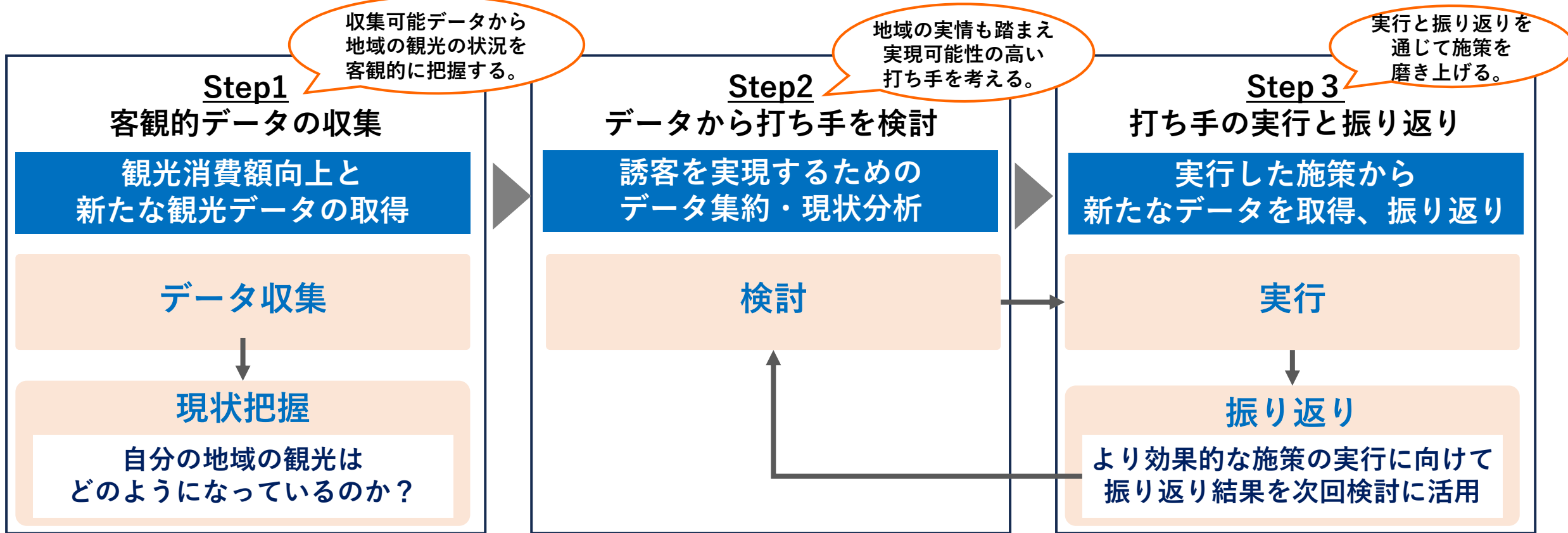
E. インバンド向けPR

台湾国籍の訪日旅行経験者500名から青梅・奥多摩エリアに対する関心度合や動向を把握し、特に「温泉」のコンテンツに伸びしろがあることを確認

4. 今年度の成果

データの収集から観光地経営モデルの実装までの流れ

自治体としての「ありたい姿」に基づいて、
客観的データの収集～打ち手の検討～実行・振り返りまでのプロセスが基本



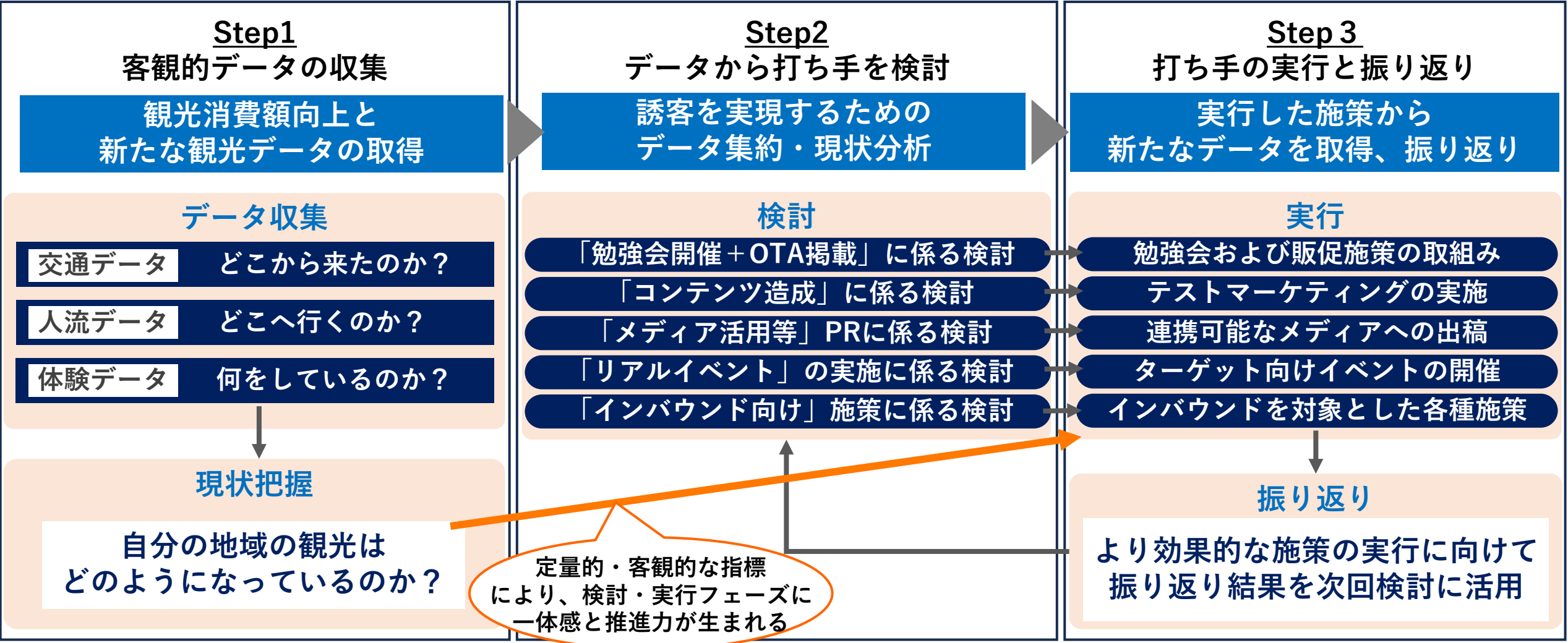
ありたい姿に向けた
必要な客観的データの収集・分析

持続可能な観光地経営モデル構築に向けた
効果的かつ実現可能なトライアルと振り返り

データに基づく意思決定の基本となるデータ分析に重要なことは“客観的データを集める環境の整備”

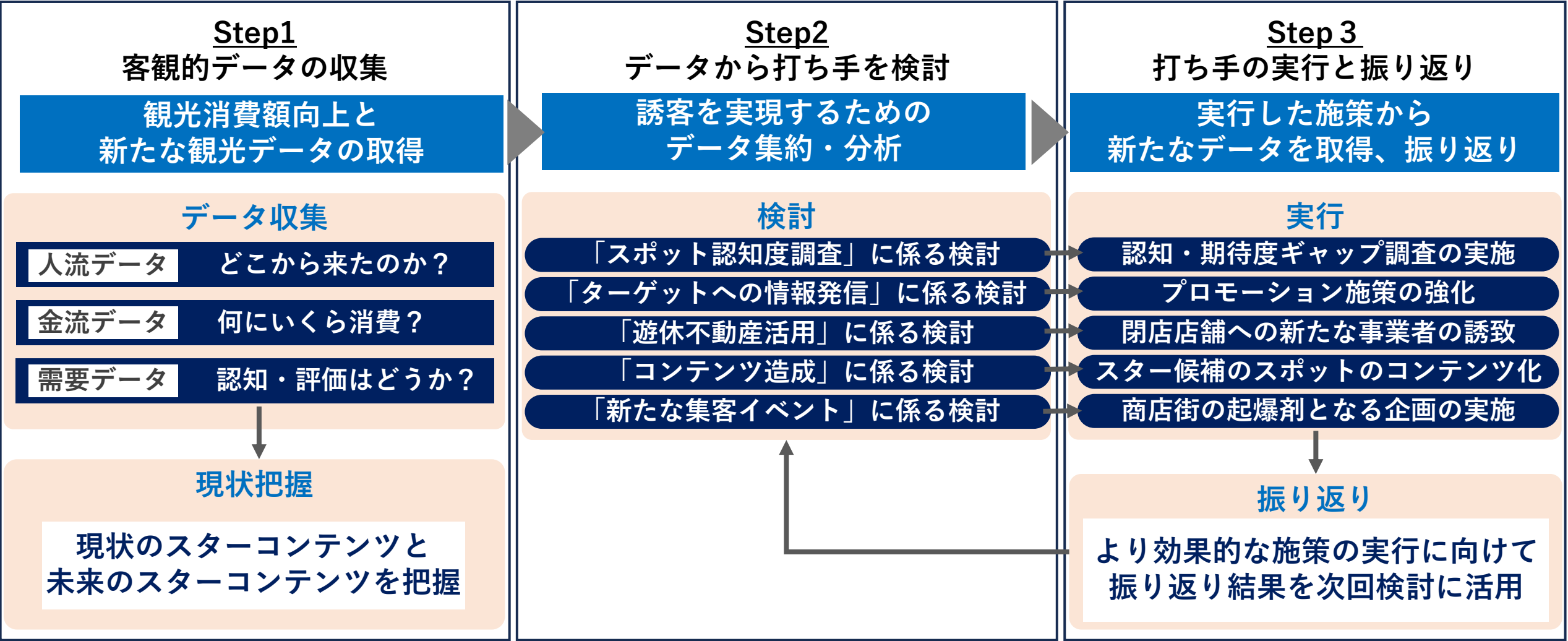
本実証事業での具体例（青梅市・奥多摩町の場合）

本実証事業では、鉄道路線である「アドベンチャーライン」を軸にした観光誘客に向けて、交通・人流・体験の3種のデータで現状把握した上で、検討→実行→振り返りのプロセスを実施



他地域での展開イメージ

ありたい姿が「新たなスターコンテンツによる来訪地の分散と商店街の活性化」の場合、消費額などの金流データや、SNSや口コミなどの需要データ等を掛け合わせた以下のようなプロセスが考えられる



地域のありたい姿に応じたデータ収集（環境の整備）の考え方

ありたい姿

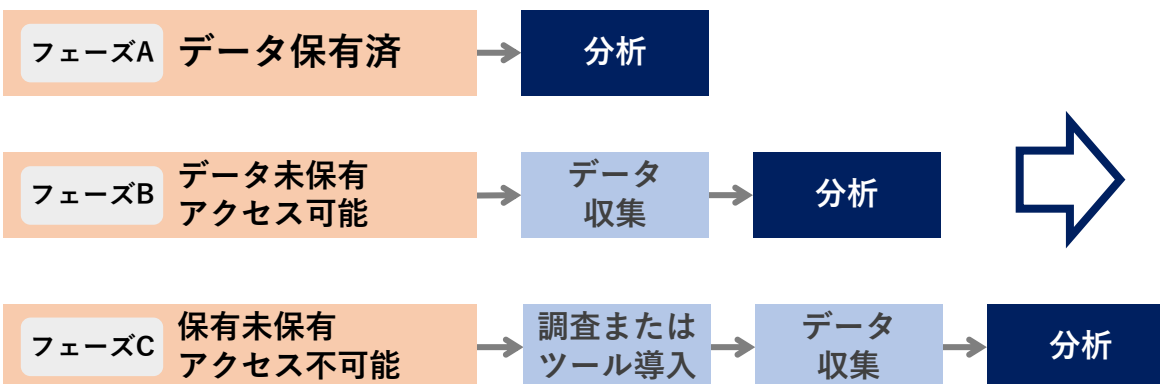
データ分野の特定と細分化に向けて言語化（本実証事業では「鉄道」×「人流」×「観光」）

データ分野
の特定



数多あるデータ種別の中から
ありたい姿に応じて
必要なデータ分野を
特定して細分化

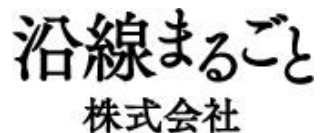
データ収集
環境整備



全データが保有済である必要はなく、
ツール導入やTDPF会員間連携等により
保有・アクセスできることが重要

5. 今後の展望

青梅・奥多摩エリアの活性化に向けた令和7年度以降の展望について



沿線まるごと
株式会社

- 2025年5月から東京アドベンチャーライン沿線に宿泊棟が開業。日帰り体験だけでなく宿泊を通じた地域の歴史・文化・自然を感じる滞在体験も提供。
- 今回のターゲット層や観光客の志向・関心・動向データを基に、より効果的な誘客促進と奥多摩・青梅エリアの魅力提供に繋げていく。



青梅市
・
青梅市
観光協会

- 観光客の動向を可視化し、どんなコンテンツにこういった層が関心を持っているかをデータで確認できたので、今後の地域事業者との連携や誘客促進施策に活用していく。
- 肌感覚を基にした判断が中心になっていた状況から、データに基づく検討が可能となった。



奥多摩町
・
奥多摩
観光協会

- 本取り組みで得た情報を基に、定量的・客観的に物事を地域（事業者）に伝えられるようになった。今後の「（仮称）観光・産業振興計画策定」や観光資源のPRなどの観光行政に活かしていく。
- 今回の取組でデータを活用して具体的に何ができるかを把握できた為、これまで実施してきた施策をより高度化することを検討。

本実証事業モデルを通じた他エリアへの横展開について

本実証事業のケースに加え、各種データを活用した地域活性に向けた連携・支援が可能



東日本旅客
鉄道株式会社

- ・ 駅カルテを通じて、まちの玄関口である駅の「利用のされ方」「事業ポテンシャルの有無」などを幅広く把握することにより、地域の特徴に合わせた事業・サービス展開に向けたデータ活用につなげることが可能。



株式会社
ブログ
ウォッチャー

- ・ 『国内版・訪日版』共に国内最大規模の位置情報データを基に、観光行政・観光マーケティングに必要な現状把握のご支援が可能。
- ・ 人流（位置情報）データを活用した観光振興施策だけでなく、都市開発・広告・不動産の分野等で幅広い連携も可能。



株式会社
リクルート

- ・ 全国の観光・地域活性の最新事例、幅広い分野の研究・調査ノウハウ、「じゃらん」の膨大なマーケットデータ等に基づくご支援が可能。
- ・ 「何から手を付けて良いかわからない」といった地域の現状把握から、状況に応じたご支援～効果の振り返りまで、一気通貫で地域の皆様の想いと共に伴走させていただく事が可能。

TDPFへのデータ還元と活用

分析

東日本旅客鉄道株式会社

× Suica（統計データ）

× 株式会社ブログ
ウォッチャー

× 人流（統計データ）

株式会社リクルート

観光情報（統計データ）

施策検討

沿線まるごと株式会社
株式会社リクルート

各種統計データを
軸に施策を検討

施策実行

沿線まるごと社・行政

× 現地での地域連携

× 東日本旅客鉄道株式会社

PR

× 株式会社リクルート

PR、コンテンツ造成、
磨き上げ

検証

株式会社リクルート

各種取組結果や、
プロモーションと
連動した結果を集約、
レポートを作成



TDPF

提供
還元



ポ
イ
ン
ト

①路線単位での人の動き（国内・インバウンド）を各会員に展開

②データ利活用のユースケースを解像度高く各会員が把握可能

③特定路線を活用するユーザの関心・志向も確認

2. 採択プロジェクトの成果報告④

アールイー株式会社 代表取締役
今井 直樹 氏

全国油脂事業協同組合連合会 事務局長
塩見 正人 氏

家庭系廃食用油 トレーサビリティシステム構築プロジェクト

全国油脂事業協同組合連合会
株式会社エコクリエイティブ
アールイー株式会社

1. プロジェクト概要

【1】プロジェクトの概要

【1-1】プロジェクトの背景・目的



廃食用油は、“食料安全保障”と“エネルギー安全保障”の両面で重要

昨今、世界的に航空業界の再生燃料SAF等のエネルギー利用需要が高まる中、既存の“事業系”廃食用油を回さず、未回収の“家庭系”廃食用油を活用することで、食料とエネルギーの両方の需要を満たすことが期待されている

廃食用油

外食店舗や食品工場から排出される “事業系”廃食用油

“事業系”廃食用油を約40万t/年のうち、30万t/年は国内の畜産に必要な飼育原料として、**国内の畜産業界**を支えている

日本国内の食料自給率38%と低く、貴重なカロリー源の飼料として重要な役割を果たしている

家庭から排出される “家庭系”廃食用油

飼料安全法により、家庭由来の廃食用油は飼料用油脂原料として認められず、SAF等の需要が高まる昨今まで行き先がなかった

“家庭系”廃食用油はほぼ未回収であり、回収ポテンシャル含め未解明

【1】プロジェクトの概要

【1-1】プロジェクトの背景・目的



@アールイー

世界では廃食用油を“どう集めたか（トレーサビリティ）”が重要

SAFにおいては、**CORSIA認証**（＝製造ではなく、サプライチェーン全体で適切に回収や処理が認証）されたSAF（CEF：CORSIA適格燃料）のみを国際的に取引されることとなり、特に家庭系廃食用油の回収ポイントは多岐にわたるため回収の**トレーサビリティは非常に重要**である。

SAF サプライ チェーン



大量の地点から家庭系廃食用油が発生するため
廃食用油の回収情報（＝トレーサビリティ）が大量に発生

【1】プロジェクトの概要

【1-1】プロジェクトの背景・目的



廃食用油の回収は東京都や各自治体が進める脱炭素に貢献できる

“家庭系”廃食用油 回収がもたらす効果

Point 1 未回収であること（＝回収すればするほど脱炭素貢献）

東京都および各市区町村で家庭系廃食用油は未回収であり、回収しエネルギーや工業等で再利用されることで二酸化炭素排出減への貢献が可能。

Point 2 可視化できていないこと（＝可視化することで普及啓発に役立つ）

二酸化炭素量含めて、各市区町村は環境施策の可視化に苦慮しており、家庭系廃食用油の取り組みでデータを可視化することで住民に対して普及啓発に役立つ。

【1】プロジェクトの概要

【1-1】プロジェクトの背景・目的



脱炭素政策と合わせることで多くの自治体と連携が可能

「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ」を表明している自治体は東京都および48市区町村存在し、家庭系廃食用油の回収施策はどの自治体にとっても環境面で効果的、かつ実効した効果を可視化できる。

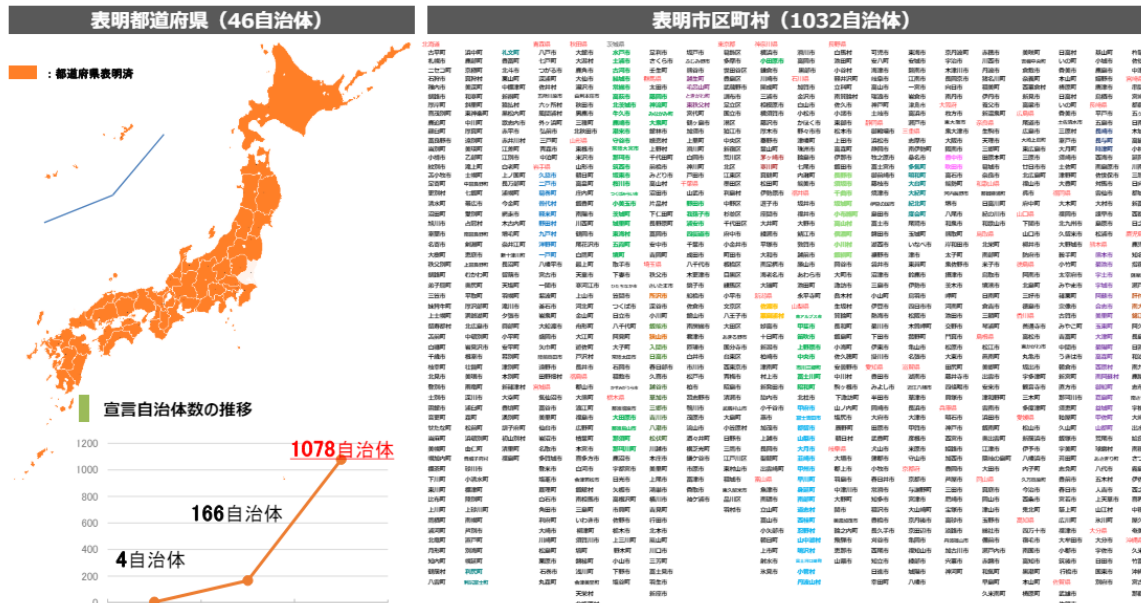
東京都表明自治体

2050年 二酸化炭素排出実質ゼロ表明 自治体

2024年3月29日時点



- 東京都・京都市・横浜市を始めとする**1078自治体**（46都道府県、603市、22特別区、352町、55村）が「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロ」を表明。



* 朱書きは表明都道府県、その他の色書きはそれぞれ共同表明団体

1. 葛飾区
2. 多摩市
3. 世田谷区
4. **豊島区**
5. 武蔵野市
6. 調布市
7. 足立区
8. 国立市
9. 港区
10. 浪江市
11. 中央区
12. 新宿区
13. 荒川区
14. 北区
15. 江東区
16. 墨田区
17. 利島村
18. 中野区
19. 杉並区
20. 千代田区
21. 府中市
22. 小金井市
23. 町田市
24. 板橋区
25. 目黒区
26. 練馬区
27. 小平市
28. 文京区
29. 八王子市
30. 大田区
31. あきる野市
32. 国分寺市
33. 台東区
34. 西東京市
35. 青梅市
36. 昭島市
37. 清瀬市
38. 武蔵村山市
39. 大島町
40. 小笠原村
41. 日野市
42. 三鷹市
43. 江戸川区
44. 東村山市
45. 稲城市
46. 東久留米市
47. 品川区
48. 羽村市

【1】プロジェクトの概要

【1-1】プロジェクトの背景・目的

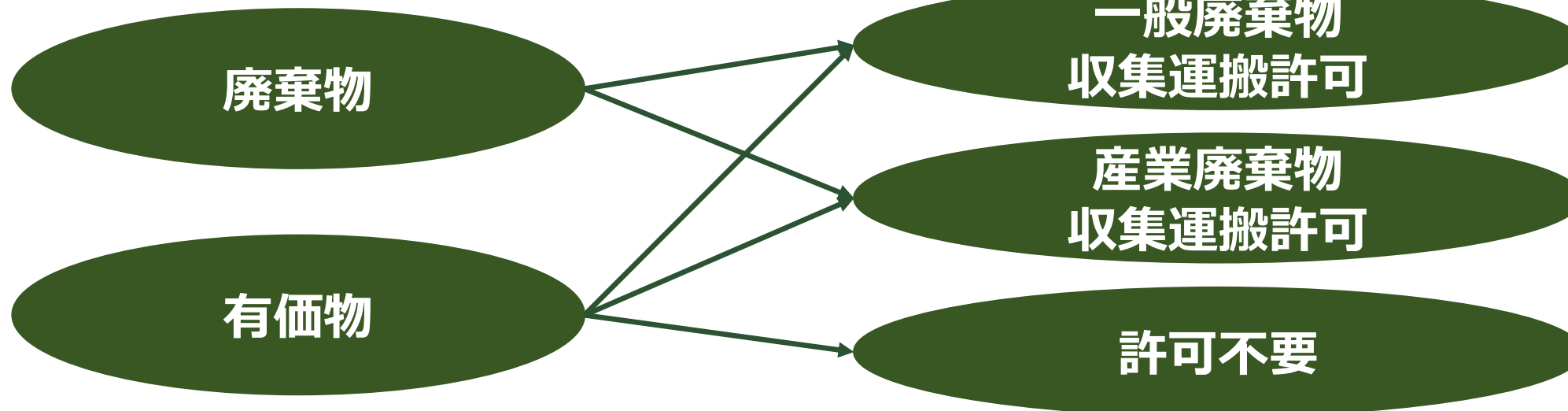


各自治体で廃食用油の取り扱いが異なる面的訴求がしづらい

家庭系廃食用油の処理は各自治体が担うものの、家庭系廃食用油の取り扱いは個々で異なり、統一的な家庭系廃食用油回収に関するガイドラインが無いことで、面的展開がしづらいことに課題感を持っている。

家庭系廃食用油の分類

収集運搬許可



【1】プロジェクトの概要

【1-1】プロジェクトの背景・目的



目的

廃食用油およびデータの回収および可視化できる環境を構築すること

家庭系廃食用油を各基礎自治体が
回収促進するための環境整備

廃食用油を回収することによる
脱炭素効果の可視化

廃食用油をSAF等に資源化する際の
重要なデータ整備

家庭系廃食用油の回収

廃食用油
トレーサビリティ
データの取得

【1】プロジェクトの概要

【1-2】 1-1で示した課題解決に向けた取組の全体像

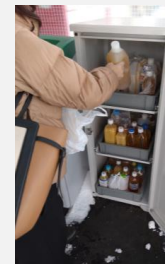


回収

家庭系廃食用油の回収
および回収スポットにおける
トレーサビリティデータの取得



住民



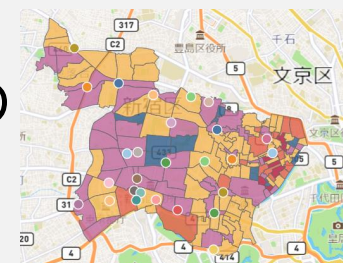
回収事業者

可視化

取得したデータの可視化



回収状況の
可視化



回収量の
予測

共有

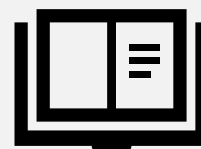
家庭系廃食用油回収
促進に向けた自治体の
ワーキンググループの立上

アジェンダ

回収事例、データ分析結果共有、
廃食用油回収にかかる政策的な議論

ルール 作り

各自治体の家庭系廃食用油
回収の取り扱いに関する
事例整備



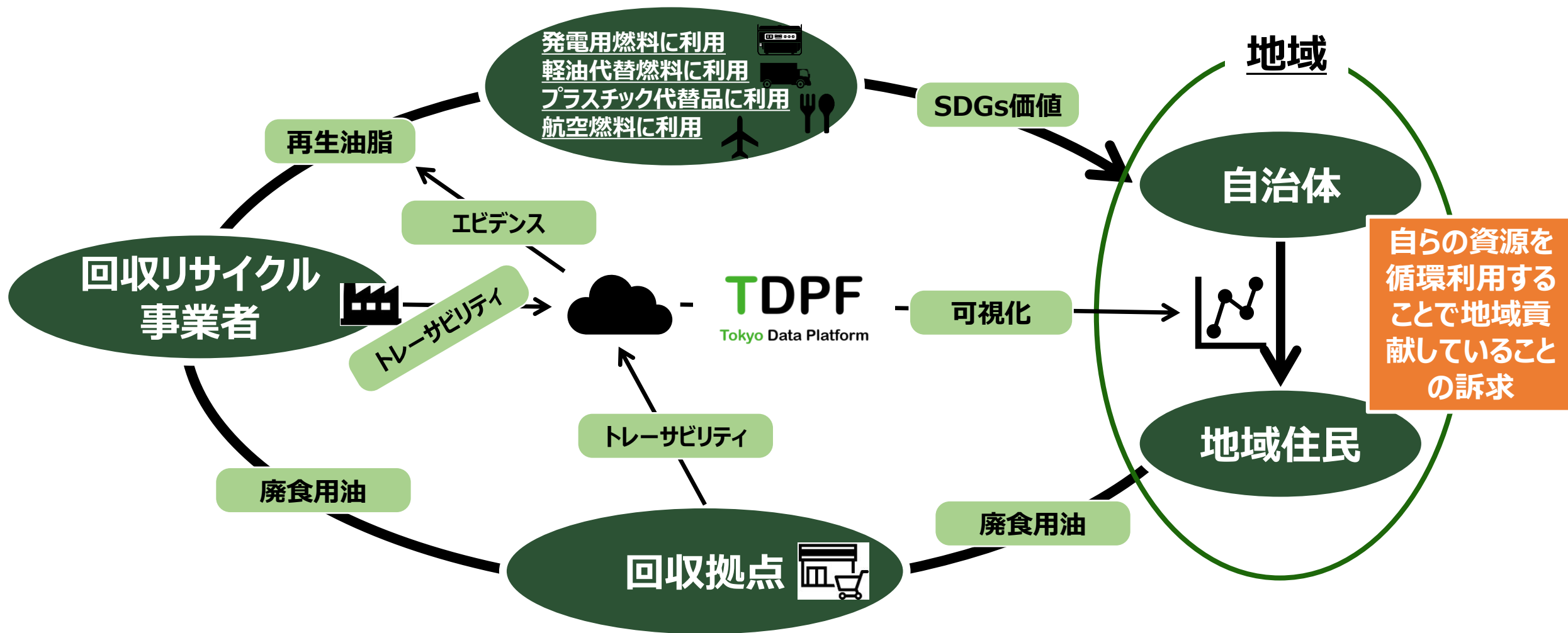
廃食用油を取り扱う考え方に応じた
回収方法の事例整理

【1】プロジェクトの概要

【1-2】 1-1で示した課題解決に向けた取組の全体像



家庭系廃食用油を回収・再利用するために、自治体・住民・回収拠点・回収リサイクル事業者ができる仕組みと環境を整備する。



2. 今年度の取組・成果

【2】今年度の取組・成果

【2-1】今年度の取組内容・実証設計



	実証内容	具体的な取組事項	検証方法
回収	✓廃食用油の新規回収拠点を整備	✓新規廃食用油回収拠点の整備 ✓新規回収拠点の紹介を豊島区と連携して公開	✓設置件数
可視化	✓データ回収 ✓データ可視化	✓既存廃食用油回収事業者とのトレーサビリティデータ提供に向けた調整 ✓新規回収拠点のデータ回収 ✓回収実績およびオープンデータを活用したダッシュボードの可視化	✓ダッシュボード
共有	✓ワーキンググループの実施	✓東京都環境局と連携して各自治体を招いた家庭系廃食用の勉強会を実施	✓ワーキンググループ開催
ルール作り	✓家庭系廃食用油回収の事例集整備	✓廃食用油回収に関する自治体の回収事例を整備	✓事例集

民間施設に対して常設拠点設置に成功し、順次拡大

回収

回収拠点や自治体側に負担が無いような回収スキームを構築
また、回収事業者と連携したデータ収集にも成功

Before

毎月最終月曜日9:30～12:00

シルバー人材立ち合い

回収を事業者へ委託

After

回収拠点の営業時間や受付期間に準じ
回収期間が大幅拡大

回収拠点側で安全担保

事業系廃食用油と共同回収
※各自治体と要調整

廃食用油およびトレーサビリティデータを同時に回収

回収 内容

<フィジカル>

家庭から排出される廃食用油を
特定の場所で回収

〔回収方法〕

- ・ 既存の家庭系廃食用油回収拠点
- ・ 新規設置した回収拠点



<デジタル>

回収拠点毎に、トレーサビリティ
データとして必要なデータを収集

〔回収データ〕

- ・ 回収場所
- ・ 回収場所の所在地
- ・ 回収した年月日
- ・ 回収量
- ・ 再生業者の所在地
- ・ 積替え保管を行った場合はその積替え保管施設の所在地

〔回収事業者との連携〕

各廃油回収事業者に対して、
回収以降のデータ回収依頼

【2】今年度の取組・成果

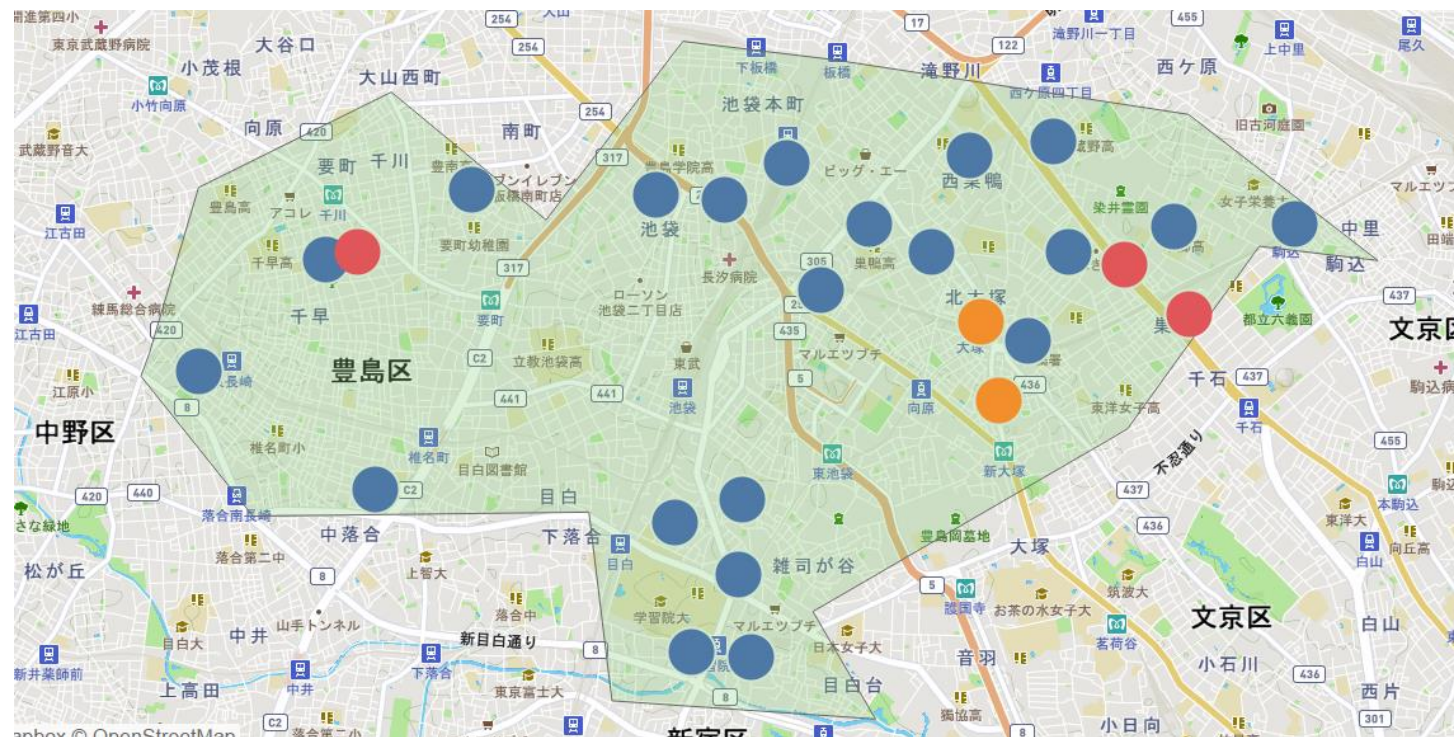
【2-2】取組・成果状況



@アールイー

エリアの網羅率を上げるために独自に回収スポットを調整

既存で回収を進めている豊島区および、民間企業と連携して回収スポットを調整



● 新拠点

● 設置調整中

巣鴨信用金庫

本店を皮切りに順次巣鴨信用金庫や取引先の豊島区内の拠点へ展開

大塚駅北口周辺

順次大塚駅周辺へ展開

集合住宅

マンションディベロッパーと連携し順次集合住宅へ展開

【2】今年度の取組・成果

【2-2】取組・成果状況



@アールイー

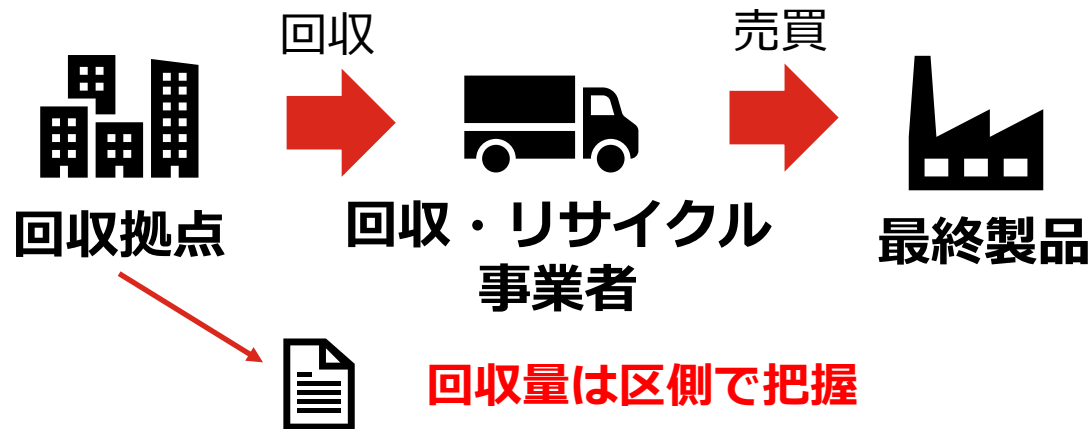
家庭系廃食用油のトレーサビリティデータおよび可視化

可視化

回収拠点量や回収以降の再資源化されるフローまで、回収事業者らと連携。さらにダッシュボードも豊島区側と連携して開発。

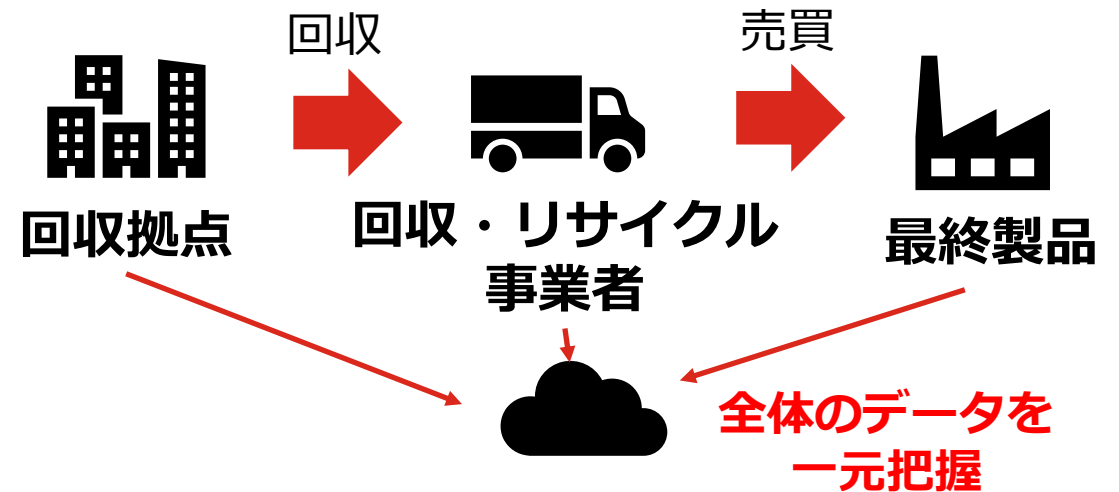
Before

回収量は把握しているものの、回収以降の状況把握やデータ活用ができる状況でなかった



After

回収事業者の協力のもと、最終製品化までのトレースがデータ化、可視化されることで自治体が回収状況・活用状況を把握できるようになった



【2】今年度の取組・成果

【2-2】取組・成果状況



回収実績および他自治体の回収シミュレーションを公開

豊島区を皮切りに、東京都および全国的に家庭系廃食用油のトレーサビリティデータを今後回収し、気象データのように各自治体から回収された家庭系廃食用油およびマーケット予測データを将来的に公開する。

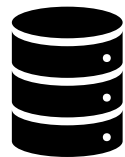
回収

各回収スポットで廃食用油の回収と合わせてトレーサビリティデータを取得

統合



廃食用油トレーサビリティ
管理プラットフォーム
UTMS (Uco Traceability
Management System)



オープンデータ

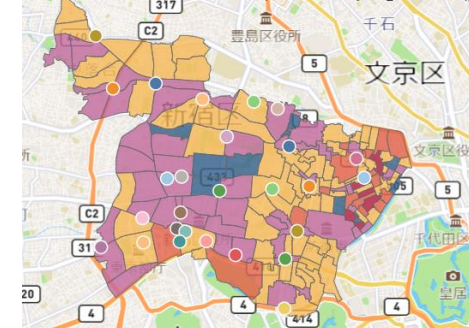
- ・町丁別 世帯数
- ・町丁別 年齢別人口 等

可視化

【自治体ダッシュボード】



【家庭系廃食用油マーケット予測】



【2】今年度の取組・成果

【2-2】取組・成果状況



@アールイー

豊島区と共に自治体に必要なデータを可視化

要素

回収量が把握できること

エリア毎の回収状況がわかること

リサイクル（脱炭素）状況がわかること

回収事業者や利用用途が把握できること

総回収量(kg)

3,038

脱炭素効果 (トン-co2)

5.013

利用用途

石鹸
100.0%

※直近1年間の回収量

※前提、石鹸原料のパーム油等の脂肪酸を、廃食用油で代替
※排出源単位ベースのパラメータ使用

※資源リサイクルされた製品の割合

月間回収量(kg)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
2022				187	170	170	259	204	268	142	283	236	1,919
2023	99	232	222	142	159	272	176	275	187	144	325	210	2,444
2024	210	257	222	217	410	235	204	260	182	363	224	254	3,038

▼廃食用油回収の割合 ※スライダーで対象月変更

▼廃食用油を回収している事業者の割合



東京レンドリソグ協同組合



100.0%

▼リサイクルされた製品／製造事業者の割合

石鹸

エスケー石鹸株式
会社



100.0%

【2】今年度の取組・成果

【2-2】取組・成果状況



@アールイー

回収量のポテンシャルを可視化

要素

町丁別の回収ポテンシャルが把握できる

実回収量との比較ができる

各自治体の町名単位で家庭系廃食用油の回収ポテンシャルが確認できます。

自治体を選択してください▶

豊島区



全油連が公表しているリサイクルフロー図から、全国の家系廃食用油総回収見込み量は10万トン/年を元に、世帯数や家庭構成から地域毎の廃食用油の回収ポテンシャルを算出

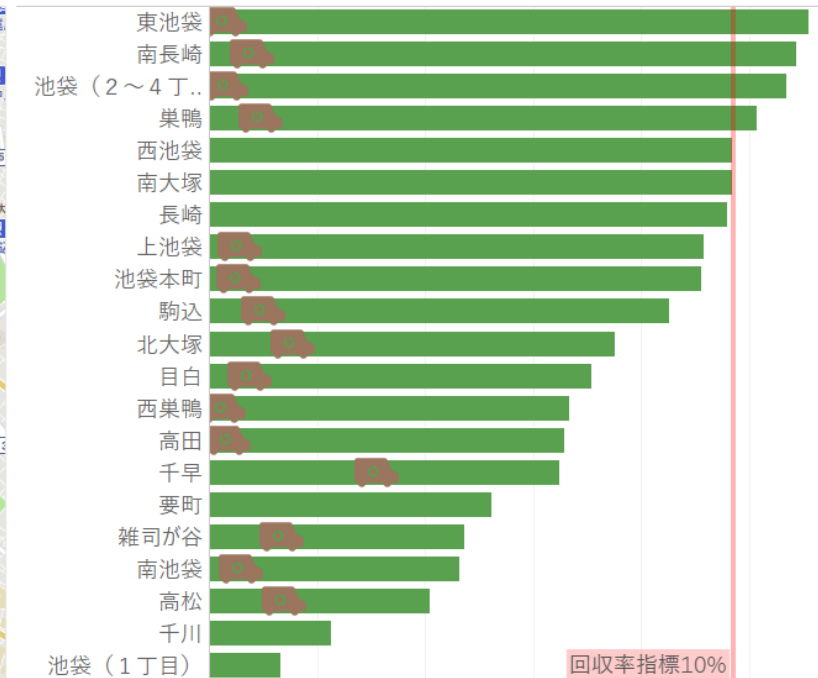
▼回収見込み量

※分布は郵便番号を元に表示

※建物の郵便番号は該当町域にマージ



▼回収率



【2】今年度の取組・成果

【2-2】取組・成果状況



@アールイー

東京都環境局協力のもと、ワーキンググループの実施

共有

東京都内の各基礎自治体の環境担当を招き、家庭系廃食用油の回収や課題感の共有、事例紹介等を実施

事務連絡
令和6年11月21日

「区市町村と都との共同検討会」メンバー 及び
区市町村・一部事務組合 資源循環行政担当部署 御中

共同検討会事務局

今後の資源循環施策に関する区市町村と都との共同検討会 「令和6年度第9回勉強会」のご案内について

日頃より「区市町村と都との共同検討会」の運営にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
区市町村と都の共同検討会では、資源循環施策に関するさまざまな勉強会を開催しています。
今回は、東京都デジタルサービス局が運営する「東京データプラットフォーム（TDPF）」*が今年度の「ケーススタディ事業」の一つとして採択した「家庭系廃食用油トレーサビリティシステム構築プロジェクト」の取組内容を取り上げさせていただきます。
ぜひ皆様のご参加を賜りたく、貴自治体・組合内でご周知くださいますようお願いいたします。
（※官民の様々なデータの利活用を促進し、新たなサービスの創出を後押ししています。）

記

1 開催日時

令和6年12月4日(水) 午前10時00分から午前11時30分まで【WEB (Teams) 開催】
（今回は Teams での開催となります。）

2 テーマ：家庭系廃食用油トレーサビリティシステム構築プロジェクト※
「家庭系廃食用油の回収と循環利用を通じた持続可能な地域社会づくり」

【プログラム】

- (1) はじめに(東京都デジタルサービス局)
 - (2) プロジェクトの説明(アールイー株式会社)
「家庭系廃食用油トレーサビリティシステム構築プロジェクト」の概要紹介
 - (3) 豊島区の実事例(豊島区環境清掃部・アールイー株式会社)
当プロジェクトの取組内容紹介
 - (4) 廃食用油リサイクルの動向(全国油脂事業協同組合連合会)
廃食用油の発生量、利用方法、関連法令、業界全体の課題等の共有
札幌市、入間市など、全国各地域の実事例（数件）紹介
 - (5) まとめ(株式会社エコクリエイティブ)
家庭系廃食用油の回収/リサイクルを推進することの有効性、他自治体の課題等の共有
- ※プロジェクト概要リンク：

<https://www.digitalservice.metro.tokyo.lg.jp/business/data-utilization/case-study/project-r604>

【2】今年度の取組・成果

【2-2】取組・成果状況



脱炭素施策をテーマとして家庭系廃食用油を推進するコミュニティ形成

既存TDPF会員の自治体環境担当者等に対して、廃油回収事例や廃食用油回収データの提供、さらに最も関心の高い各自治体の家庭系廃食用油の取り扱いの見解を共有・議論できる場を提供し、都全体で回収を推進。

目的

データの力を活用することで可視化しづらい環境施策を可視化し、自治体横断で環境施策を共有議論できる場を用意する。

施策イメージ

アジェンダ① 廃食用油回収施策の施策共有

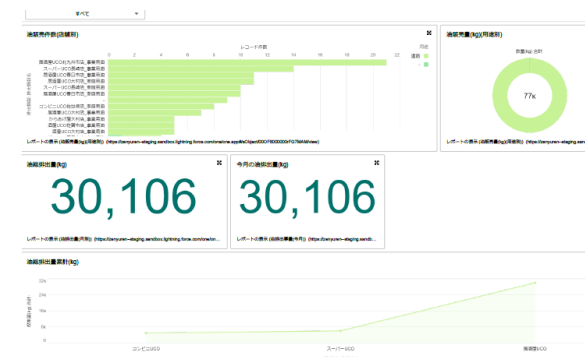
先行事例（札幌モデル）

- 【札幌市の例】
 - 札幌市では、**公共施設や地域の食品スーパーの協力**を得て、回収BOXを設置し、多くのUCOが回収されています。リサイクルされたUCOは、主にバイオ燃料やボイラー燃料などに利用されています。
 - 回収拠点：406か所、計192KL（2023年時点の集約）
 - 回収BOXが町中に普及することで、目に触れる機会が多くなり、環境意識の高まりや推進に繋がった。
 - 結果、回収量が増える（一般廃棄物処理が減る）ことに繋がっています。
 - 回収ボックス設置の有無が来店動機になっている。

このような事例を参考に、全国各地で家庭系UCO回収を推進することで、**ゼロカーボンシティや、SDGs達成に向けた取り組みへの貢献に繋がります。**

2024/5/10 Copyright, UCO JAPAN 2024

アジェンダ② 回収データの分析共有



アジェンダ③ 各自治体毎の廃食用油の取り扱いに関する見解共有・議論

家庭系廃食用油回収に関する課題感等を収集

家庭系廃食用油の回収促進に関する課題抽出および、今後のワーキンググループ参加協力を得られた

参加者

東京都内各自治体や組合の資源循環担当、農林水産省

回収拠点

- ✓ 回収拠点を新設するための拠点への理解促進
- ✓ 回収拠点数増に伴うコスト

廃棄物 or 有価物

- ✓ 家庭用廃食用油の廃棄物、もしくは有価物の判断根拠
- ✓ 廃棄物、もしくは有価物として取り扱う場合の適正な処理方法

各基礎自治体が廃食用油促進の参考になる事例作成

ルール 作り

家庭系廃食用油回収を促進したいものの、自治体毎の取り扱いが異なるため、パターンに応じた回収促進用の事例集を整備。

【本年度】

東京都内および他自治体の
家庭系廃食用油の取り扱い
に応じた、回収方法の事例
紹介

【今後】

環境局や他道府県の自治体
等も交えて廃食用油回収を
促進しやすいルール整備

各自治体が回収促進の指針となる事例集作成

各自治体毎に家庭系廃食用油回収の取り扱いが異なることから、横断的な取組推進がしづらいたため、各自治体が参考になるような事例集を作成し、自治体向けに公開する。

家庭系廃食用油の取り扱い
パターンの把握

回収委託事業者
として入札に応
札した事業者で
あればよい

可燃ごみとして
取り扱っている

一般廃棄物収集
運搬事業者しか
回収を認めない

回収に関して規
制は設けていな
い

家庭系廃食用油の取り扱い
パターンの分類

廃棄物

有価物

一般廃棄物収
集運搬許可

事業廃棄物収
集運搬許可

許可不要

家庭系廃食用油の取り扱い
パターンの体系化

パターンに応じた事例
を体系化し、パターン
毎に回収促進の方法等
を全国の事例を元に体
系化

廃食用油取り扱いの考え方整理および回収方法を体系化

体系的に事例集として整備し、全油連のHP等で公開

事例集のアジェンダ

①廃食用油回収の沿革

- －畜産用の原料としての廃食用油
- －BDFで沸いた第一次家庭系廃食用油ブーム
- －SAF等で争奪戦！家庭系廃食用油ブーム再来

②廃食用油を取り巻く状況

- －根本となる廃棄物法の考え方
- －廃食用油処理の品質、回収後の処理工程やJAS規格の紹介
- －その他、食品リサイクル法などの周辺法律

③各自治体の廃食用油の取り扱う考え方

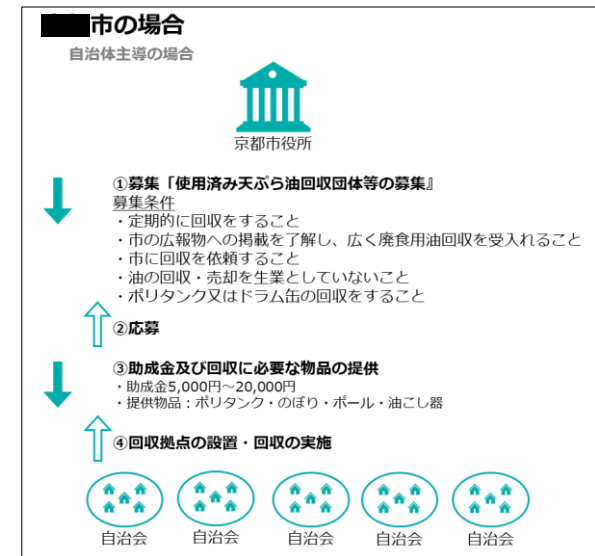
④全国の自治体に見る廃食用油の回収方法

事例集のイメージ

②廃食用油を取り巻く状況 根本となる廃棄物法の考え方

廃食用油の回収の適正化について	
・廃棄物の定義（原則） 占有者が自ら利用し、又は他人に有償で譲渡することができないために不要になったもの。 その収集運搬、処理について生活環境保全上、法による適切な管理下に置く必要がある。 トレーサビリティ、取り扱いの基準、運営の基準、罰則規定などを盛り込んだ許可業務など	・有価物の定義（総合判断説） ① 物の性状 ② 排出の状況 ③ 通常の取り扱い形態 ④ 取引価格の有無 ⑤ 占有者の意思 これに伴い「有価物抗弁」（＝これは有価物であると主張すること）をするには「総合判断説」のポイントを排出事業者が理解する必要がある。
・廃棄物として取り扱うメリット ・トレーサビリティの確保が保証される ・責任の所在が明らか ・リサイクル用途を指定できる ・排出事業者のインボイス登録に影響されない	・有価物として取り扱うメリット ・契約が必要ない ・処理費用ではなく、販売益が得られる ・許可業者を選ぶ必要はない ・廃棄物処理票が不要
・廃棄物として取り扱うデメリット ・収集運搬・処理の契約が必要 ・収集運搬費・処理費用が発生する ・許可業者を選定する必要がある ・廃棄物管理票の保管などが必要	・有価物として取り扱うデメリット ・トレーサビリティの確保は保障されない ・所有権は購入者へ移るが不法投棄が発生した場合には排出事業者の責任となる ・リサイクル用途を指定できない ・排出事業者のインボイス登録に影響される

④全国の自治体に見る廃食用油の回収方法



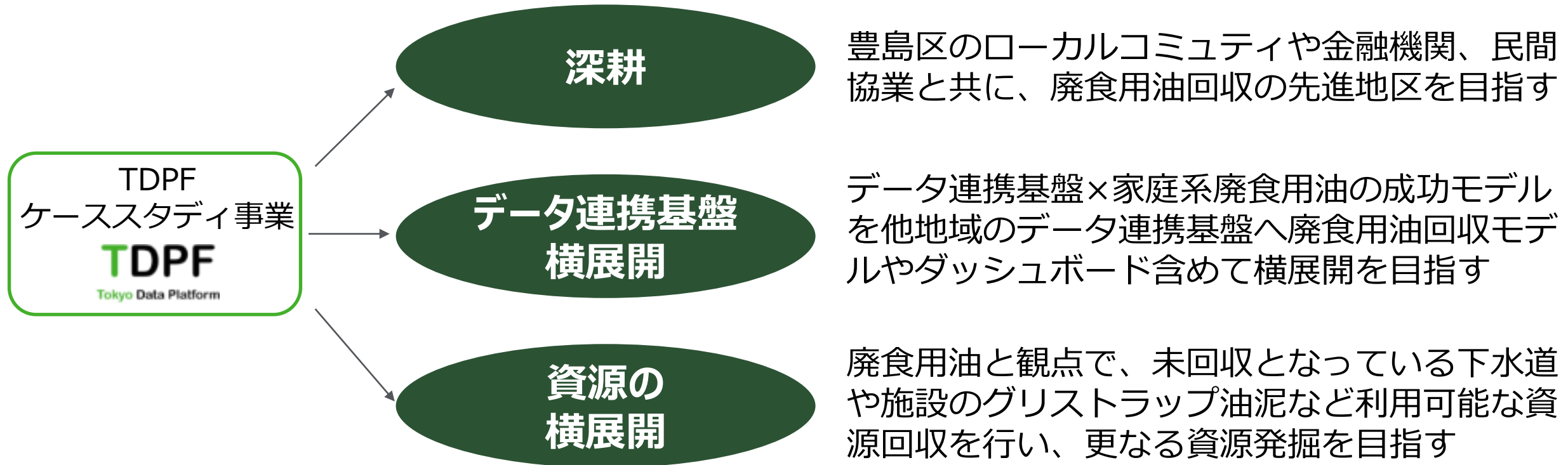
3. 今後の展望

【3】今後の展望

【3-1】次年度以降の取組方針



豊島区の廃食用油回収の深掘りを行うとともに、自治体向けデータ連携基盤に対して本取組が相性よく、他道府県や民間企業へ横展開や新たな資源発掘を目指す。



【3】今後の展望

【3-1】次年度以降の取組方針



次回ワーキンググループの開催5月を想定しております。また、官民連携した廃食用油のガイドライン作りのワーキンググループも開催いたしますので、TDPFの会員の皆様でご興味ある方ご参加ください。

開催日

2025年5月頃 ※詳細のご案内は2025年4月初旬を予定

開催場所

東京都庁内 予定

アジェンダ

- ・東京都内の回収に関する課題共有
- ・ダッシュボードの活用
- ・都内の事例共有
- ・事例集の解説

【3】今後の展望

【3-2】TDPFへの還元データ活用イメージ



@アールイー

家庭系廃食用油回収データ



各基礎自治体の廃食用油ポテンシャル



TDPFに上記データ格納
資源循環に関わる自治体様に利用想定



全油連のHP内にて公開



回収ポテンシャルは数値のみ公開

【3】今後の展望

【3-3】データ連携基盤と環境・資源分野の親和性



資源リサイクル分野と自治体データ連携基盤の相性は抜群であること

本年度の家庭系廃食用油を例に、資源リサイクル可能な廃プラスチック類、缶ビン類、食料残さなども、近い将来TDPF含めてデータ連携基盤と連携しながら資源リサイクルを推進されると考えております。

官民連携

家庭系廃食用油は一般廃棄物の側面を持つことから、必ず基礎自治体との連携、協力が必要であることから、**官民連携は必須**である

競争領域と 協調領域

家庭系廃食用油の回収においては回収事業者間の競争領域であるが、エネルギーや工業への再利用するための**トレーサビリティデータは資源リサイクルサプライチェーン全体において回収事業者問わず協調領域**である

住民のQOL向上

家庭系廃食用油の資源循環は、脱炭素に留まらず、SAF等のエネルギーや工業に再利用されることで、**国内全体の長期的なエネルギー政策に寄与**し、住民の生活基盤の下支えになる

「地域の資源を、地域の方が集め、地域で使われる」

データ連携基盤は可視化、促進するためのもの

**将来、地域の住民たちで様々な資源の使い道を決める
そのような時代の礎になるような事業として
今後もこの事業を推進していきたいと思います。**

2. 採択プロジェクトの成果報告⑤

東京海上レジリエンス株式会社
営業企画/アライアンス部 マネージャー
三島 愛実 氏

令和6年度 第六回TDPFコミュニティイベント

要配慮者の個別避難トータルサポートプロジェクト

東京海上レジリエンス株式会社
日本電気株式会社
アビームコンサルティング株式会社

2025年2月14日

1.プロジェクトの概要

2.今年度の目指す成果

3.今年度の取組と成果

4.まとめ・今後の展望

1.プロジェクトの概要

2.今年度の目指す成果

3.今年度の取組と成果

4.まとめ・今後の展望

【前提：用語説明】個別避難計画、要配慮者・要支援者について

過去の災害の教訓から令和3年に災害対策基本法が改正され、
個別避難計画の作成が基礎自治体の努力義務とされました

要配慮者・要支援者とは

災害要配慮者（＝要配慮者）
高齢者、障がい者、乳幼児等の防災
施策において特に配慮を要する方

避難行動要支援者（＝要支援者）
災害発生時の避難等に支援を要する方

個別避難計画とは

災害対策基本法の改正（令和3年）

努力義務化



個別避難計画に記載する情報（例）

- ✓ 要支援者情報（氏名・住所・要介護度情報等）
 - ✓ 支援者情報
 - ✓ 避難行動計画（どこへ・だれと・どうやって）
 - ✓ 情報伝達方法
 - ✓ 避難時・避難先での留意事項
 - ✓ 医療機関等の連絡先
- 等

プロジェクトの背景と目的

背景

東京都においても
豪雨は近年増加傾向

災害要配慮者・
避難行動要支援者の
支援対策が急務

災害対策基本法
の改正により、個別
避難計画作成が基礎
自治体の努力義務

基礎自治体の
業務負荷が高く
対応に追われている

目的

要配慮者の避難支援に対して基礎自治体が抱える課題を解消し、
避難が必要な要配慮者の「逃げ遅れゼロ」へ貢献するための
仮説検証・ニーズ調査を実施

※今回のプロジェクトの対象となる災害は風水害

課題解決に向けた取組の全体像

要配慮者の避難支援におけるあるべき姿の実現に向けて、
実証1～5を実施しました

対象	要支援者				要配慮者
避難支援 プロセス ※基礎自治体目線	個別避難計画 作成	安否確認	避難移動 (支援者連携)	避難移動 (協定事業者連携)	避難意思
基礎自治体 が抱える 課題例	実証1 計画時に決めた 避難ルート通りに 避難ができない	実証2 安否確認に時間 を要することで迅 速なフォローがで きない	実証3 要支援者の災害 時支援に不安 ※支援者目線	実証4 災害時の車両抛 出の具体的な連 携方法が定めら れていない	実証5 大規模な水害が 予測されても、避 難を躊躇する ※住民目線
あるべき姿	個別避難計画書 の実効性が担保 される	安否確認が取れ ていない要支援 者へ迅速なフォロ ーを実現する	要支援者支援に 必要な情報を提 供し、支援の心 理的ハードルが下 がる	災害時における 連携方法が明確 化され、実行でき る状態になってい る	要配慮者の事前 避難を促進
プロセス間でのシームレスなデータ連携・データを活用した高度化を実現					
データの共通化・システム連携を通じて、要配慮者避難支援における全体最適を実現					

プロジェクト体制図

多摩市様、江戸川区様のご協力のもと東京海上レジリエンス（代表企業）
日本電気、アビームコンサルティングの3社で本プロジェクトを推進してまいりました

事業者

代表企業

東京海上レジリエンス

<実証1～5>

- ✓ 事業全体管理・関係者調整
- ✓ 実証全体企画・実行

日本電気

<実証1～3>

- ✓ 実証環境構築
 - ✓ 検証企画・実行支援
- ##### <実証4>
- ✓ ツール準備・実行支援

アビームコンサルティング

<実証1>

- ✓ 道路通行実績データ分析
(冠水・倒木等で通行不可や危険を要する可能性がある道路を可視化)

協力

実証フィールド

実証1～4

多摩市様

実証5

江戸川区様

ニーズ
調査

東京都他自治体

1.プロジェクトの概要

2.今年度の目指す成果

3.今年度の取組と成果

4.まとめ・今後の展望

今年度の目指す成果

要配慮者の避難支援において基礎自治体が抱える課題解決のため、
実証1～5を通じ、有効データ・ニーズを明らかにします

対象	要支援者				要配慮者
避難支援 プロセス ※基礎自治体目線	個別避難計画 作成	安否確認	避難移動 (支援者連携)	避難移動 (協定事業者連携)	避難意思
実証内容	実証1 道路関連データ を活用して避難 ルートを作成	実証2 要支援者の安否 確認結果をシス テムで即時連携・ 一元管理	実証3 支援者向けに、 要支援者の支援 に必要な情報を 適切に届ける	実証4 災害協定事業者 と他ステークホル ダー間での連携フ ロー・データを整 理	実証5 災害時に安全な 宿泊先が予約で きるサイトを構築
目指す 成果	道路関連データ の活用が安全な 避難ルート作成 に繋がることを確 認	要支援者に対す る迅速なフォロー に繋げられること を確認	支援に必要な複 数データの一元 提示が支援のし やすさに繋がるこ とを確認	災害時の車両抛 出を実現させるた めに必要となるデ ータ連携・スキ ームを明確化	安全な宿泊先を 予約できる方法 があることが広域 避難の動機づけ となることを確認

1.プロジェクトの概要

2.今年度の目指す成果

3.今年度の取組と成果

4.まとめ・今後の展望

実証参加者・
属性

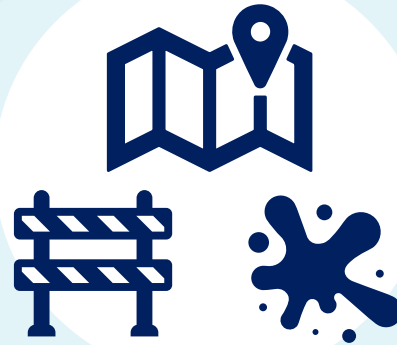
多摩市のケアマネージャー 16名（40代～60代）

1



最短での
避難ルートを
作成

2



追加情報となる
道路関連情報を
参照して避難ル
ートを再作成

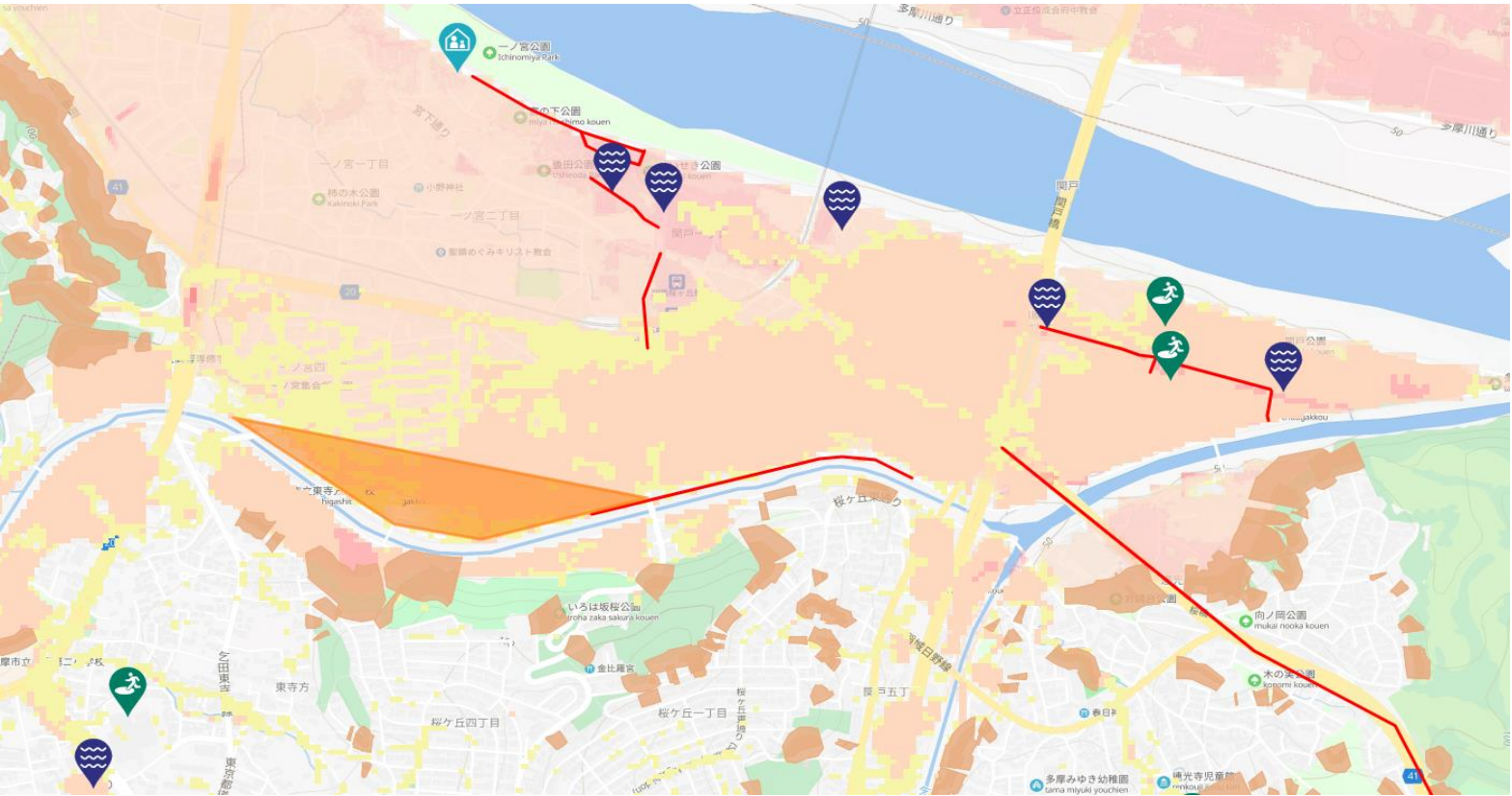
3



アンケート

個別避難計画作成の高度化検証（成果）

過去の災害時の冠水情報や通行止め区間の情報が
安全な避難ルート作成に繋がることが確認できました

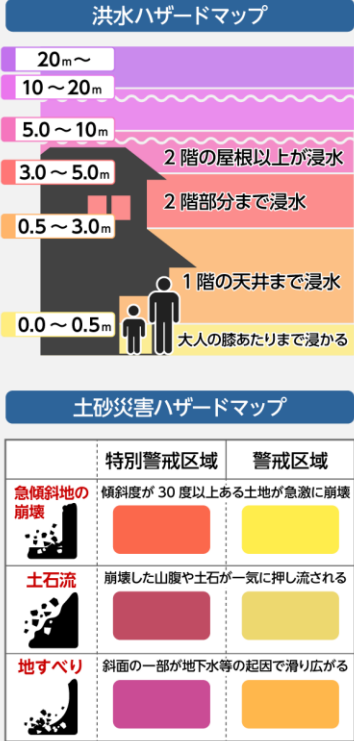


凡例

- 要支援者宅
- 避難所

（過去実績情報）

- 冠水箇所
- 冠水地域
- 通行止め区間



アンケートの結果、上記情報が「必ずいる情報」もしくは「あれば嬉しいと思う」が約97%

※実証のためダミーデータを使用しております

Before



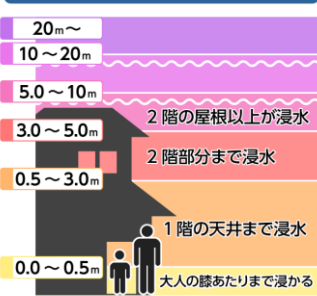
After



凡例

- 要支援者宅
- 冠水箇所
- 冠水地域
- 通行止め区間
- 作成ルート

洪水ハザードマップ

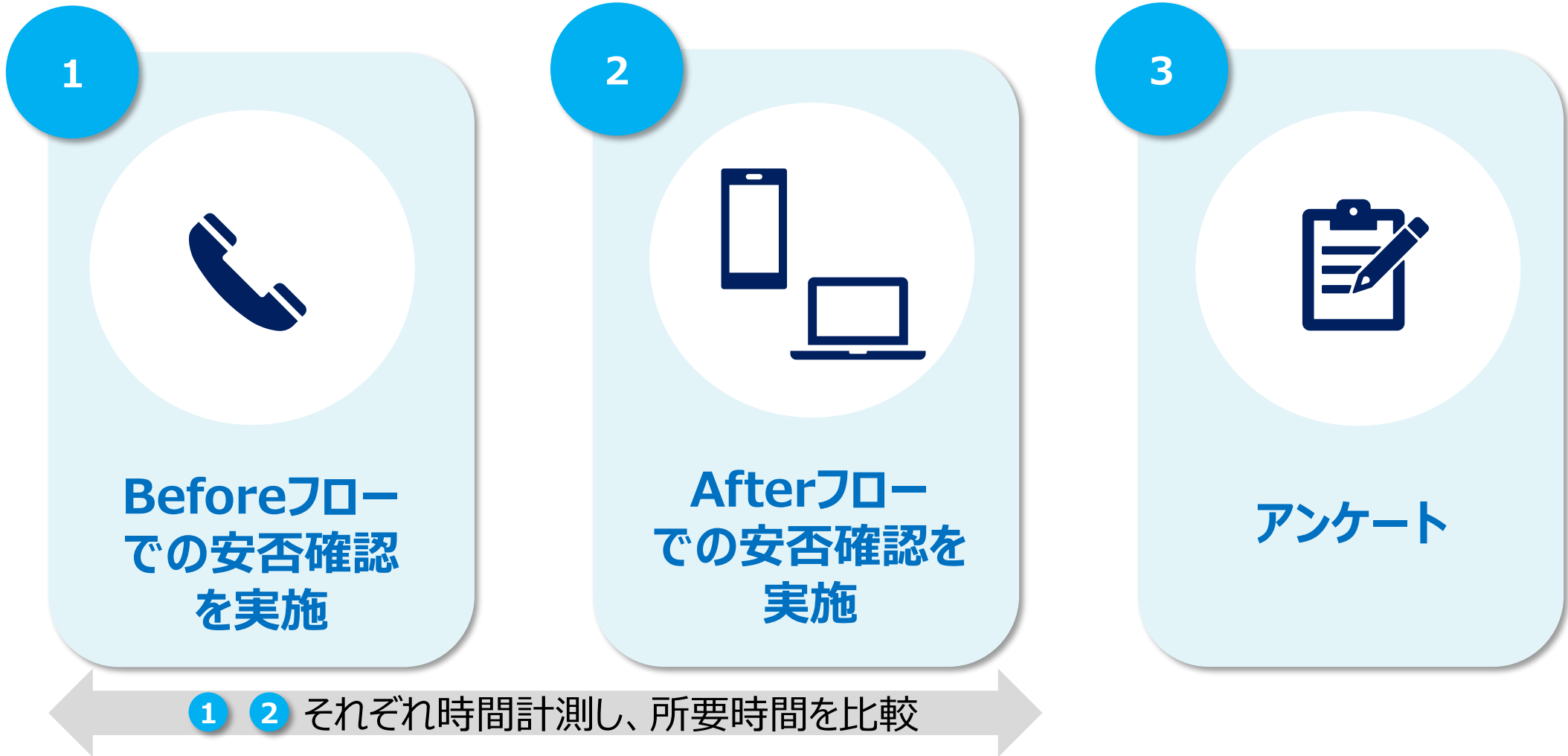


土砂災害ハザードマップ



※実証のためダミーデータを使用しております

実証参加者・属性	多摩市のケアマネージャー 12名（40代～60代） 多摩市の職員：3名
----------	--



Beforeフローは、支援者役が安否確認の結果を名簿に記載し、行政職員に対して電話報告を行うものです

Beforeフローの流れ

①状況付与
カードを引く



②実際の状況を
想定して会話



③安否結果を
名簿に記載



④結果を行政に
電話報告

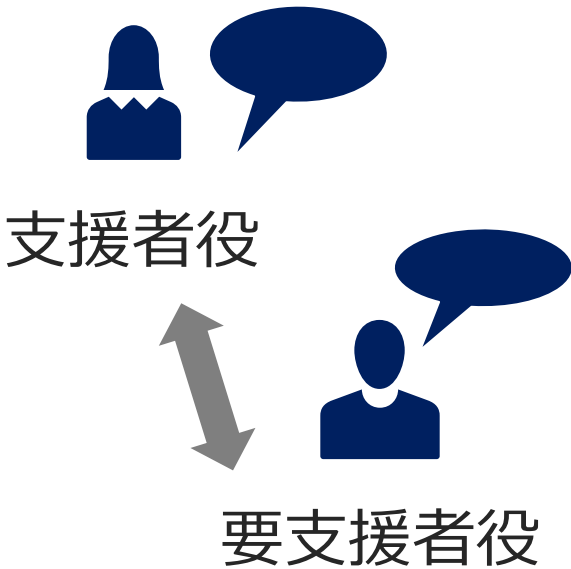


◆対応

電話

◆セリフ

自宅にいます。
無事です。



避難行動要支援者名簿											
番号	所属地域	氏名	性別	生年月日	年齢	住所	電話番号	支援事項			備考
								身体障害者 手帳の付与状況	精神障害者 手帳の付与状況	要介護 認定状況	
1	第一地域、 第三地域	西村 清一郎	男性	1952/06/23	62	東京都多摩市和泉4丁目1-1	0000000001	1級 療育手帳A	なし	要介護1	
2	第一地域、 第三地域	田村 茂雄	男性	1941/03/09	83	東京都多摩市和泉4丁目5-5	0000000002	2級 療育手帳B	なし	要介護4	
3	第一地域、 第三地域	上野 早乃	女性	1961/09/23	63	東京都多摩市和泉1丁目2-1	0000000003	なし	1級 療育手帳A	要介護3	
4	第一地域、 第三地域	北 繁樹	男性	1928/06/22	96	東京都多摩市和泉1丁目3-1	0000000004	4級 療育手帳A	2級 療育手帳B	なし	
5	第一地域、 第三地域	水谷 藤雄	男性	1951/04/12	73	東京都多摩市一ノ宮4丁目2-1	0000000005	1級 療育手帳A	2級 療育手帳B	要介護1	
6	第一地域、 第三地域	梅澤 千代子	女性	1961/12/12	63	東京都多摩市一ノ宮3丁目1-3	0000000006	なし	なし	要介護2	
7	第一地域、 第三地域	平田 清彦	男性	1946/09/22	78	東京都多摩市一ノ宮3丁目2-3	0000000007	1級 療育手帳A	1級 療育手帳B	要介護1	
8	第一地域、 第三地域	森田 武彦	男性	1930/12/11	94	東京都多摩市和泉2丁目4-2	0000000008	なし	療育手帳B	2級 要介護3	
9	第一地域、 第三地域	野田 昌博	男性	1956/05/31	68	東京都多摩市和泉4丁目5-2	0000000009	なし	なし	2級 要介護3	
10	第一地域、 第三地域	鈴木 純一	男性	1926/05/09	98	東京都多摩市和泉2丁目1-5	0000000010	なし	療育手帳A	なし	



※実証のためダミーデータを使用しております

計測の結果、安否確認に係る時間が約84%削減することが確認できました

Beforeフローでの所要時間
（電話で情報連携）

72分

ケアマネ：14分*
行政職員：58分*

Afterフローでの所要時間
（システムで情報連携）

11分

約84%削減

*ケアマネ：10人分の安否確認と職員への電話報告にかかる時間

*行政職員：ケアマネ12人分の受電対応と要支援者120人分のパンチングにかかる時間

アプリの活用により、電話での報告・聞き取り、結果の集計作業が削減できたことが時間削減の大きな要因です

Before

ケアマネージャー1人当たりの作業			行政職員の作業	
安否確認	安否確認結果を名簿に記入	結果報告（電話）	結果聞き取り・名簿に記録（電話）	結果の集計（エクセル）未確認/不明者の把握
11分		3分 20秒	40分	18分
※ケアマネ1人で10名の安否確認 ※参加者 6 組分の平均値 ※安否確認は状況付与カードを使ったロールプレイ		※代表で4人実施した平均値	※ケアマネ12名分の受電対応（3分20秒×12名）	※要支援者120名分の作業時間 ・ケアマネ一人当たりの要支援者10名×ケアマネ12名

After

安否確認	安否確認結果登録	21%削減
11分 20秒		84%削減

実証参加者・
属性

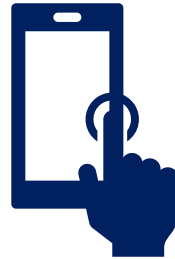
多摩市のケアマネージャー*：11名（40代～60代）
多摩市の職員：1名

1



支援に役立つ
情報（仮説）
を説明

2



システム上で
支援に役立つ
情報を確認

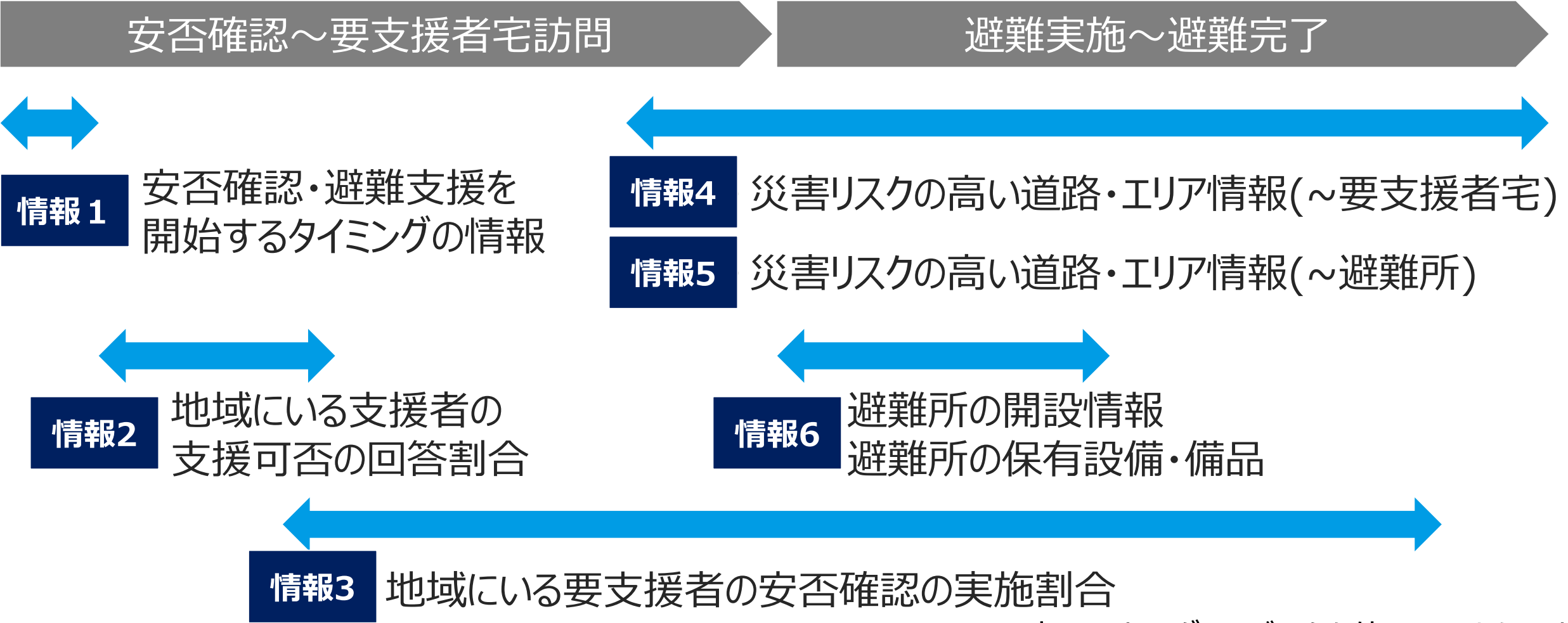
3



アンケート

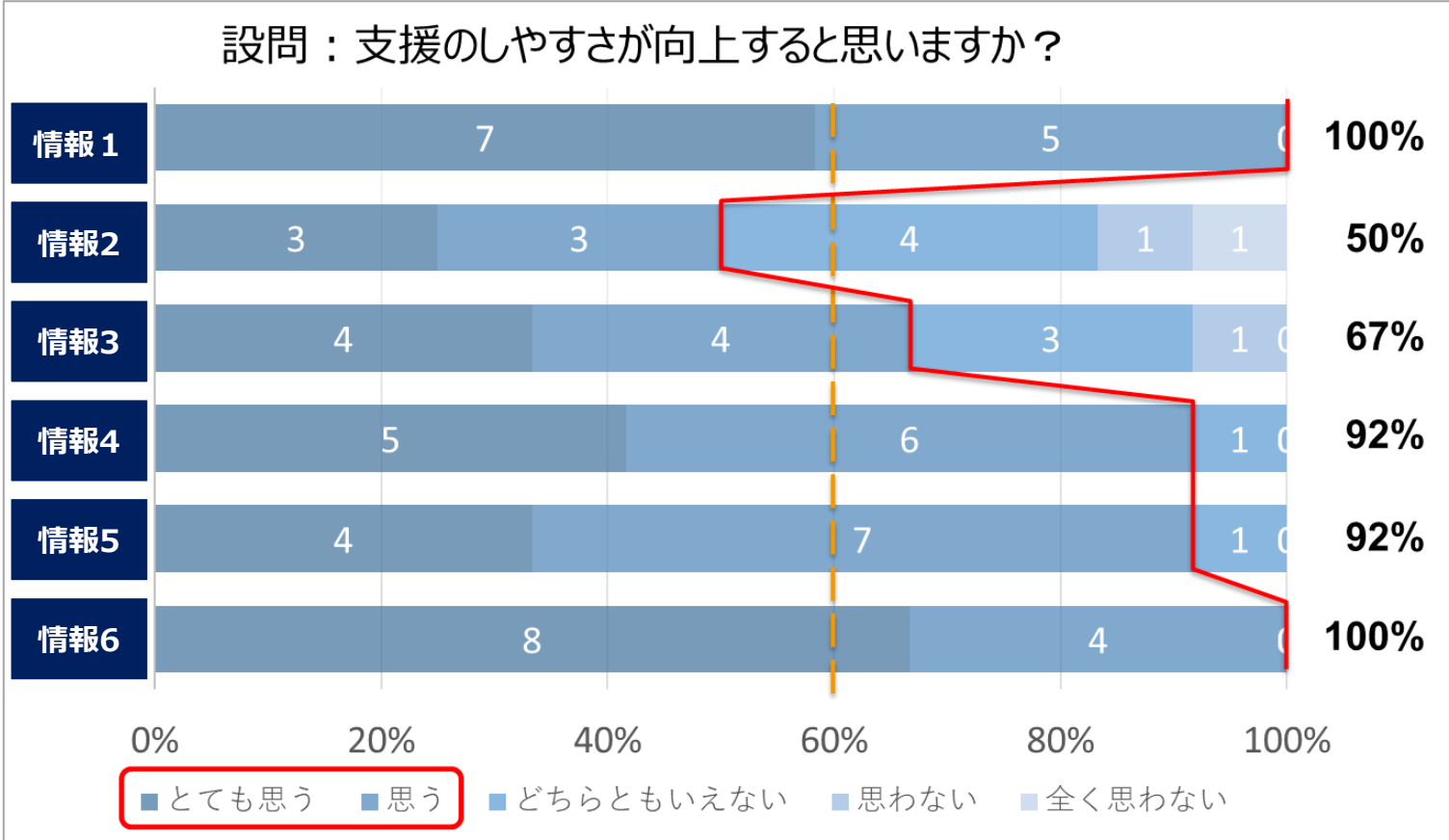
* 多摩市様の実態としてケアマネージャー＝支援者ではありません

以下の情報1～6を、各プロセスに必要な情報の仮説として
検証を行いました



※実証のためダミーデータを使用しております

要支援者の支援に必要な複数データを一元的に提示することが
支援者にとって支援のしやすさに繋がることが確認できました



- 情報1

安否確認・避難支援を開始するタイミング情報
- 情報2

地域にいる支援者の支援可否の回答割合
- 情報3

地域にいる要支援者の安否確認の実施割合
- 情報4

災害リスクの高い道路・エリア情報（～要支援者宅）
- 情報5

災害リスクの高い道路・エリア情報（～避難所）
- 情報6

避難所の開設情報、保有設備・備品の情報

参加者全員が有効と回答した情報

情報 1 安否確認・避難支援を開始するタイミング情報

【訓練】安否確認開始のお願い

★訓練です。現在、災害発生の恐れはありません。

ご担当の要支援者の居住地、もしくはその近隣に、警戒レベル3「高齢者等避難」が発令され、基礎自治体により要支援者の安否確認が開始されました。

下記のリンク（安否確認はこちら）をタップ（指で画面を軽く一度押して）頂き、支援可否の回答、安否確認のご協力をお願いします。

対象者の安否確認はこちら

避難行動支援
リンクを開くにはこちらをタップ

17:53

情報 6 避難所の開設情報、保有設備・備品の情報

多摩市立武道館

住所	東京都多摩市諏訪 4 - 9
開設有無	開設中
個室有無	☐
ベッド	☐
バリアフリー	☐
薬	A 薬、B 薬
施設の収容人数	20人
現在の避難者数	10人

案内を開始

支援に役立つ情報一例

参加者の多く（9割）が有効と回答した情報

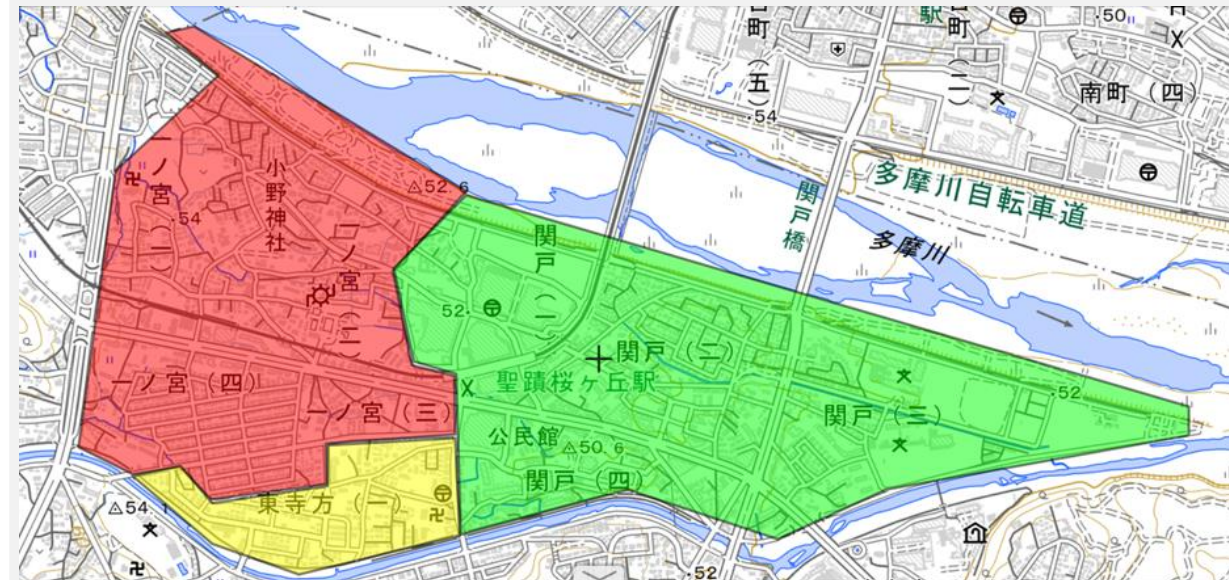
情報4・5 災害リスクの高い道路・エリア情報



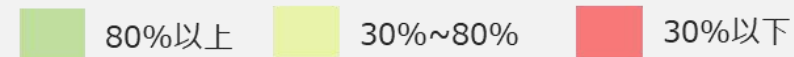
- ・出発地点
- ・到着地点
- ・ハザードマップ情報
- ・冠水地域・箇所（履歴）
- ・通行止め道路情報（災害時）
- ・訪問/避難経路（計画時）

参加者の半数が有効と回答した情報

情報2 地域にいる支援者の支援可否の回答割合



支援可否を登録した割合



実証参加者・
属性

多摩市様の災害時応援協定締結事業者：3社
(社会福祉法人、バス会社、タクシー会社)

1



災害時における
協定事業者の
動きを整理

2



システム活用による避難移動支援の効率化を
議論

3



避難移動支援
に必要なデータを
明確化

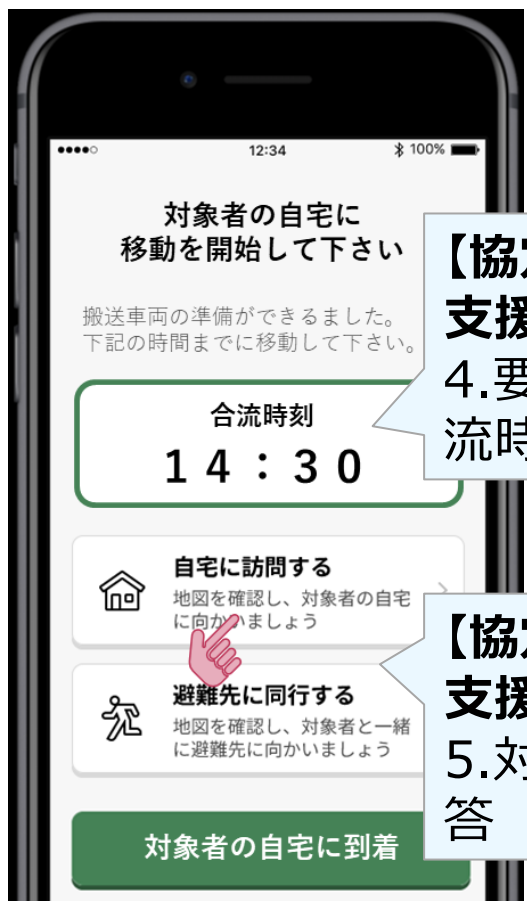
上記①～③を各協定事業者と2時間×3回の打合せの中で実施

支援者・協定事業者・行政職員が共通で使用できる
システムをデモとして用意し、議論しました

使用したシステムデモイメージ ※利用できる画面は、支援者・協定事業者・行政職員で異なります



【協定事業者利用画面】
1.車輦の拠出可否を回答



【協定事業者/支援者利用画面】
4.要支援者宅への合流時間を確認

【協定事業者/支援者利用画面】
5.対応ステータスを回答

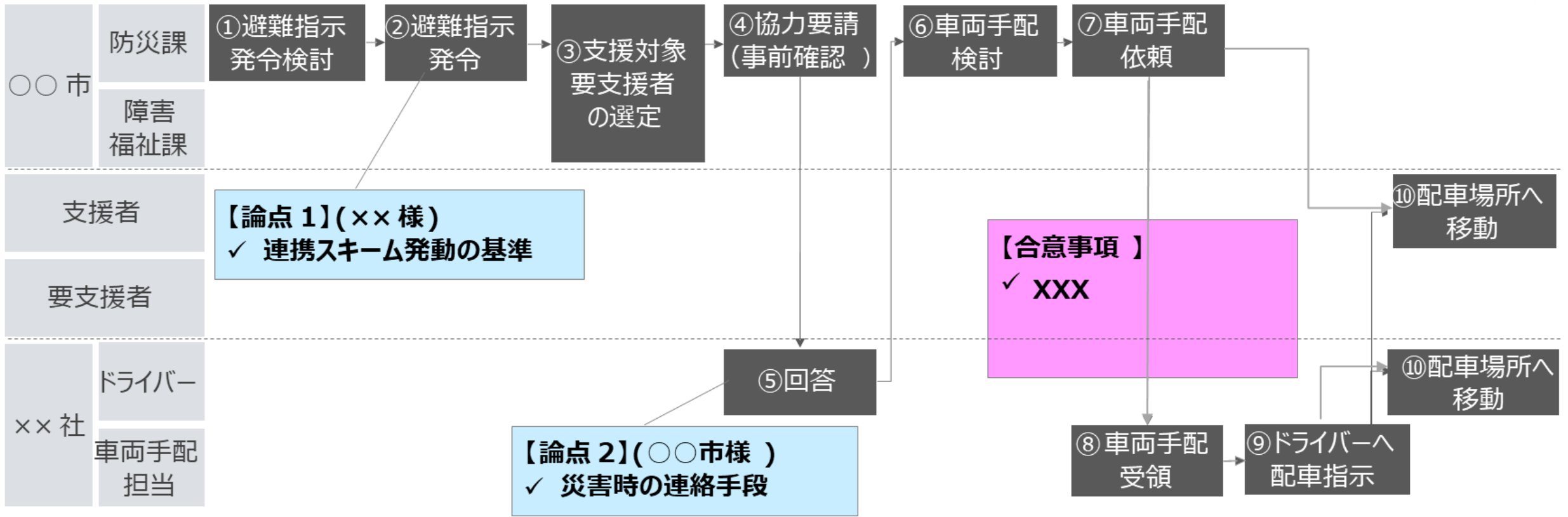
災害時における要支援者の移動に関する連携スキーム検証（成果）

協定事業者との議論を通じ、
災害時の車両抛出の連携フローを明確にすることができました

連携フロー（アウトプットイメージ）

避難指示発出前

高齢者等避難指示（避難レベル3）



協定事業者との議論を通じ、災害時の車両抛出を実現させるために
必要な論点を明確にすることができました

論点一覧（アウトプットイメージ）

#	論点	要望主体	連携フロー 対応箇所	要望	現状	解決の方向性
1	連携スキーム発 動の基準	××様	①高齢者等避難 発令検討	✓XXXX	✓XXX	✓XXXXXXXXXX
2	災害時の連絡 手段	〇〇市 様	④協力要請 ～⑧車両手配受 領	✓XXXX	✓XXX	✓XXXXXXXXXX

災害時における要支援者の移動に関する連携スキーム検証（成果）

協定事業者との議論を通じ、
災害時の車両抛出を実現させるために必要なデータを明確にできました

災害情報関連データ
└ 最新の避難指示情報
（発令状況）

道路関連データ
└ 通行止め区間
（過去・リアルタイム）
└ 冠水情報
（過去・リアルタイム）

冠水情報（過去）の詳細（例）
✓ 冠水注意地点
✓ 過去冠水した災害情報
✓ 冠水レベル（何cm等）
✓ 冠水時間（XX時～YY時まで）

要支援者関連データ
└ 氏名・住所
└ 要介護度
└ 車いす使用状況

**協定事業者の
車両関連データ**
└ 車両種類ごとの提供
可能台数、収容人数
└ 車両位置
（リアルタイム）

各データは以下項目で詳細整理を実施

内容の
詳細

いつ

頻度

誰から・
誰に

どうやって

実証参加者・
属性

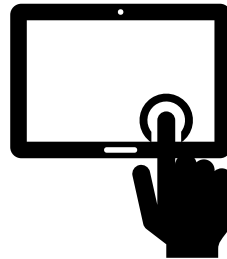
江戸川区在住の一般市民 43名（40代～90代）

1



事前アンケート

2



オンライン
宿泊予約体験

3



事後アンケート

1

宿泊先は自治体と事前協議したエリアに限定

└今回はハザードマップ浸水深0.5m未満のエリアに限定

2

宿泊先の位置情報×ハザードマップをホテルページに掲載

└ホテルの詳細ページから安全情報が1クリックで確認可能

3

自治体ニーズに合わせたカスタマイズ性

└平時には通常のホテル予約サイトとして利用可能
自治体の独自制度や情報リンクも掲載
自治体専用サイトとして案内可能

☐ 条件から探す（1都3県都市部限定）

宿泊地

東京

都市を選んでください

宿泊日

都市を選んでください

一室当たりの人

おとな(男)

こども

部屋数

A都市（対象外）

B都市

C都市

D都市

E都市（対象外）

F都市

☐ 人気エリア・キーワード

バリアフリールーム

駅近のホテル

コネクティングルーム

ファミリー

温泉

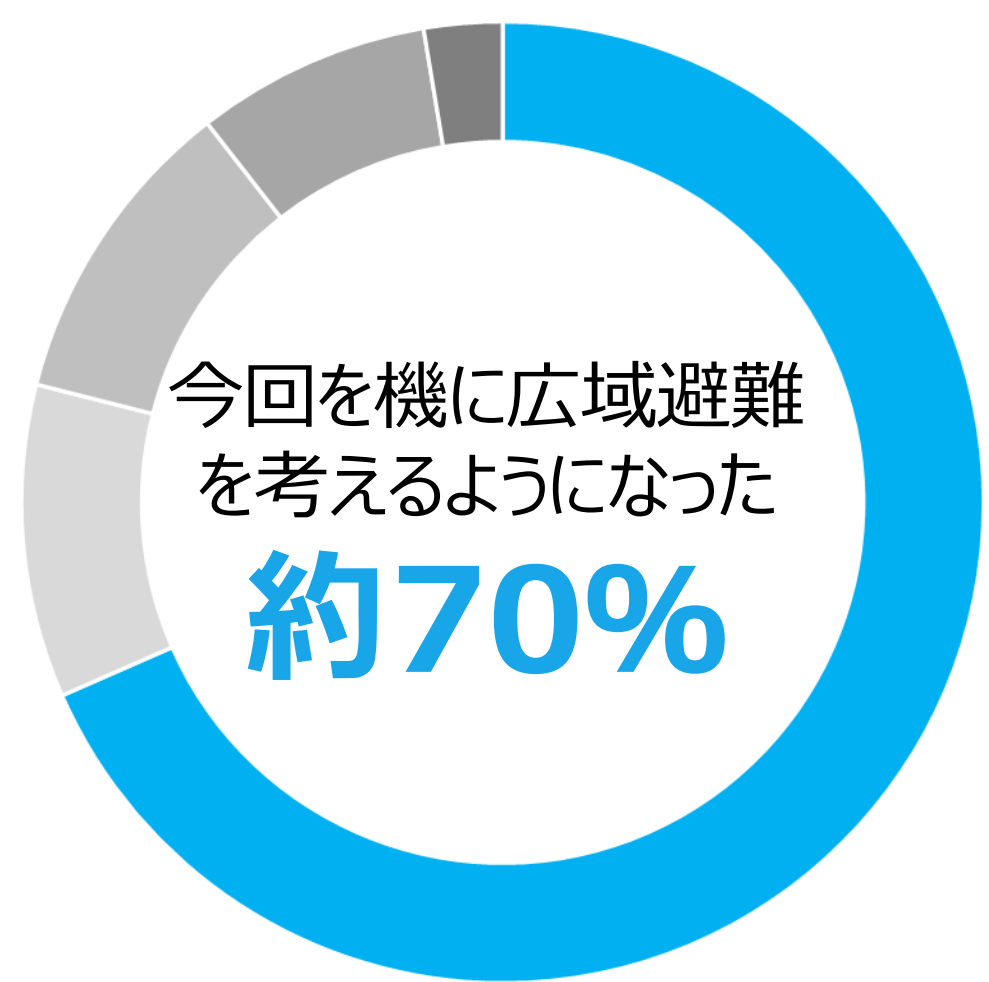
ペット

ハイクラス

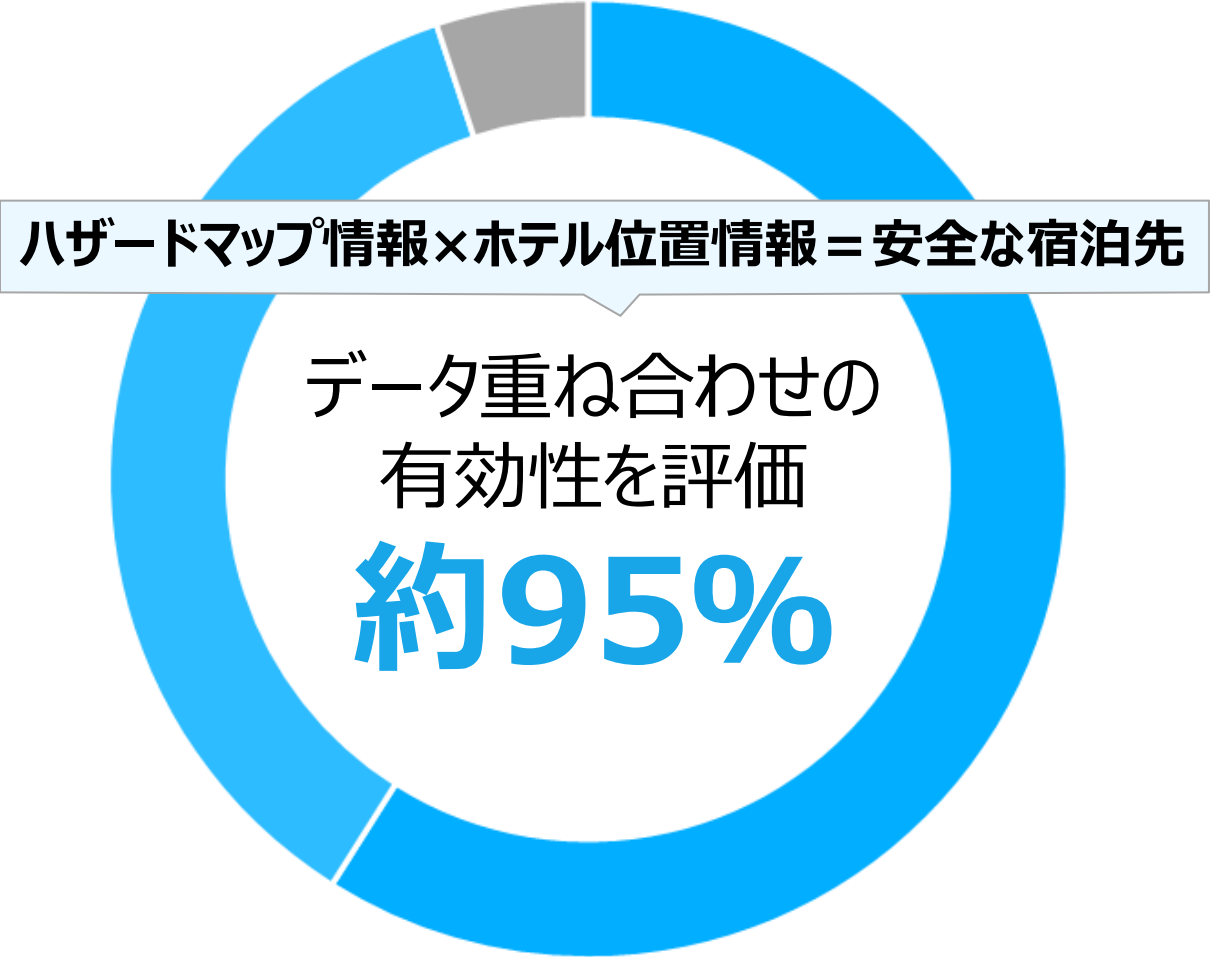
江戸川区から1時間以内

※実証のためダミーデータを使用しております

参加者の広域避難の意義理解が得られ、
データを掛け合わせた新しい宿泊先予約サイトの有効性が確認できました



* 避難発令が出た場合このサイトをつかって広域避難しようと思うか、という質問に対し「今回の体験会を機に広域避難を考えるようになった」と回答した割合(無効回答を除く)



* サイト上で被害が想定される地域の予約ができない仕組みについて、「非常に良い」「良い」と回答した割合(無効回答を除く)

今年度の成果__各実証の成果一覧

今年度実証の各取組が、要配慮者の避難支援における
基礎自治体の課題解決の一助に繋がることが確認できました

対象	要支援者				要配慮者
避難支援 プロセス ※基礎自治体目線	個別避難計画 作成	安否確認	避難移動 (支援者連携)	避難移動 (協定事業者連携)	避難意思
	実証1	実証2	実証3	実証4	実証5
目指す 成果	道路関連データの活用が安全な避難ルート作成に繋がることが確認	要支援者に対する迅速なフォローに繋がれることを確認	支援に必要な複数データの一元的提示が支援のしやすさに繋がることが確認	災害時の車両抛出現を現実させるために必要となるデータ連携・スキームを明確化	安全な宿泊先を予約できる方法があることが広域避難の動機づけとなることを確認
結果	 ✓ 道路関連情報が個別避難計画作成に有益なデータであることが確認できた (約97%が有効と回答)	 ✓ システムを活用した安否確認を行うことで、電話での安否確認に比べ約84%業務時間が削減されることが確認できた	 ✓ 支援の各フェーズで適切なデータを提示することが支援のしやすさに繋がることが確認できた	 ✓ 災害時の車両抛出現を現実させるために必要となるスキーム・データを明確化ができた	 ✓ 約95%がデータの掛け合わせをしたサイトを高評価 ✓ 本実証を契機に広域避難を考えるようになった人が約70%

今年度の成果_TDPFへの還元データ活用イメージ（1/2）

要配慮者の避難支援に必要なデータ項目に関する情報を還元します
既存データの利活用促進、新たなデータ蓄積検討に活用いただける想定です

還元データ

データ項目一覧



掲載情報

- ✓ データ分類
- ✓ データの詳細
- ✓ 活用すべきタイミング
- ✓ 必要性
(必須かどうかの評価)

活用イメージ

【自治体】

- ✓ 既にデータがあれば避難支援の改善のために活用
- ✓ 蓄積が必要なデータの把握

【民間企業】

- ✓ 保持データの提供促進・商用化検討

【参考】「データ項目一覧」のイメージ（一部）

大分類	中分類	小分類	避難支援プロセスごとのデータ必要有無（一部プロセスに絞って記載）			必須性
			個別避難計画作成	避難移動（支援者連携）	避難移動(協定事業者連携)	
道路関連データ（リアルタイム情報）	冠水情報	冠水地点		○	○	必須
		冠水レベル（何cm等）			○	
		今後の冠水想定			○	
	道路通行情報	通行止め区間		○	○	必須
		混雑状況			○	
道路関連データ（過去情報）	冠水情報	冠水地点	○	○	○	必須
		冠水レベル（何cm等）			○	
		冠水時間（何時から何時まで）			○	
	道路通行情報	通行止め区間	○	○	○	必須
道路関連データ（その他）	一方通行の道路情報	－			○	
	避難のしやすさに関する道路情報	段差の有無等、車イスが通れるかどうか判断できる情報	○			

今年度の成果_TDPFへの還元データ活用イメージ（2/2）

実証内容に関するヒアリング・アンケート結果を共有します
新サービス開発の参考等に活用いただける想定です

還元データ

ヒアリング・アンケート結果



回答者の
属性

- ✓ 実証フィールドの自治体
- ✓ 実証フィールド以外の自治体
- ✓ 実証参加者

活用イメージ

【自治体】

- ✓ 優先対応事項の選別に活用

【民間企業】

- ✓ 新サービス開発の参考として活用
- ✓ TDPF会員間での協業のきっかけとして活用

1.プロジェクトの概要

2.今年度の目指す成果

3.今年度の取組と成果

4.まとめ・今後の展望

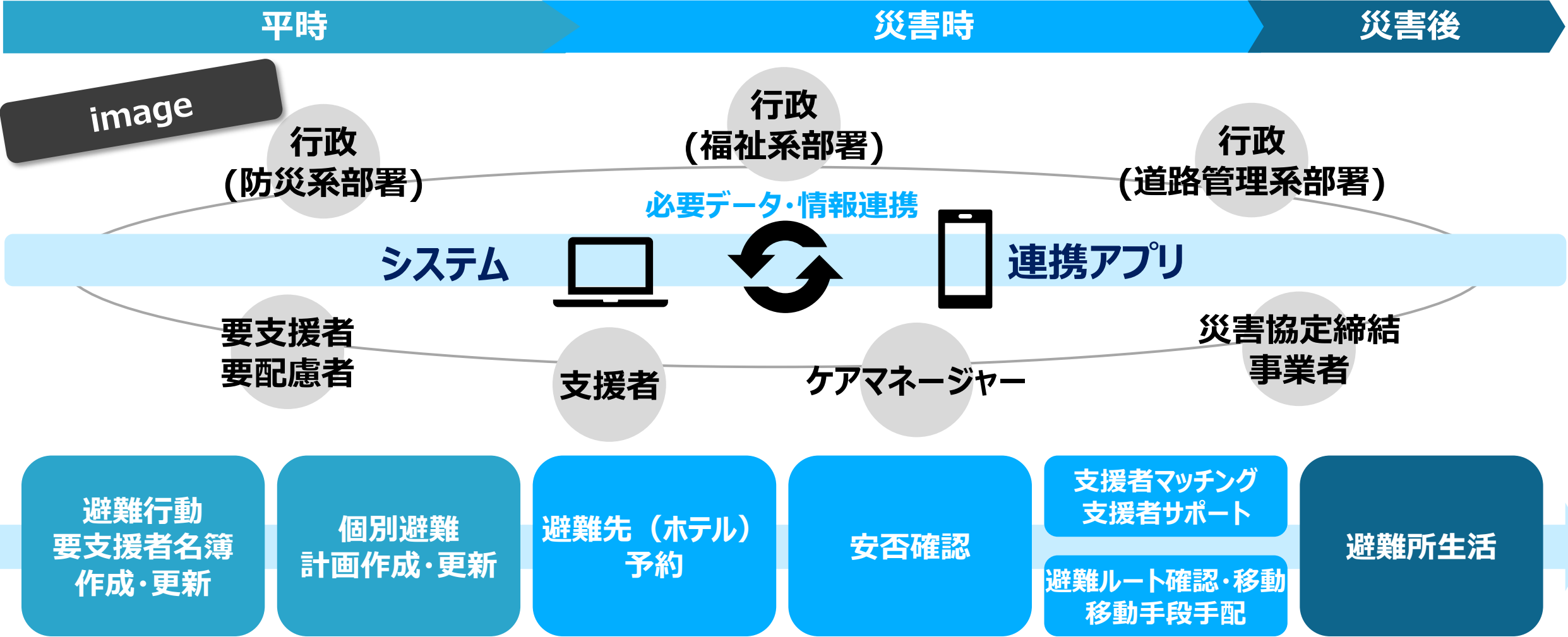
【再掲】課題解決に向けた取組の全体像

要配慮者の避難支援におけるあるべき姿の実現に向けて、
実証1～5を実施しました

対象	要支援者				要配慮者
避難支援 プロセス ※基礎自治体目線	個別避難計画 作成	安否確認	避難移動 (支援者連携)	避難移動 (協定事業者連携)	避難意思
基礎自治体 が抱える 課題例	実証1 計画時に決めた 避難ルート通りに 避難ができない	実証2 安否確認に時間 を要することで迅 速なフォローがで きない	実証3 要支援者の災害 時支援に不安 ※支援者目線	実証4 災害時の車両抛 出の具体的な連 携方法が定めら れていない	実証5 大規模な水害が 予測されても、避 難を躊躇する ※住民目線
あるべき姿	個別避難計画書 の実効性が担保 される	安否確認が取れ ていない要支援 者へ迅速なフォロ ーを実現する	要支援者支援に 必要な情報を提 供し、支援の心 理的ハードルが下 がる	災害時における 連携方法が明確 化され、実行でき る状態になってい る	要配慮者の事前 避難を促進
プロセス間でのシームレスなデータ連携・データを活用した高度化を実現					
データの共通化・システム連携を通じて、要配慮者避難支援における全体最適を実現					

全体総括_最終的にあるべき姿（イメージ）

避難支援プロセス全体で検討・連携を行い、関係者間でフェーズフリー且つシームレスに連携できるシステムやアプリを構築していく必要があると考えます



全体総括__今年度実証を通じて見えたこと

今年度実証を通じて、前頁「最終的にあるべき姿」を実現するためには
「**共通データの活用**」および「**関係者連携**」が重要だと認識しました

「共通データの活用」に関する気づき

- ✓ 各プロセスで必要なデータは共通しているものもある
(例：道路関連データ)

過去災害時の
通行止め情報

過去災害時の
冠水情報...

- ✓ 避難支援時(災害時)にニーズが高いデータは個別避難計画作成時(平時)から盛り込んでおく必要がある
(例：要支援者関連データ)

玄関位置

支援において
気を付けること・・・

「関係者連携」に関する気づき

- ✓ プロセス全体での横断検討が肝要だが、
関係者が多岐にわたり、連携が難しい

【避難支援における関係者イメージ】

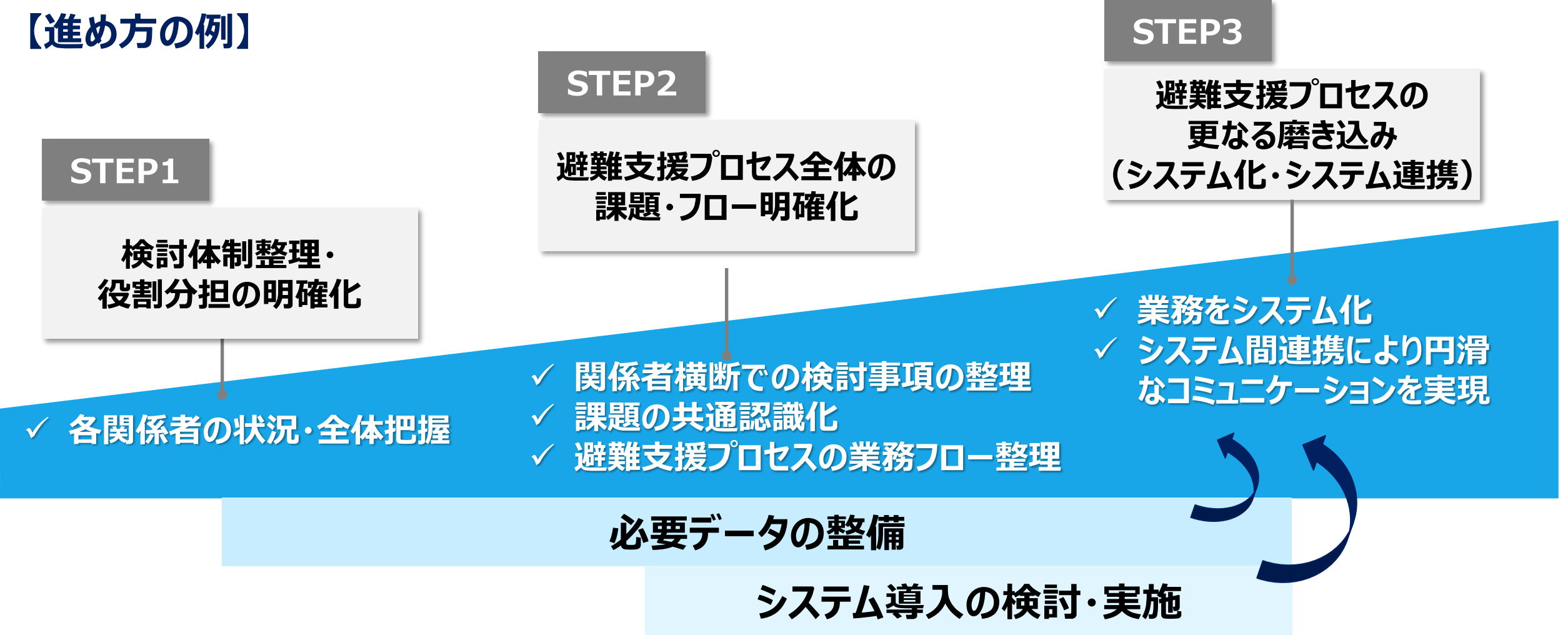


（連携の難しさの例）
災害時の避難支援において、日頃接点のない、要支援者・支援者と災害協定締結事業者が連携しなければならない

全体総括__最終的にあるべき姿に向けた進め方（例）

体制・業務整理と並行して、今年度実証で明確にした必要データの情報を参考にデータ整備に早期着手することが重要だと考えます

【進め方の例】



複数の避難支援プロセスで必要となる、
通行止め情報や冠水情報(過去情報)を優先的に整備する必要があります

： ハザードマップ情報・警報情報・要支援者情報等、既存業務で整備している情報以外で、優先的に整備を進めた方が良いと考えられる情報

データ 分類	データ概要（一例）	避難支援プロセスごとのデータ必要有無（一部プロセスに絞って記載）		
		個別避難計画作成	避難移動（支援者連携）	避難移動（協定事業者連携）
災害	ハザードマップ情報	○	○	○
	最新の避難指示情報		○	○
避難先	避難所位置・設備	○	○	○
道路	通行止め情報（過去）	○	○	○
	通行止め情報（リアルタイム）		○	○
	冠水情報（過去情報）	○	○	○
	冠水情報（リアルタイム）		○	○
要支援者	住所	○	○	○
協定事業者 の車両	車両位置（リアルタイム）		○	○
	提供可能な車種・台数		○	○

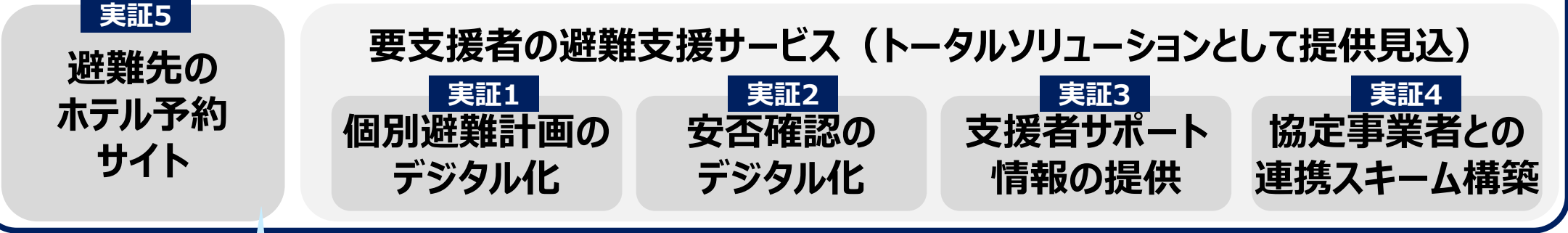
全体総括__早期に提供が可能なサービス・今後の展望

基礎自治体向けに要配慮者の避難支援に関わるサービスの提供が可能です
一部サービスの実装を進めながら、今後更なる改善・開発を行います

凡例： 今回の実証で活用したサービスで早期に提供が可能なもの 今回の実証で活用していないサービスで早期に提供が可能なもの



今年度事業の対象ソリューション
今年度事業の検証結果をもとに機能改善を実施



更なるサービス開発



更なるサービス開発

TDPFの皆様とも連携してサービス実装・開発を推進できると幸いです

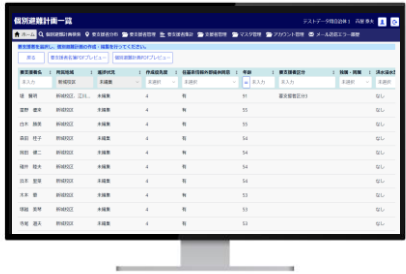
To Be a Good Company

Appendix

「個別避難計画のオンライン作成サービス」の提供が可能です
実証結果やニーズ調査を踏まえ、データの掛け合わせ機能の追加を検討します

職員向け機能

地域関係者向け機能



自治体職員



ケアマネ



支援者
(家族等)

避難行動要支援者名簿管理

住基や障がい、介護などの情報を取込、避難行動要支援者名簿の管理が可能です。

作成優先度設定

ハザードマップを参照しながら、年齢や等級などを条件に作成対象者の優先度設定も可能です。

個別避難計画オンライン作成

庁舎外からタブレット等を利用して、避難に係わる情報の入力・更新を手間をかけずに簡単に可能です。

避難経路図作成

避難経路を自動作成可能です。ハザードエリアなどを考慮して手で避難経路を編集も可能です。

* サービスの詳細については、自治体様と様とすり合わせて決定いたします

「共助を促進する安否確認サービス」の提供が可能です
実証結果やニーズ調査を踏まえ、安否確認を効率化する機能を検討します



ケアマネ



支援者
(家族等)



安否状況の登録・共有システム



自治体職員

氏名	KKK T1	KKK T2	安否状況 T1	支援者 T1	支援可否 T1	所属地域 T1
B校区要支援者25	□		未確認	B校区要支援者09	未回答	B校区
B校区要支援者26			未確認	B校区要支援者09	支援不可	B校区
B校区要支援者27	□	○	待機中	B校区要支援者09	支援可	B校区
B校区要支援者28		○	待機中	B校区要支援者09	支援可	B校区
B校区要支援者29			待機中	支援者未定	-	B校区
C校区要支援者01		○	待機中	C校区要支援者01	未回答	C校区
C校区要支援者02			待機中	C校区要支援者01	未回答	C校区
C校区要支援者03	□		待機中	C校区要支援者01	支援不可	C校区
C校区要支援者04			待機中	C校区要支援者01	支援可	C校区
C校区要支援者05			待機中	C校区要支援者01	支援可	C校区
C校区要支援者06		○	待機中	C校区要支援者01	支援可	C校区

- ✓ アプリで必要な情報を閲覧し安否確認・避難支援の結果を登録
- ✓ 支援状況はリアルタイムに関係者に共有が可能です

* サービスの詳細については、自治体様と様とすり合わせて決定いたします

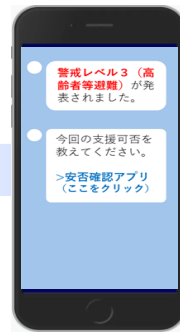
「支援者へのプッシュ通知サービス」の提供が可能です
実証結果やニーズ調査を踏まえ、支援者へ提示する情報の提示を検討します



自治体職員



警戒レベル3
（高齢者等避難）の発令



SNSへ
プッシュ通知
（自治体公式LINE）



災害時情報参照・登録機能
要支援者の電話番号の表示、
避難所までの地図など現地で何をすべきかを案内
安否状況、メモ情報を登録可能です



ケアマネ



支援者
（家族等）

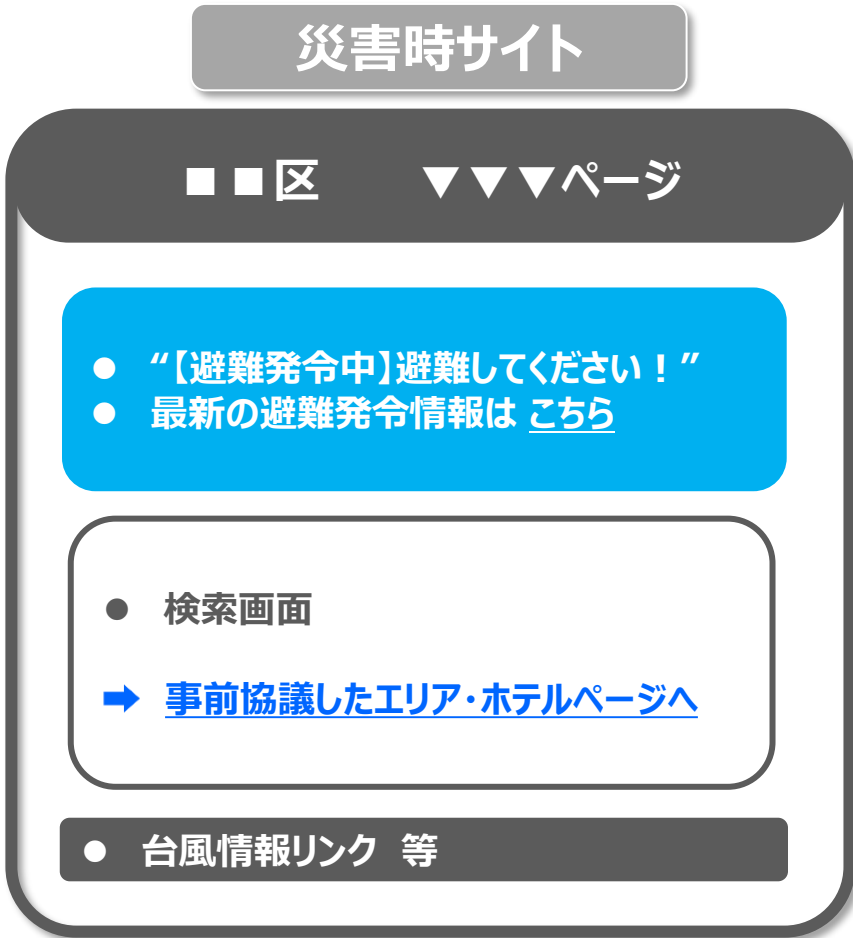
* サービスの詳細については、自治体様と様とすり合わせて決定いたします

「連携スキームの検討コンサルティングサービス」の提供が可能です
実証の結果やニーズ調査を踏まえ、システム化を検討します



* サービスの詳細については、自治体様と様とすり合わせて決定いたします

「災害情報を加味した宿泊先予約サイト」のサービスを提供可能です
実証の結果やニーズ調査を踏まえ、データの掛け合わせ機能追加を検討します



* サービスの詳細については、自治体様と様とすり合わせて決定いたします

To Be a Good Company